

平成 27 年度 医療情報学科 シラバス目次

| | |
|-------------------------------------------|----|
| 基礎教養ゼミ（教養基礎） | 1 |
| 日本語表現法（教養基礎） | 2 |
| 日本国憲法（教養基礎） | 3 |
| 法学（教養基礎） | 4 |
| 経済学（教養基礎） | 5 |
| 社会学（教養基礎） | 6 |
| 生涯健康論（教養基礎） | 7 |
| 生涯学習概論（教養基礎） | 9 |
| 生命と環境の科学（教養基礎） | 11 |
| 国際関係論（教養基礎） | 12 |
| 体育理論（教養基礎） | 14 |
| 体育実技（教養基礎） | 15 |
| キャリア形成論（教養基礎） | 17 |
| 哲学（人間理解） | 19 |
| 倫理学（人間理解） | 20 |
| 心理学（人間理解） | 21 |
| 文学と人間（人間理解） | 22 |
| 芸術論（人間理解） | 23 |
| ボランティア・市民活動論（人間理解） | 24 |
| 人権論（人間理解） | 26 |
| 人間関係論（人間理解） | 27 |
| ジェンダー論（人間理解） | 28 |
| 共生の倫理（人間理解） | 29 |
| チーム医療アプローチ論（人間理解） | 30 |
| 国際医療事情（人間理解） | 31 |
| Introduction to Healthcare Sciences（人間理解） | 33 |
| 英語ⅠA（リテラシー） | 35 |
| 英語ⅠB（リテラシー） | 36 |
| 英語ⅠC（リテラシー） | 37 |
| 英語ⅡA（リテラシー） | 38 |
| 英語ⅡB（リテラシー） | 39 |
| 英語ⅡC（リテラシー） | 40 |
| 英語ⅢA（リテラシー） | 41 |
| 英語ⅢB（リテラシー） | 42 |
| 英語ⅢC（リテラシー） | 43 |
| 英語ⅣA（リテラシー） | 44 |
| 英語ⅣB（リテラシー） | 45 |
| 英語ⅣC（リテラシー） | 46 |
| Integrated EnglishⅠ（リテラシー） | 47 |
| Integrated EnglishⅡ（リテラシー） | 48 |
| ドイツ語（リテラシー） | 49 |
| フランス語（リテラシー） | 50 |
| ポルトガル語（リテラシー） | 51 |
| 中国語（リテラシー） | 52 |
| ハンガール語（リテラシー） | 53 |

平成 27 年度 医療情報学科シラバス

| | |
|-----------------------------------|-----|
| コンピュータ入門Ⅰ（リテラシー） | 54 |
| コンピュータ入門Ⅱ（リテラシー） | 55 |
| コンピュータ実習Ⅰ（リテラシー） | 56 |
| コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー） | 57 |
| 世界の社会福祉発達史（専門教養科目） | 58 |
| 国際保健医療論（専門教養科目） | 59 |
| 世界の歴史と日本（専門教養科目） | 61 |
| 人間行動学（専門教養科目） | 62 |
| 健康運動実技（専門教養科目） | 63 |
| 宗教と倫理（専門教養科目） | 64 |
| レクリエーション論（専門教養科目） | 65 |
| 数学基礎Ⅰ（専門導入科目） | 67 |
| 数学基礎Ⅱ（専門導入科目） | 68 |
| 物理学基礎（専門導入科目） | 69 |
| 生物学基礎（専門導入科目） | 70 |
| 化学基礎（専門導入科目） | 71 |
| 医療概論（医学英語Ⅰ含む）（専門導入科目） | 73 |
| ソフトウェア入門（専門導入科目） | 74 |
| 情報通信ネットワーク概論（専門導入科目） | 75 |
| データベース概論（専門導入科目） | 76 |
| コミュニケーションメッセージ演習（専門導入科目） | 77 |
| 情報システム概論（専門導入科目） | 78 |
| Early Exposure（専門導入科目） | 79 |
| 医療経営論（専門導入科目） | 80 |
| 人体構造・機能論（専門基幹科目） | 81 |
| 臨床医学総論（専門基幹科目） | 83 |
| 臨床医学各論Ⅰ（感染症・寄生虫、血液）（専門基幹科目） | 84 |
| 臨床医学各論Ⅱ（新生物、代謝・内分泌）（専門基幹科目） | 85 |
| 臨床医学各論Ⅲ（循環器・呼吸器）（専門基幹科目） | 86 |
| 臨床医学各論Ⅳ（消化器・腎泌尿器、皮膚）（専門基幹科目） | 87 |
| 臨床医学各論Ⅴ（周産期、筋骨格）（専門基幹科目） | 88 |
| 臨床医学各論Ⅵ（精神・脳神経・感覚器、医学英語Ⅱ）（専門基幹科目） | 89 |
| 医療情報学概論（専門基幹科目） | 91 |
| 生体情報学Ⅰ（専門基幹科目） | 92 |
| 情報数学基礎（専門基幹科目） | 93 |
| 応用数学（専門基幹科目） | 94 |
| 情報システム各論（専門基幹科目） | 95 |
| プログラミングⅠ（Cプログラミング基礎）（専門基幹科目） | 96 |
| プログラミングⅡ（Cプログラミング実用）（専門基幹科目） | 97 |
| プログラミングⅢ（Cプログラミング応用）（専門基幹科目） | 98 |
| プログラミングⅣ（Windowsプログラミング）（専門基幹科目） | 99 |
| ソフトウェアⅠ（専門基幹科目） | 100 |
| ソフトウェアⅡ（専門基幹科目） | 101 |
| WebプログラミングⅠ（HTML、CSS）（専門基幹科目） | 102 |
| WebプログラミングⅡ（JavaScript）（専門基幹科目） | 103 |
| 情報処理演習Ⅰ（専門基幹科目） | 104 |
| アルゴリズムとデータ構造（専門基幹科目） | 105 |
| マルチメディア入門（専門基幹科目） | 106 |
| 情報管理概論（専門基幹科目） | 107 |

| | |
|-------------------------------------|-----|
| 医療管理総論（専門展開科目） | 108 |
| 医療管理各論（専門展開科目） | 109 |
| 診療情報管理論（専門展開科目） | 110 |
| 医療情報学各論（専門展開科目） | 111 |
| 医療統計学（専門展開科目） | 112 |
| 医療統計学演習（専門展開科目） | 113 |
| 生体情報学Ⅱ（専門展開科目） | 114 |
| 分類法総論（専門展開科目） | 115 |
| 分類法演習Ⅰ（専門展開科目） | 116 |
| 分類法演習Ⅱ（専門展開科目） | 117 |
| 診療情報管理ゼミ（専門展開科目） | 118 |
| 医療事務論Ⅰ（医療事務の基礎知識）（専門展開科目） | 119 |
| 医療事務論Ⅱ（点数計算とレセプトの書き方Ⅰ）（専門展開科目） | 120 |
| 医療事務論Ⅲ（点数計算とレセプトの書き方Ⅱ）（専門展開科目） | 121 |
| 医療事務論Ⅳ（公費負担医療他、総合演習）（専門展開科目） | 122 |
| 診療報酬請求事務論Ⅰ（専門展開科目） | 123 |
| 診療報酬請求事務論Ⅱ（専門展開科目） | 124 |
| 医療経済学（専門展開科目） | 125 |
| ソフトウェア工学（専門展開科目） | 126 |
| インターネット概論（専門展開科目） | 127 |
| 社会生活とネットワーク（専門展開科目） | 128 |
| デジタル信号処理（専門展開科目） | 129 |
| 画像情報処理（専門展開科目） | 130 |
| 電子情報工学基礎（専門展開科目） | 131 |
| シミュレーション概論（専門展開科目） | 132 |
| 計測と制御（専門展開科目） | 133 |
| 情報と職業（専門展開科目） | 134 |
| 情報処理演習Ⅱ（専門展開科目） | 135 |
| Web プログラミングⅢ（サーバサイドプログラミング）（専門展開科目） | 136 |
| Web デザインⅠ（専門展開科目） | 137 |
| Web デザインⅡ（専門展開科目） | 138 |
| オブジェクトプログラミングⅠ（専門展開科目） | 139 |
| オブジェクトプログラミングⅡ（専門展開科目） | 140 |
| 病院実習（応用展開科目） | 141 |
| インターンシップ（応用展開科目） | 142 |
| キャリアデザイン演習（応用展開科目） | 143 |
| 特別ゼミⅠ（情報）（応用展開科目） | 145 |
| 特別ゼミⅠ（医療）（応用展開科目） | 146 |
| 特別ゼミⅡ（情報）（応用展開科目） | 147 |
| 特別ゼミⅡ（医療）（応用展開科目） | 148 |
| 特別ゼミⅢ（情報）（応用展開科目） | 149 |
| 特別ゼミⅢ（医療）（応用展開科目） | 150 |
| 特別ゼミⅣ（情報）（応用展開科目） | 151 |
| 特別ゼミⅣ（医療）（応用展開科目） | 152 |
| SPI 講座Ⅰ（非言語能力Ⅰ）（応用展開科目） | 153 |
| SPI 講座Ⅱ（非言語能力Ⅱ）（応用展開科目） | 154 |
| SPI 講座Ⅲ（言語能力Ⅰ）（応用展開科目） | 155 |
| SPI 講座Ⅳ（言語能力Ⅱ）（応用展開科目） | 156 |
| 医療情報ゼミ（応用展開科目） | 157 |

| | |
|----------------------------|-----|
| 医療情報学総合演習（応用展開科目） | 158 |
| 卒業研究（卒業研究） | 159 |
| 教師論（教職関係科目） | 160 |
| 教育心理学（教職関係科目） | 161 |
| 特別活動論（教職関係科目） | 162 |
| 教育基礎論（教職関係科目） | 164 |
| 教育制度論（教職関係科目） | 165 |
| 情報科教育法（教職関係科目） | 166 |
| 生徒指導論（教職関係科目） | 168 |
| 進路指導論（教職関係科目） | 169 |
| 教育相談（教職関係科目） | 170 |
| 教職指導Ⅰ（教職関係科目） | 172 |
| 教職指導Ⅱ（教職関係科目） | 173 |
| 高等学校教育実習（教職関係科目） | 174 |
| 教職実践演習（高）（教職関係科目） | 175 |
| 生涯学習社会と図書館（司書科目） | 177 |
| 図書館概論（司書科目） | 178 |
| 図書館制度・経営論（司書科目） | 179 |
| 図書館情報技術論（司書科目） | 180 |
| 図書館サービス概論（司書科目） | 181 |
| 情報サービス論（司書科目） | 182 |
| 児童サービス論（司書科目） | 184 |
| 情報サービス演習（司書科目） | 186 |
| 図書館情報資源概論（司書科目） | 188 |
| 情報資源組織論（司書科目） | 189 |
| 情報資源組織演習（司書科目） | 190 |
| 図書館サービス特論（司書科目） | 192 |
| 図書館情報資源特論（司書科目） | 193 |
| 学校経営と学校図書館（司書教諭科目） | 194 |
| 学校図書館メディアの構成（司書教諭科目） | 195 |
| 学習指導と学校図書館（司書教諭科目） | 196 |
| 読書と豊かな人間性（司書教諭科目） | 197 |
| 情報メディアの活用（司書教諭科目） | 198 |

基礎教養ゼミ（教養基礎）

担当者

案田順子、町田修三、内田幸子、小泉英明

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

「生徒」から「学生」へと、短期間で意識改革を要求される大学生活。入学直後からの「とまどい」を払拭し大学生活を充実させるために、学習方法の修得、大学生活の心得と改善の理解、さらには将来へのキャリアデザインの構築を図る。

到達目標

大学初年次生としての基礎的な学習方法を実践でき、発展的自己学習方法を目指すことができる。基礎学力確認試験を通じ、自分の現時点での実力を確認でき、自己学習の方向性を具体的に把握できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 大学で何を学ぶか（意義と目的）
- 第 2 回 書くためのスキルⅠ（ノートテキング）
- 第 3 回 大学生としての自覚と認識Ⅰ（学びの意味）
- 第 4 回 コミュニケーションスキルⅠ（ディベート）
- 第 5 回 コミュニケーションスキルⅡ（敬語法）
- 第 6 回 大学生としての自覚と認識Ⅱ（社会を見つめる）
- 第 7 回 書くためのスキルⅡ（レポート作成法）
- 第 8 回 大学生としての自覚と認識Ⅲ（安全教育）
- 第 9 回 コミュニケーションスキルⅢ（プレゼンテーション）
- 第10回 書くためのスキルⅢ（文章作成法）
- 第11回 コミュニケーションスキルⅣ（自己紹介・他者紹介）
- 第12回 大学生としての自覚と認識Ⅳ（友人・教員との関係）
- 第13回 大学生としての自覚と認識Ⅴ（薬物・飲酒）
- 第14回 大学生としての自覚と認識Ⅵ（キャリアデザイン）
- 第15回 基礎学力確認試験（文章読解・数的理解）・解説

評価方法

授業参加度 20%、学期末筆記試験 80%で総合的に評価する。詳しい評価基準は該当授業時に提示する。

使用教材

使用教材は、授業時に各担当教員から配布する。

授業外学習の内容

毎回異なるテーマで教員も入れ替わるが、同一教員のプリントはまとめてファイルしておくこと。

備考

受講ルール：私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁とする。

キーワード：「初年次生」「学習方法」「学習意欲」

学習上の助言：大学生活での「不安」を「解消」するために多方面から指導するので、たとえ眠くなっても眠ってはいられないでしょう。

日本語表現法（教養基礎）

担当者

案田 順子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

日本人の極端な日本語能力の低下が問題視されている中で、主に「書きことば」における表現力を向上させるために、まず自分の「考え」をまとめ「書く」に至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と、生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、「考え」をいかに「文章化」するかを修得する。

到達目標

日本語の基礎的知識を、表現・文法・語彙の三側面から把握し、活用することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 「考え」をまとめるための 5 段階
- 第 2 回 日本語表現の基礎知識Ⅰ 「公的」と「私的」
- 第 3 回 日本語表現の基礎知識Ⅱ 慣用句
- 第 4 回 日本語表現の基礎知識Ⅲ ことわざ・故事成語
- 第 5 回 日本語表現の基礎知識Ⅳ 四字熟語
- 第 6 回 日本語表現の基礎知識Ⅴ 比喩法
- 第 7 回 日本語表現のミスⅠ 主述関係
- 第 8 回 日本語表現のミスⅡ 修飾語・被修飾語
- 第 9 回 日本語表現のミスⅢ 重複表現
- 第 10 回 日本語表現のミスⅣ 副詞の誤用
- 第 11 回 日本語表現のミスⅤ 助詞の誤用
- 第 12 回 文章の組み立て方Ⅰ 起承転結
- 第 13 回 文章の組み立て方Ⅱ 5W1H
- 第 14 回 文章の組み立て方Ⅲ キーワード・キーセンテンス
- 第 15 回 文章の組み立て方Ⅳ 字数制限

評価方法

筆記試験（80%）・漢字テスト（10%）・授業参加度（10%）によって、総合的に評価する。評価方法の基準については、講義時に通達する。

使用教材

『文章表現テクニック』（教育弘報研究所）…漢字テストは、左記教材の付録 2・3 から出す。

授業外学習の内容

自ら学ぶ姿勢を身につけるため、次回の授業までにノート整理を行っておくこと。

備考

受講ルール：私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁とする。

キーワード：「日本語」「自己表現」「基礎知識」「再確認」

学習上の助言：「日本語」の基礎を再確認し、実力をつけるラストチャンスと考え、授業には積極的に、しかしながら謙虚な姿勢で参加するように。担当者メールアドレス：janda@takasaki-u.ac.jp

日本国憲法（教養基礎）

担当者

金井 洋行

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

憲法に関する基本的な知識を習得することを目的とするが、特に社会人として要求される価値規範意識を醸成する。身近な生活の中から人権の保護や社会への参加の問題を探り出し、憲法上の課題を理解する

到達目標

- ・憲法が解決すべき紛争について、その歴史的・社会的背景を認識できる。
- ・政治の世界で起きるでき事について。具体的な憲法規定と結びつけられる。
- ・憲法学習を通じて、市民相互間のあり方と公的部門のあり方を考察できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 憲法とは何か ①憲法学習の意義②憲法の本質
- 第 2 回 国家・国民・政府－憲法を構成する基本要素の内容
- 第 3 回 日本国憲法の制定 ①日本国憲法の制定の経緯②日本国憲法の特徴
- 第 4 回 日本国憲法の理念 ①日本国憲法の全体構造②基本的人権の保障と統治機構の関係
- 第 5 回 基本的人権の本質 ①基本的人権の意味②人権の享有主体
- 第 6 回 個人主義と幸福追求権 ①個人主義の意味②人間の人格的権利の特徴
- 第 7 回 法の下での平等 ①平等の法的意味②合理的区別の問題点
- 第 8 回 精神的自由権 ①人間の精神活動の法的意味②報道の自由の課題
- 第 9 回 経済的自由権 ①人間の経済活動の法的意味②経済規制の立法の課題
- 第10回 社会権と教育権①文化的に生きる権利の意味②教育を受ける権利と学習権
- 第11回 国会と立法 ①国会の特徴②法律を制定することの意味
- 第12回 内閣と行政 ①内閣と内閣総理大臣の特徴②行政活動の統制
- 第13回 裁判所と司法 ①裁判所の構成と機能②司法権の意義と限界
- 第14回 民主制の選挙 ①民主主義の本質②選挙制度の問題点
- 第15回 憲法改正と憲法保障 ①憲法改正の手續と限界②憲法を守るための理念と制度

評価方法

授業に対する姿勢（30%） 期末試験（知識と思考の審査）（70%）

使用教材

『アトラス法学憲法』金井洋行その他

授業外学習の内容

- ・テキスト内の演習課題は必ず行うこと。レジュメ次回「考えてみよう」を行っておくこと。

備考

法学（教養基礎）

担当者

金井 洋行

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

法の存在意義を法が権利と義務の変動の関係を規律しているという観点から理解する。法律関係の基本的システムを習得し、社会生活を営む者に要求される法規範意識を身に付ける。

到達目標

- ・身近に生じる生活上の課題から派生する法的問題を探ることができる。
- ・法的問題を解決するための法制度や法解釈の基礎を理解できる。
- ・法の仕組みや解釈の手法を通して、社会人としてのものの考え方ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 法とは何か ①法の意義②法の機能
第 2 回 成人と法 ①人間の年齢の法的意味②人間の能力の法的意味
第 3 回 就職と法 ①採用の法的意味②選定の法的問題
第 4 回 労働と法 ①労働契約の法的意味②労働条件の保護の課題
第 5 回 結婚と法 ①婚姻の要件と障害②夫婦の権利義務関係
第 6 回 親子と法 その 1①子の出産をめぐる法律問題②親子関係の形成—嫡出性の問題
第 7 回 親子と法 その 2①親権関係②扶養関係
第 8 回 教育と法 ①義務教育の意義②就学過程において生じる法律問題
第 9 回 社会活動と法 ①社会生活上の団体の意味②団体生活において生じる法律問題
第10回 社会負担と法 ①租税や社会保険料の意味②公共生活上の法律問題
第11回 国際化と法 ①出入国の管理②涉外事件における法律問題
第12回 財産関係と法 ①物権取引において生じる法律問題②契約締結において生じる法律問題
第13回 犯罪と法 ①犯罪と刑罰の法的意味②科罰手続の問題
第14回 争い事と法 ①紛争の法的処理の方法②裁判の仕組み
第15回 老年期と法 ①老年期の介護と医療②人間の死の法的意味

評価方法

授業に対する姿勢を重視する。(30%) 期末試験 (知識と思考力の審査) (70%)

使用教材

『アトラス法学憲法』金井洋行その他著法学憲法

授業外学習の内容

テキスト内の演習課題は必ず行うこと。レジュメ次回「考えてみよう」を行っておくこと。

備考

経済学（教養基礎）

担当者

町田 修三

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、ほとんどの学生は十分な知識を持っていない。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。

到達目標

- ①日本経済の現状を説明できる。
- ②新聞やテレビのニュースが難なく理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 インTRODクシヨN
- 第 2 回 日本経済の流れ（世界との比較のなかで）
- 第 3 回 経済政策の 2 大潮流－マーケット or ケインズ
- 第 4 回 需要と供給（需要曲線の意味）
- 第 5 回 市場メカニズムと価格（どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだろう？）
- 第 6 回 価格の変動（どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだろう？）
- 第 7 回 国民所得（国の経済力はどう測るんだろう？GDP って何？）
- 第 8 回 国民所得（あなたが 1 万円使うと GDP はいくら増える？）
- 第 9 回 財政（日本の借金は大丈夫？消費税は何%に？）
- 第 10 回 景気と失業（不景気で学生の就職はどうなる？）
- 第 11 回 金融（日本銀行は何をするところ？）
- 第 12 回 経済政策のしくみ
- 第 13 回 為替レートのメカニズム（円高、円安ってどうして起こるの？）
- 第 14 回 世界と日本（日本の貿易は黒字？赤字？）
- 第 15 回 まとめと確認のためのテスト

評価方法

筆記試験 80%、毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物 20%

使用教材

授業外学習の内容

本講義の理解を深めるためには、新聞やテレビで日々のニュースに触れることが効果的である。テキストを利用した予復習は課さないかわりに、日常的に新聞を読みテレビニュースを視聴すること

備考

社会学（教養基礎）

担当者

安達 正嗣

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

社会的なもの（モノ）の見方とは、どういうものか、社会的にもものを考えるときに使用する専門的概念には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説する。

到達目標

初めて社会学を学ぶ学生に対して、社会学の基礎的な知識ならびに考え方を理解させて習得させることが、この講義の到達目標である

講義内容と講義計画

- 第 1 回 社会学への招待
- 第 2 回 「私」という社会的存在
- 第 3 回 「自由」と個人主義化
- 第 4 回 対人関係の多様化の時代
- 第 5 回 対人関係とメディアの発達
- 第 6 回 「希薄な関係」と「濃密な関係」
- 第 7 回 テレビアニメからみる日本の家族と子ども像
- 第 8 回 恋愛・結婚・夫婦関係
- 第 9 回 少子高齢社会の家族と介護
- 第10回 会社と仕事
- 第11回 文化と社会
- 第12回 格差社会とは何か
- 第13回 社会保障のあり方
- 第14回 グローバリゼーションの時代
- 第15回 まとめ

評価方法

平常点（第 1 回目の講義で説明します） 50%、学期末試験 50%です。

使用教材

浅野智彦編著『図解 社会学のことが面白いほどわかる本』中経出版。

授業外学習の内容

毎回の内容について、事前に教科書を読んでおくこと。

備考

私語は、厳禁です。

生涯健康論（教養基礎）

担当者

鈴木 忠

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

生涯を幸せて豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約 10 年も短い。本講義では、健康寿命の延伸のための生涯にわたる健康増進法について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎能力を身に付けることを目的としている。

到達目標

各回の講義内容欄に〈 〉内に示す語句（キーワード）について理解し、説明できるようになる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 健康の定義と健康評価指標
WHO の提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、〈平均寿命〉、〈平均余命〉、〈健康寿命〉、〈最長寿命〉などの呼び方があり、これから重要なのは、健康寿命であることを理解する。
- 第 2 回 健康を維持するための構造と働き
健康を維持するための主たる生理機構は、〈物質代謝〉である。物質代謝に関わる体の構造とその働きについて理解する。
- 第 3 回 恒常性維持システムの役割と相互作用
物質代謝に関連する構造がバランスよく正常に機能するように統括する恒常性維持（〈ホメオスタシス〉）システムは、脳神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。その働きと相互作用について理解する。
- 第 4 回 食物と健康
物質代謝のスタートは食物からの栄養摂取である。食物には健康に欠かすことのできない〈栄養素〉を含むものと健康を害する因子を含む食物とがあることを理解する。
- 第 5 回 〈運動と健康〉
運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。
- 第 6 回 〈心のケアと健康〉
ストレスが、恒常性維持システムのバランスに悪影響を及ぼし、健康を害するメカニズムを理解し、ストレスを解消するための心のケアが健康維持にいかに重要であるかを理解する。
- 第 7 回 喫煙による健康障害
たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの〈喫煙と健康障害〉のメカニズムについて理解する。〈受動喫煙の影響〉についても考える。
- 第 8 回 生活環境と健康
放射能、排気ガス、温室効果ガス等の〈生活環境と健康〉についても考える。
- 第 9 回 21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）
2000 年より、健康寿命の延伸を目指す健康づくり運動がスタートした。①食物・栄養、②運動及び③心の安静を〈健康維持の 3 本柱〉とし、これまでの早期発見・早期治療による二次予防及び確実な診断と治療・リハビリによる三次予防に対して、病気の発生そのものを防ぐ一次予防を重視する〈予防医学〉のスタートである。
- 第10回 特定健康診断の重要性及びメタボリックシンドローム

| | |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>特定健康診断の結果の値を、発病予防のための健康管理の指標とできることを理解する。さらに、＜定期健康診断＞によって、疾患の早期発見あるいは疾患前状態を発見することで、二次予防にも繋がることを理解する。また、＜内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）＞の怖さを理解し、その予防法について考える。</p> |
| 第11回 | <p>生活習慣病の危険因子としての糖尿病 ＜糖尿病＞には、I型とII型があり、第12回で学習する冠状動脈や脳動脈における血液循環障害発生の危険因子となるのみならず、微小血管循環障害による腎障害、視力障害及び神経障害という＜三大合併症＞を引き起こす。人工透析が必要となる腎不全及び失明の原因の第1位は糖尿病である。危険因子としての糖尿病とその予防法について理解する。</p> |
| 第12回 | <p>生活習慣病（心疾患・脳卒中）と発症を予防する生活習慣 死亡原因の2位及び3位の＜心疾患（狭心症・心筋梗塞症）＞及び＜脳卒中＞は、＜血液循環障害＞による。これらの疾患の本態を知り、生活習慣との関係を理解し、その予防のための生活習慣を考える。</p> |
| 第13回 | <p>生活習慣病（がん）と発症を予防するための生活習慣 日本人の死亡原因の1位はがん、2位は心疾患、3位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣＜（がん発症危険因子）＞を知る。また、＜がん予防のための生活習慣＞及び早期発見・早期治療のための＜がん検診＞の重要性について理解する。</p> |
| 第14回 | <p>微生物感染症と感染・発症予防 日本人の死亡原因の第4位は肺炎と呼ばれる微生物感染症である。各種保健医療施設においては、入所（入院）者の＜院内感染症＞発症予防は、最重要課題である。輸血などの医療行為が微生物感染症の発生要因＜（医原性感染症）＞となる場合があること、感染症発生の予防法について理解する。</p> |
| 第15回 | <p>地域における健康支援チーム構成員とその役割：まとめ これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる＜健康支援チームによるチーム医療＞が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。</p> |

評価方法

授業参加度（予習してきたの発表、質問、質問に対する回答等）：30点、レポート：30点、期末試験：40点

使用教材

テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

授業外学習の内容

- ・講義は、できるだけ質疑・応答を中心として進めていくのでシラバスの中に示したキーワードについての予習をしてくること。
- ・グループに分け、各グループごとに課題を与え、発表してもらうので、全員で協力してまとめること。

備考

講義は、できるだけ質疑・応答を中心として進めていくのでシラバスの中に示したキーワードについての予習をしてくること。グループに分け、各グループごとに課題を与え、発表してもらうので、全員で協力してまとめること。

生涯学習概論（教養基礎）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

教育水準の高度化や人々の意識、生活形態の急激な変化にともない、「生涯学習」が進展・定着する中で、「生涯学習」「生涯学習社会」とは何かを踏まえ、公民館・図書館・博物館をはじめとする社会教育施設社会における様々な学びの場での人々の学習について、学生グループの報告を交えてその理論・実際を学ぶ。

到達目標

生涯学習の意義、「生涯学習社会」の意義、社会教育と生涯学習の関係、公民館・図書館・博物館・美術館・青年の家の意味と実際、等のテーマを取り上げ、公教育における生涯学習の意義とその実際の活動について、学生の理解を深めるとともに、生涯学習の実践力を身につけることをめざす。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 「生涯教育」と「生涯学習」
- 第 3 回 「生涯学習社会」とは何か
- 第 4 回 「学習権」とは何か
- 第 5 回 社会教育と生涯学習 第 1 回小テスト予定
- 第 6 回 公民館とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第 7 回 公民館をめぐる事件
- 第 8 回 図書館とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第 9 回 図書館をめぐる事件
- 第 10 回 博物館とはどんな所か（学生グループ報告予定） 第 2 回小テスト予定
- 第 11 回 博物館をめぐる事件
- 第 12 回 美術館とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第 13 回 美術館をめぐる事件
- 第 14 回 青年の家とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第 15 回 青年の家をめぐる事件 第 3 回小テスト予定

評価方法

期間中行う 3 回の小テストに約 70%、授業に対する貢献度に約 30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント。

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。また、5 回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。報告に当たった学生は、該当テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

人間が人間らしく生きる上で、いつでも・どこでも自由に学ぶことは不可欠です。生涯学習はこうした理念に

立つものです。これまで自分が行ったことのある博物館・動物園等の施設を思い返し、また、関係する文献・TV 番組・新聞記事等にも目を配って、その意義を確認してほしいと思います。

生命と環境の科学（教養基礎）

担当者

奥 浩之

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・今後の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。

到達目標

本講義を受講することにより、各自が生命や環境に関する事項についてニュースなどを鵜呑みにするのではなく、様々な文献や資料を参照することで自律的に理解・判断できるようになり、レポートなどの形式でまとめられるようになることを学習目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 生命と環境－地球における元素の循環
- 第 2 回 生命と環境－化学進化と生命における元素の役割
- 第 3 回 生命と環境－さまざまな元素の性質を利用した医薬品
- 第 4 回 生命と分子構造－タンパク質と核酸の分子グラフィックス
- 第 5 回 生命と分子構造－加水分解酵素、ヘモグロビン、金属タンパク質
- 第 6 回 生命と分子構造－医薬品の作用メカニズム
- 第 7 回 地球環境と健康－グローバル化、インフルエンザ、新興再興感染症
- 第 8 回 地球環境と健康－さまざまな感染症の予防ワクチン
- 第 9 回 地球環境と健康－ワクチン成分と研究開発
- 第10回 環境と資源－炭素資源・石油化学産業・医薬品産業
- 第11回 環境と資源－シュールガス、シュールオイル
- 第12回 環境と健康－バイオマス・バイオディーゼル
- 第13回 生命と医薬品－日本で開発された医薬品
- 第14回 生命と食品－機能性食品
- 第15回 生命と食品－食品加工

評価方法

レポート課題 50%、授業参加度 50%

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

授業外学習の内容

2 回に一度、講義に関連した自主学習としてレポート作成を課題とする予定。

備考

国際関係論（教養基礎）

担当者

片桐 庸夫

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

皆さんが生活する今日の世界とはどんなものかを理解することを目的としている。まず今日の世界の基本となっている戦後の冷戦について理解する。次に冷戦の何が変わって今日の世界が出来ているか理解する。それを通じ国際テロ、民族紛争、領土紛争、宗教対立といった現代世界の特徴と戦後日本の外交や国際貢献をめぐる課題について学ぶ。

到達目標

今日の世界情勢と日本外交や国際貢献問題について基本的に理解し、テレビや新聞のホットな話題やニュースを理解出来るようにすること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 授業の展開の方法、出席の取り方、試験の方法、成績評価の方法等についてのガイダンスを行う。
- 第 2 回 「冷戦の特異性」の意味、大規模な戦争後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立について理解する。
- 第 3 回 「呉越同舟」の例えの典型的事例である戦勝同盟国間の対立の例としてのウイーン会議について理解する。
- 第 4 回 国際コミュニケーションにとって大切な言語、宗教、文化、国家体制といった共通の価値観の意味について理解する。
- 第 5 回 米ソ間の価値観の欠如、イデオロギー対立、体制間対立について理解する。
- 第 6 回 米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化について理解する。
- 第 7 回 冷戦の定義、核の下の平和、冷戦後の現代世界の特徴について理解する。
- 第 8 回 終戦とアメリカの初期対日占領政策の特徴、日本の改革について理解する。
- 第 9 回 冷戦のアジアへの波及にともなうアメリカの対日占領政策の修正、日本国憲法、天皇制存置、象徴天皇制の関連性について理解する。
- 第 10 回 ジョージ・ケナンの Five Power Centers 構想、日本の再軍備について学ぶ。
- 第 11 回 サンフランシスコ講和条約による日本の独立回復、同条約の問題点、日米安保条約の問題点、不公平性などについて理解する。
- 第 12 回 戦後日本外交の課題である『戦後』の克服』の意味、日ソ国交正常化、国連加盟、未解決の北方領土問題について理解する。
- 第 13 回 日米安保改定による日米パートナーシップ関係の意味、日本の経済大国化について理解する。
- 第 14 回 沖縄返還、日中国交正常化、それらにともなう『戦後』の克服』について理解する。
- 第 15 回 中国の台頭と日本外交のゆくえ及び国際貢献の在り方について考える。

評価方法

小テスト結果と授業態度等を総合的に評価する。

使用教材

テキストを用いず、授業中にプリントを配布する。

授業外学習の内容

中国の軍事力増強や南シナ海制海権確立の動き、中国やロシアとの領土問題、沖縄基地移転の問題等についての

新聞やテレビのニュース、ドキュメント番組等を見て、日頃から国際問題や日本の課題等についての関心を育んでいて欲しい。

備考

体育理論（教養基礎）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 1 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 1 単位
健康栄養学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

現代社会における運動・スポーツの意義を理解し、生涯にわたり健康づくり・体力づくりを実践するために必要な基礎知識を学ぶ。自らの健康・体力や生活を見つめるとともに、健康づくり・体力づくりに適した身体活動について、その効果や実践方法を知り、実際の生活に活用する能力を養う。

到達目標

- 1 自らの健康・体力を評価し、健康であることの大切さを理解することができる。
- 2 適切な運動プログラムを作成することができる。
- 3 ヒトの基本動作を理解し、自身の動きを評価することができる。
- 4 運動中に起こりうる事故を理解し、事故が起こらないように注意することができる。
- 5 現代社会における体育・スポーツの意義について理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 健康とは
- 第 2 回 体力を知る (1) 体力テスト
- 第 3 回 体力を知る (2) 体力テスト (続き)
- 第 4 回 体力とは、体力テストの評価
- 第 5 回 我が国における健康づくり施策 (1)
- 第 6 回 我が国における健康づくり施策 (2)
- 第 7 回 健康づくり運動 (1) 有酸素運動
- 第 8 回 健康づくり運動 (2) 筋力トレーニング
- 第 9 回 健康づくり運動 (3) ストレッチングほか
- 第10回 運動と栄養
- 第11回 運動とこころの健康
- 第12回 スポーツとは何か
- 第13回 スポーツと文化
- 第14回 体育・スポーツの歴史
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への参加度 30%、各授業時における提出物など 35%、最終課題 35%

使用教材

特別なテキストはなく、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

必要に応じて授業終了時に配布する課題についてレポートを作成すること。

備考

初回のガイダンスで、具体的に受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどを明確に示す。

体育実技（教養基礎）

担当者

佐藤 孝之

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 1 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 1 単位
健康栄養学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

体を動かす具体的な体験をとおして理論と実践とを結びつける。

到達目標

- 1 知識・理解の観点：各スポーツ種目の歴史、ルール、マナーを理解する。
- 2 思考・判断の観点：安全に効率よく練習およびゲーム運営を思考・判断できる。
- 3 関心・意欲の観点：種目特性によって異なる身体感覚について関心をもつ。
- 4 態度の観点：積極的に取り組む。また、施設、器具を大切に扱う。
- 5 技能・表現の観点：基本スキルの獲得。相手の力量にあわせ、楽しみながらゲームができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス（体育館）
- 第 2 回 ストレッチとレジスタンストレーニング（体育館）
- 第 3 回 バレーボール（体育館）
- 第 4 回 バレーボール（体育館）
- 第 5 回 テニス（テニスコート）
- 第 6 回 テニス（テニスコート）
- 第 7 回 テニス（テニスコート）
- 第 8 回 フットサル（フットサルコート）
- 第 9 回 フットサル（フットサルコート）
- 第10回 フットサル（フットサルコート）
- 第11回 バスケットボール（体育館）
- 第12回 バスケットボール（体育館）
- 第13回 バドミントン（体育館）
- 第14回 バドミントン（体育館）
- 第15回 バドミントン（体育館）

評価方法

授業態度・授業への参加度 60%、レポート課題 30%、授業記録の管理 10%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

授業外学習の内容

授業外学習のススメ：からだをしっかりと目覚めさせ、着替えや食後の消化にかかる時間などを確保するためにも、余裕をもって朝早く起きる習慣を身につける。また継続して運動を実施できるよう課外時間に大学体育施設（フィットネスルームを含む）を積極的に利用する。時間がとれない場合は、日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動の中で身体活動量を増やす工夫をする。

備考

受講上の注意点：1. トレーニングシャツ、パンツ、シューズ（体育館は室内用、テニスコート・フットサルコートは屋外用）を着用すること（ジーンズや普段着での受講は不可）。2. 原則として見学は認めません。また実技授業をすすめる上で配慮を必要とする学生は初回のガイダンス当日までに担当教員へ申し出ること。3. 貴重品の管理は各自で行うこと。4. 授業で実施するスポーツ種目の器具は大学で用意しますが、テニスやバドミントンのラケットなど個人で所有する器具があれば、積極的に持参してください。5. 天候により施設変更することがあります。教務課掲示板で確認してください

キャリア形成論（教養基礎）

担当者

小泉 英明

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

社会の仕組みはもとより、経済、雇用など私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変わり、仕事の質や内容までも大きく変化しています。本講座では、社会（企業・組織）が大学生に求める「能力」について理解を深め、社会で実際に役立つ人材となるよう支援します。さらに、様々な事例紹介によって社会・職場適応力を養い、近い将来、社会人として適切なスタートを切ることができるよう“自身”の強化プラン策定と目標管理を促し、将来のキャリア形成につなげられるよう支援することも目標としています。

到達目標

- ①社会に通用する就業観、勤労観を持つ
- ②自己を正しく理解し、適切なキャリアデザインを描くことができるよう、基礎力と社会適応力を身につける
- ③コミュニケーション能力、論理的思考力、創造的思考力、問題解決能力など、社会から必要とされる力を身につける
- ④効果的な就職活動を遂行できるよう、自己変革のための目標管理を行う

講義内容と講義計画

- 第 1 回 キャリア形成のために必要なこと、私たちを取り諸環境
- 第 2 回 予測困難な時代が到来、社会（企業・職場）が求める人材
- 第 3 回 セルフ・ディベロップメントⅠ（自己の理解）
- 第 4 回 セルフ・ディベロップメントⅡ（未来視点による自己の確立）
- 第 5 回 身につけたいチカラⅠ [コミュニケーション力]
- 第 6 回 身につけたいチカラⅡ [気づく力]
- 第 7 回 身につけたいチカラⅢ [ロジカル・シンキングとクリティカル・シンキング]
- 第 8 回 身につけたいチカラⅣ [クリエイティブ・シンキング]
- 第 9 回 身につけたいチカラⅤ [創造力を伸ばすには]
- 第10回 身につけたいチカラⅥ [問題解決能力]
- 第11回 「就業力」と「仕事力」
- 第12回 社会・企業・職場の人間関係
- 第13回 キャリア・マニフェスト（自分自身の強化に向けて※具体策の立案）
- 第14回 セルフ・ディベロップメントⅢ（将来のキャリア形成に向けて）
- 第15回 ストレスマネジメント、まとめ

評価方法

最終レポート（60%）、各授業時における提出物（30%）、受講態度（10%）

使用教材

適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

授業外学習：配布プリントをもとに、毎回、復習をすること。配布物はしっかりファイルし、毎回持参すること。授業内外の課題は必ず提出すること。※わからないことがあったら積極的に質問してください。

備考

社会の出来事を理解できるよう、新聞等に目を通して受講すること。

哲学（人間理解）

担当者

大石 桂子

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

「他者とどう関わっていけばよいか」「生きることに意味はあるのか」「絶対に正しいことはあるのか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち研究するのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わるものとして考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や統計なども手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。

到達目標

各トピックの基本的な問題点を理解し、様々に議論されてきた内容について知識を得る。また、現代的な視点から自己の主張を持ち、それを表現する力を養う。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 自分と他者 (1) 「人に認められたい」のは本能？
- 第 3 回 自分と他者 (2) 「本当の自分」はあるのか
- 第 4 回 自分と他者 (3) 人と人の関係性
- 第 5 回 ディスカッション
- 第 6 回 平等と共生 (1) 誰もが信じられる正しさはあるか
- 第 7 回 平等と共生 (2) 環境は人の心にどう影響するのか
- 第 8 回 自由はあるのか——正しい自己決定のために
- 第 9 回 心と身体 (1) 人間である条件とは理性か
- 第10回 心と身体 (2) 心と体の関係性——脳死を考える
- 第11回 エンハンスメント (1) 変化する「病」
- 第12回 エンハンスメント (2) 「弱さ」を否定する社会
- 第13回 「空気」を意識する
- 第14回 責任 (1) 責任の範囲はどこまで？
- 第15回 責任 (2) 「何もしなかった」ことに責任は問われるか

評価方法

定期試験（60%）、ミニ・レポート（40%）に、講義への参加態度を加えて総合的に評価する。

使用教材

講義中にプリントを配布。

授業外学習の内容

復習としてノート・資料を読み直し、ミニ・レポートを作成すること。

備考

本講義では老子規の習得だけではなく、各自が「哲学する」ために、ミニ・レポートを課しているのです、主体的に取り組んでほしい。

倫理学（人間理解）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

現代の医療をめぐる問題を取りあげ、それぞれのトピックを通じて、倫理学の諸理論、人々の多様な価値観について学ぶ。

到達目標

医療に関連する論理的諸問題について正確な知識を習得し、自分の考えを表現することができる。また、自分と対立する考えについても理解を深める。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション：生命倫理学について
- 第 2 回 不妊治療（1）人工授精
- 第 3 回 不妊治療（2）体外受精、代理母
- 第 4 回 遺伝子操作（1）ヒトゲノム計画
- 第 5 回 遺伝子操作（2）遺伝子診断技術と優生思想
- 第 6 回 人工妊娠中絶：パーソン論
- 第 7 回 遺伝子操作（3）クローン技術
- 第 8 回 遺伝子操作（4）幹細胞研究と将来世代のための倫理
- 第 9 回 終末期医療（1）告知をめぐる問題
- 第10回 終末期医療（2）インフォームド・コンセント
- 第11回 終末期医療（3）安楽死とホスピスケア
- 第12回 臓器移植（1）生体臓器移植
- 第13回 臓器移植（2）死後移植と臓器移植法改正
- 第14回 エンハラスメント：薬剤の使用をめぐる問題
- 第15回 総括

評価方法

授業への参加とその態度（30%）、小テスト・期末レポート（70%）から評価する。

使用教材

講義中に資料を配布する。

授業外学習の内容

なるべく平易な表現を用いて講義を行う。予習は必ずしも求めないが、配付された資料を読込むなど復習は必ず行うこと。講義中、一つの問題をめぐる様々な、そしてしばしば対立する見解が示される。自分ならどの立場をとるか、対立する相手に対してどのように反論するか、常に考えながら講義に臨んでほしい。

備考

心理学（人間理解）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、支援に必要な基礎的知識の習得を目指す。こころのしくみに関して心理的諸機能を概観し、心の発達や健康について理解したうえで、心理的支援の方法と実際を学ぶ。

到達目標

心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。人の成長・発達と心理との関係について説明できる。日常生活と心の健康との関係について説明できる。心理的支援の方法と実際について説明できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 こころのしくみの理解 (1) : 心理学における主要な理論
- 第 2 回 こころのしくみの理解 (2) : 心と脳/情動・情緒
- 第 3 回 こころのしくみの理解 (3) : 欲求・動機づけと行動
- 第 4 回 こころのしくみの理解 (4) : 感覚・知覚・認知
- 第 5 回 こころのしくみの理解 (5) : 学習・記憶・思考/知能・創造性
- 第 6 回 こころのしくみの理解 (6) : 人格・性格/自己概念・自己実現
- 第 7 回 こころのしくみの理解 (7) : 集団
- 第 8 回 こころのしくみの理解 (8) : 適応/人と環境
- 第 9 回 人の成長・発達と心理 : 発達の概念
- 第10回 日常生活と心の健康 : ストレスとストレッサー
- 第11回 心理的支援の方法と実際 (1) : 心理検査の概要
- 第12回 心理的支援の方法と実際 (2) : カウンセリングの概念と範囲
- 第13回 心理的支援の方法と実際 (3) : カウンセリングとソーシャルワークとの関係
- 第14回 心理的支援の方法と実際 (4) : 心理療法の概要と実際
- 第15回 まとめ

評価方法

宿題 30% (復習課題 15%、予習課題 15%)、学期末テスト 50%、学期末レポート 20%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。

使用教材

精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー「心理学ー心理学理論と心理的支援」へるす出版

授業外学習の内容

毎回、復習課題および予習課題を宿題として課すので、授業外での学習を怠らないこと。宿題の提出は C-learning による。

備考

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士国家試験受験資格の該当科目
社会福祉学科学生に対する注意 : 専門導入科目「発達と老化の理解」は、心理学を同時履修中であることを前提に進めていく。また、専門関連科目「カウンセリング論」も、心理学を履修済みであることを前提として授業を進める。

文学と人間（人間理解）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

現代人の基礎教養として、日本の名作文学を朗読 CD とビデオで味わうことで、文章表現による心のコミュニケーションを図ることができる。

到達目標

視聴覚教材を活用して「文学と人間」への洞察を深めることで、歴史の諸相における人間と人間生活の理解に役立てることができる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『浮雲』
- 第 2 回 森鷗外『舞姫』『高瀬舟』
- 第 3 回 幸田露伴『五重塔』、樋口一葉『たけくらべ』
- 第 4 回 尾崎紅葉『金色夜叉』、徳富蘆花『不如帰』
- 第 5 回 泉鏡花『高野聖』、島崎藤村『破戒』
- 第 6 回 夏目漱石『坊っちゃん』『草枕』
- 第 7 回 伊藤左千夫『野菊の墓』、田山花袋『田舎教師』
- 第 8 回 学習の整理と展望（まとめのレポート①）
- 第 9 回 森鷗外『雁』、夏目漱石『こころ』
- 第10回 芥川龍之介『羅生門』『鼻』『杜子春』『地獄変』
- 第11回 有島武郎『或る女』、武者小路実篤『友情』
- 第12回 川端康成『伊豆の踊子』、小林多喜二『蟹工船』
- 第13回 林芙美子『放浪記』、谷崎潤一郎『春琴抄』
- 第14回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』、中島敦『山月記』
- 第15回 学習の整理と展望（まとめのレポート②）

評価方法

まとめのレポート 2 回分を各 50 点で加算し、それに授業参加度を加味して総合評価する。

使用教材

小田切進『日本の名作』（中央公論新社）定価（本体 720 円＋税）

授業外学習の内容

授業では、視聴覚教材を活用して作品の梗概を理解させ、人物相関図の板書とテキストの読解から作品鑑賞を深める。これをきっかけに、さらに各自が興味・関心を抱いて原作を読み、発展させた読書につなげること。

備考

芸術論（人間理解）

担当者

石原 綱成

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

芸術とは人間の内面の表出です。すなわち人間の心を映し出す「鏡」といっても良いでしょう。その表出されたもの、すなわち芸術作品がいかなる思想に基づいて現われたかを知ることは、人間性そのものを知ることになります。講義は、西洋近代における芸術概念の成立、そして 20 世紀における芸術概念の変容を見ることを通して、芸術の起源と役割をめぐる問題について考察します。また様々な地域の視覚芸術を比較検討することで、私たち「現代人」の芸術思想を浮き彫りにして見ましょう。

到達目標

芸術概念及び芸術に関連するさまざまな概念の成立・受容・変容という観点から、特に西洋近代以降におけるメディアとしての芸術の歴史を展望することによって、芸術論及び芸術学についての理解を深めることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 芸術の起源①ギリシャ・ローマ
- 第 3 回 芸術と宗教②ヨーロッパ中世とキリスト教
- 第 4 回 芸術論と神々宗教芸術概観
- 第 5 回 キリスト教芸術の特色①旧約聖書と芸術
- 第 6 回 キリスト教芸術の特色②新約聖書と芸術
- 第 7 回 芸術思想をめぐる①ルネサンスの芸術思想
- 第 8 回 芸術思想をめぐる②デューラーの芸術思想
- 第 9 回 カントの芸術思想と感性学『判断力批判』概観
- 第10回 芸術観の変容と近代哲学の関係
- 第11回 仏教芸術をめぐる①仏の世界
- 第12回 仏教芸術をめぐる②極楽と地獄
- 第13回 現代芸術の美学①遠近法への懐疑
- 第14回 現代芸術の美学②中心の喪失
- 第15回 総復習と総括

評価方法

授業の参加状況と授業中のレポート、学期末試験を総合的に判断して評価する。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

- ・ 次回の授業のプリントを配布するので、専門用語等事前に予習しておくこと。
- ・ 今までの授業の理解度を確認するために小テストを行うのでよく復習しておくこと。

備考

興味・関心を持って積極的に参加して欲しい。質問は大歓迎

ボランティア・市民活動論（人間理解）

担当者

金井 敏

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 2 単位 選択 2 単位

講義目標

ボランティア・市民活動は、自主的な貢献活動として福祉分野に限らず環境や情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在となっている。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践することができる力を養成する。

到達目標

ボランティア・市民活動の実践例を理解するとともに、ボランティア・市民活動支援センターを活用し活動に参加し、活動ニーズを体得できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い
- 第 2 回 ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割
- 第 3 回 子どもの明日をサポートする～子ども劇場の取り組み
- 第 4 回 人々はどのようにボランティアに取り組んだか～欧米と日本の歴史
- 第 5 回 ボランティアと NPO～学生でも創れる NPO 法人～
- 第 6 回 障害スポーツ・レクリエーションのすすめ
- 第 7 回 小中高校の福祉教育・ボランティア学習はこれでいいか
- 第 8 回 バリアフリー社会と心のバリアフリー
- 第 9 回 新しい支え合いの必要性～20 年後のあなたとへ
- 第 10 回 動物は人間のパートナー～動物愛護協会の取り組み
- 第 11 回 被災地に届け！災害支援ボランティア活動
- 第 12 回 分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会（共同募金・地域通貨）
- 第 13 回 地域支えあいのボランティア～ふれあい・いきいきサロン～
- 第 14 回 地域支えあいのボランティア～民生委員・児童委員の活躍～
- 第 15 回 ボランティア・市民活動から学べたこと

評価方法

- ・学期末に課すレポートによる評価（60 点相当）
- ・ボランティア実践＝実践から得た成果など学習内容の報告書による評価（25 点相当）
- ・授業のリアクションペーパーによる評価（15 点相当）
- ・授業開講数の 2/3 以上の出席について、評価対象とする。
- ・15 分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・私語などのため授業を妨げる場合は、退出およびマイナス評価をする場合がある。

使用教材

テキストは使用しない。レジュメ・関係資料は授業にて配布する。

授業外学習の内容

- ・上記のボランティア実践に取り組むこと。
- ・次回のテーマに沿ったボランティア・市民活動について予習しておくこと。

備考

- ・ボランティア・市民活動は、社会に関心をもつ学生が実際の社会と関わりを持つことができるとともに、自分自身の可能性にチャレンジすることができる、とても良い機会です。
- ・ボランティア実践では、社会が求めているニーズに応えることを通じて、人々の問題を把握するとともに、その解決策を考えることもできます。このような体験は、将来の就職活動でも大いに活かすことができます。VSC を活用して参加すること。
- ・考えて行動する学生を目指して、一緒に学びましょう！

人権論（人間理解）

担当者

森部 英生

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

人権ないし基本的人権は、制度的・最終的には、憲法を頂点として構築されている人権法制によって保障される。この授業では、この点に着目し、憲法に定められている諸々の人権条項を概説するほか、国際的な人権文書にも言及し、同時に、単にそれら条文の開設に留まることなく、それら法条に関連する裁判事件を取り上げながら人権感覚を磨くことにする。

到達目標

もっぱら法的な側面から人権を眺めるとともに、日常生活における種々の差別や人権侵害の問題を、実例ないし裁判事例を通して学び、人権感覚を鋭くして、社会における人権尊重とその現実化をめざす。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 基本的人権の沿革
- 第 3 回 明治憲法における人権保障
- 第 4 回 日本国憲法における人権保障
- 第 5 回 人権の主体 第 1 回小テスト
- 第 6 回 幸福追求権
- 第 7 回 法の下での平等
- 第 8 回 請願権と国家賠償法
- 第 9 回 思想及び良心の自由
- 第 10 回 信教の自由 第 2 回小テスト
- 第 11 回 表現の自由
- 第 12 回 学問の自由
- 第 13 回 両性の平等
- 第 14 回 生存権
- 第 15 回 まとめ 第 3 回小テスト

評価方法

3 回の小テストに約 70%、授業に対する貢献度等に約 30%を配分し、これらを総合して評価する

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回テーマについて然るべき予習をしておくこと。また、5 回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

この授業は、憲法に定める種々の人権条項を概観するものですが、単に条文を解説するだけでなく、それぞれの条文にまつわる裁判事件（人権裁判）を多く引用していきます。特に保育者・教育者をめざす学生諸君に有益だろうと考えます。豊かな人権間隔を養うことをめざして授業に臨んで下さい。

人間関係論（人間理解）**担当者**

宮内 洋

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

「人間関係論」とはホーソン実験によって得られた発見をもとに、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その間の因果関係を体系化した理論である。当然のことながら、これらのことを講じるが、本科目においては、人間発達学部が保育者・教育者を養成する場であるということも鑑みて、子ども同士、保育者・教育者と子ども、保育者・教育者と保護者の関係についても焦点を当てる。また、子どもの相互のかかわりと関係作りなどについての理解を深めるなど、人間関係の発達の側面についても講じる。

到達目標

「人間関係論」の基礎的な知識を学ぶとともに、日常生活における人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各領域の基礎的な知見を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 「人間関係論」の成立
- 第 3 回 職場と人間関係
- 第 4 回 社会的ジレンマ
- 第 5 回 乳幼児期の人間関係（1）
- 第 6 回 乳幼児期の人間関係（2）
- 第 7 回 乳幼児期の人間関係（3）
- 第 8 回 児童期の人間関係
- 第 9 回 青年期の人間関係
- 第10回 恋愛関係論（1）
- 第11回 恋愛関係論（2）
- 第12回 保育・教育現場の人間関係
- 第13回 差別と偏見
- 第14回 日本社会における人間関係：「空気を読む」ことについて
- 第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

教科書は特に指定しません。必要に応じて、資料を配付します。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。本科目では、いくつかの課題に取り組んでいただく予定ですので、授業に対する積極的な態度が望まれます。

ジェンダー論（人間理解）

担当者

前田 由美子

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

性別による社会の制度化を歴史的・文化的・社会的視点からとらえ直し、その制度化のもたらした問題を人権の問題として深く理解する。

到達目標

性別に関して存在する偏った社会の慣習や考え方によって妨げられている能力の発揮や、不自由な人生選択の実態を知り、その克服の方策を考えることで、自らの人生設計と社会創造に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体の説明
- 第 2 回 ジェンダーという概念
- 第 3 回 生き物としての性とその多様性
- 第 4 回 性的指向 セクシュアリティ
- 第 5 回 性役割と性規範
- 第 6 回 性的同一性（ジェンダー・アイデンティティ）
- 第 7 回 性別と経済社会
- 第 8 回 母親と子どもの関係
- 第 9 回 父親と子どもの関係
- 第10回 労働と性別秩序
- 第11回 過労問題 ワーク・ライフ・バランス
- 第12回 男性問題
- 第13回 セクシュアル・ハラスメント
- 第14回 ドメスティック・バイオレンス
- 第15回 まとめ

評価方法

講義日ごとに、ミニレポートを提出。約 25%ずつで 4 日間。

使用教材

プリント、映像資料、文献資料など

授業外学習の内容

配布された授業内容に関連する文献資料などをよく読み、課題にそってまとめること。

備考

共生の倫理（人間理解）

担当者

瓜巢 一美

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

福祉論、国際理解教育などを基礎にして、多民族、多文化共生社会を身近なところから考える。

到達目標

多文的、分断的な社会生活状況の中で、学習を通して、すべての人間が共に生まれ、育ちあい、学びあい、働きあい、暮らしていることの認識を深め、実践する共生を自覚する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 学習（研究）の方針、文献紹介、評価等について
- 第 2 回 共生の倫理 1) 共生の概念 2) 共生と倫理
- 第 3 回 多文化社会と共生の概要
- 第 4 回 外国人と共生の課題（アンケートなどから）
- 第 5 回 地域社会における多文化社会（事例Ⅰ）
- 第 6 回 地域社会における多文化社会（事例Ⅱ）
- 第 7 回 地域社会における多文化社会（事例Ⅲ）
- 第 8 回 教育における多文化共生（義務教育において）
- 第 9 回 教育における多文化共生（大学等において）
- 第10回 障害者との共生の倫理（生まれ・育つ）
- 第11回 障害者との施設生活（共生を考える）
- 第12回 高齢者の施設生活（人間の尊厳として）
- 第13回 共生の倫理（家族・地域・職場）
- 第14回 多民族・多文化等の共生にむけて（行政など）
- 第15回 学習のふりかえりと研究のあり方

評価方法

筆記試験 60%、授業への参加 10%、小レポート 30%（テストの範囲は原則として事前に口頭で伝えたい）

使用教材

参考文献を指示し、小レポートのテーマとすることもある。講義の要点をメモにし、その要点を中心にレポートする。

授業外学習の内容

前回の授業に提起された課題を学習しておくこと。図書館や現地踏査などで学習を深めておく。

備考

チーム医療アプローチ論（人間理解）

担当者

全学科担当教員

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 1 単位

講義目標

福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。

到達目標

1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。
2. 各専門職の役割と活動について理解できる。
3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回：チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について
第 2 回：チーム医療における看護師・保健師の役割と活動
第 3 回：チーム医療における理学療法士の役割と活動
第 4 回：チーム医療における薬剤師の役割と活動
第 5 回：チーム医療における管理栄養士の役割と活動
第 6 回：チーム医療における社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の役割と活動
第 7 回：チーム医療における保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の役割と活動
第 8 回：チーム医療における診療情報管理士の役割と活動

評価方法

評価方法：授業参加への積極性（40 点）、レポート（60 点）

- ・ レポート他職種の役割と活動を理解した上で、チーム医療を促進するために自分が目指す専門職としての役割と課題についてまとめる。
- ・ 各学科の単位認定者が各学科の学生のレポートを採点する。

使用教材

授業時に配布する資料

授業外学習の内容

自身が専攻する専門職の役割や活動およびチーム医療について事前に、自己学習を行うこと。

備考

健康・福祉・医療・教育のスペシャリストを目指している学生の皆さんは将来、人々の健康を維持・増進する役割を担います。各専門職が力を存分に発揮して協働して福祉・医療・教育を実践するチーム医療を推進することが求められます。他学科の学生と交流をしながら多職種の活動と役割を学習しましょう。

キーワード：専門職、チーム医療、チームアプローチ

国際医療事情（人間理解）

担当者

クリストファー・ターン、町田修三

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的として設置された科目である。特に本学学生は医療系を専攻する者が多いため、海外の医療に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。具体的な内容としては、海外諸国の健康・医療教育、健康・医療の実態、医療制度、病医院や医師・コメディカル等の供給体制、病医院や医療施設の世界比較等について学ぶ。国際化を促進するため、学生には英語で日本の文化や医療の説明をしたり、医療に関する基礎的なディスカッションをしたりすることを取り入れる。また、本講義では、学生が実際に海外に赴き実体験として国際医療事情を見聞することを強く推奨する。

到達目標

- ・ 諸外国の医療教育を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療の実態を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療制度を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の病医院について学び、日本との違いを説明できる。
- ・ 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 医療の国際化とは
- 第 3 回 日本の医療教育、医療制度、医療事情
- 第 4 回 日本の医療教育、医療制度、医療事情を英語で説明してみよう
- 第 5 回 先進国（アメリカ、イギリス、ドイツ）の医療教育
- 第 6 回 先進国の医療事情 I
- 第 7 回 先進国の医療事情 II
- 第 8 回 先進国の病院
- 第 9 回 その他の先進国（北欧、カナダ、オーストラリアなど）の医療事情 I
- 第 10 回 その他の先進国の医療事情 II
- 第 11 回 中進国（台湾、シンガポール、中国など）、途上国（ベトナム、インドネシア、タイなど）の医療教育
- 第 12 回 中進国、途上国の医療事情 I
- 第 13 回 中進国、途上国の医療事情 II
- 第 14 回 学生プレゼンテーション
- 第 15 回 学生プレゼンテーションとまとめ

評価方法

最終レポート（50%）、提出物（20%）、発表、討論など授業参加度（30%）。
海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス（30%）、研修レポート（30%）、研修中のパフォーマンス（40%）

使用教材

特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと。

授業外学習の内容

本講義では学生主体の研究と発表やディスカッションを多く取り入れる。毎回十分な準備をしてくること。海外研修に参加する者は、受身ではなく積極的な参加意欲を常に意識すること。

備考

Introduction to Healthcare Sciences (人間理解)

担当者

小澤瀨司、町田修三、クリストファー・ターン、村上孝、今井純、長谷川恵子

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。

到達目標

- ・医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる。
- ・理解した内容について、第三者に説明できる。
- ・医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる。
- ・医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction of the course
- 第 2 回 Medical globalization Japan's healthcare system
- 第 3 回 Healthcare system of foreign countries
- 第 4 回 Contemporary Issues on Health in North America Society I
- 第 5 回 Contemporary Issues on Health in North America Society II
- 第 6 回 Using MedlinePlus to obtain medical information in English
- 第 7 回 Heavy-ion cancer therapy-the most advanced medical technology Developed in Japan-
- 第 8 回 Immunity and diseases I
- 第 9 回 Immunity and diseases II
- 第10回 Living environment and skin diseases
- 第11回 Healthcare in foreign countries I
- 第12回 Healthcare in foreign countries II
- 第13回 Mental health
- 第14回 Mental health and social skills
- 第15回 Summary and concluding remarks

評価方法

担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度や講義終了時に課す提出物または小レポートにより、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する。

使用教材

担当教員が授業中に配布する。

授業外学習の内容

教材は毎回次週のものをもつて配布するので、理解度を担保するためにも必ず予習しておくこと。分からない単語は調べておくこと。

備考

英語 I A (リテラシー)

担当者

クリストファー・ターン

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、異文化理解にも役立つビデオ教材を用いて、学生の英語力（「読む」・「聞く」・「話す」能力）を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

英語による日常的コミュニケーション能力を身につける

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Chapter 1 : Where Do I Get the Bus?
- 第 3 回 Chapter 2 : Do You Have a Reservation, Ma'am?
- 第 4 回 Chapter 3 : Could You Repeat That?
- 第 5 回 Chapter 4 : I'll Take the Wrangler Convertible
- 第 6 回 Review (1)
- 第 7 回 Chapter 5 : Would You Like Soup or Salad?
- 第 8 回 Chapter 6 : Where's the Fitting Room?
- 第 9 回 Chapter 7 : Would You Mind Taking My Picture?
- 第 10 回 Review (2)
- 第 11 回 Chapter 8 : Good to See You!
- 第 12 回 Chapter 9 : I Enjoyed My Stay
- 第 13 回 Chapter 10 : Aisle Seat, Please
- 第 14 回 Review (3)
- 第 15 回 Review (4)

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%)。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

大八木廣人・Timothy Kiggell, *Viva! San Francisco: Video Approach to Survival English* (マクミランランゲージハウス, 1998)

授業外学習の内容

教員の指示に従って、e-learning に取り組むこと。

備考

辞書は必携。不明な単語は事前に調べておくこと。

英語 I B (リテラシー)

担当者

岡田 和子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

平易な英語によって書かれた、厳選されたトピックを読むことで、現代社会についての議論を英文で理解するとともに、大学生に必須の語彙力を身につける。また、テキストにしたがって、簡単な問題を解きながら、自らの考えを英語で表現する方法についても学ぶ。

到達目標

大学生初級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Chapter 1 The Most Popular Sports in the World ①
- 第 2 回 Chapter 1 The Most Popular Sports in the World ②
- 第 3 回 Chapter 2 Are you a Healthy Eater? ①
- 第 4 回 Chapter 2 Are you a Healthy Eater? ②
- 第 5 回 Chapter 3 Dream Homes ①
- 第 6 回 Chapter 3 Dream Homes ②
- 第 7 回 Chapter 4 Kiss, Bow, or Shake Hands? ①
- 第 8 回 Chapter 4 Kiss, Bow, or Shake Hands? ②
- 第 9 回 Chapter 5 A City Without Oil ①
- 第 10 回 Chapter 5 A City Without Oil ②
- 第 11 回 Chapter 6 You Can't Please Everyone ①
- 第 12 回 Chapter 6 You Can't Please Everyone ②
- 第 13 回 Chapter 7 Across the Desert ①
- 第 14 回 Chapter 7 Across the Desert ②

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%)。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Linda Lee, *Select Readings Elementary*, Second Edition (Oxford UP, 2011)

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語 I C (リテラシー)

担当者

岩田 道子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

平易な英語によって書かれた、厳選されたトピックを読むことで、現代社会についての議論を英文で理解するとともに、大学生に必須の語彙力を身につける。また、テキストにしたがって、簡単な問題を解きながら、自らの考えを英語で表現する方法についても学ぶ。

到達目標

大学生初級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Chapter 1 The Most Popular Sports in the World ①
- 第 2 回 Chapter 1 The Most Popular Sports in the World ②
- 第 3 回 Chapter 2 Are you a Healthy Eater? ①
- 第 4 回 Chapter 2 Are you a Healthy Eater? ②
- 第 5 回 Chapter 3 Dream Homes ①
- 第 6 回 Chapter 3 Dream Homes ②
- 第 7 回 Chapter 4 Kiss, Bow, or Shake Hands? ①
- 第 8 回 Chapter 4 Kiss, Bow, or Shake Hands? ②
- 第 9 回 Chapter 5 A City Without Oil ①
- 第 10 回 Chapter 5 A City Without Oil ②
- 第 11 回 Chapter 6 You Can't Please Everyone ①
- 第 12 回 Chapter 6 You Can't Please Everyone ②
- 第 13 回 Chapter 7 Across the Desert ①
- 第 14 回 Chapter 7 Across the Desert ②

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%)。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Linda Lee, *Select Readings Elementary*, Second Edition (Oxford UP, 2011)

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語ⅡA（リテラシー）

担当者

中村 博生

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

幅広い現代的トピックをあつかった、短めのテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生初～中級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 Chapter 1 Olympic Cities ①
- 第 3 回 Chapter 1 Olympic Cities ②
- 第 4 回 Chapter 2 Internet Communities ①
- 第 5 回 Chapter 2 Internet Communities ②
- 第 6 回 Chapter 3 Console Gaming ①
- 第 7 回 Chapter 3 Console Gaming ②
- 第 8 回 Chapter 4 Teleworking ①
- 第 9 回 Chapter 4 Teleworking ②
- 第 10 回 Chapter 5 Graffiti ①
- 第 11 回 Chapter 5 Graffiti ②
- 第 12 回 Chapter 6 E-books ①
- 第 13 回 Chapter 6 E-books ②
- 第 14 回 Chapter 7 Multiculturalism ①
- 第 15 回 Chapter 7 Multiculturalism ②

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Andrew E. Bennett, *Reading Pass 1* (南雲堂、2015)

授業外学習の内容

テキスト予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語ⅡB（リテラシー）

担当者

柳澤 順一

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

英語Ⅰに引き続き、平易な英語によって書かれた、厳選されたトピックを読むことで、現代社会についての議論を英文で理解するとともに、大学生に必須の語彙力を身につける。また、テキストにしたがって、簡単な問題を解きながら、自らの考えを英語で表現する方法についても学ぶ。

到達目標

大学生初級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Chapter 8 Denmark Loves Bicycles ①
- 第 2 回 Chapter 8 Denmark Loves Bicycles ②
- 第 3 回 Chapter 9 A Passion for Cooking ①
- 第 4 回 Chapter 9 A Passion for Cooking ②
- 第 5 回 Chapter 10 Travel More, Spend Less ①
- 第 6 回 Chapter 10 Travel More, Spend Less ②
- 第 7 回 Review (1)
- 第 8 回 Chapter 11 A Very Able Man ①
- 第 9 回 Chapter 11 A Very Able Man ②
- 第 10 回 Chapter 12 Protecting Cultural Traditions ①
- 第 11 回 Chapter 12 Protecting Cultural Traditions ②
- 第 12 回 Chapter 13 Emergency in the Air ①
- 第 13 回 Chapter 13 Emergency in the Air ②
- 第 14 回 Chapter 14 University Admissions Around the World ①
- 第 15 回 Chapter 15 University Admissions Around the World ②

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Linda Lee, *Select Readings Elementary*, Second Edition (Oxford UP, 2011)

授業外学習の内容

テキスト予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語ⅡC（リテラシー）

担当者

真下 裕子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、異文化理解にも役立つビデオ教材を用いて、学生の英語力（「読む」・「聞く」・「話す」能力）を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

英語による日常的コミュニケーション能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Chapter 1 : Where Do I Get the Bus?
- 第 3 回 Chapter 2 : Do You Have a Reservation, Ma'am?
- 第 4 回 Chapter 3 : Could You Repeat That?
- 第 5 回 Chapter 4 : I'll Take the Wrangler Convertible
- 第 6 回 Review (1)
- 第 7 回 Chapter 5 : Would You Like Soup or Salad?
- 第 8 回 Chapter 6 : Where's the Fitting Room?
- 第 9 回 Chapter 7 : Would You Mind Taking My Picture?
- 第 10 回 Review (2)
- 第 11 回 Chapter 8 : Good to See You!
- 第 12 回 Chapter 9 : I Enjoyed My Stay
- 第 13 回 Chapter 10 : Aisle Seat, Please
- 第 14 回 Review (3)
- 第 15 回 Review (4)

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

大八木廣人・Timothy Kiggell, *Viva! San Francisco: Video Approach to Survival English*（マクミランランゲージハウス, 1998）

授業外学習の内容

教員の指示に従い、e-learning に取り組むこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語ⅢA（リテラシー）

担当者

アンドリュー・カズンズ

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

This class's goal is to help students to enjoy basic conversational English for travel, work etc. Lessons consist of both written and spoken exercises. I don't generally give the students homework, but I advise them to work though the extra exercises given at the back of the textbook.

到達目標

To acquire basic conversational skills in English.

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction, Unit 1 Please Call Me Beth.
- 第 2 回 Unit 2 What Do you Do?
- 第 3 回 Unit 3 How Much Is It?
- 第 4 回 Unit 4 I Really Like Hip-Hop.
- 第 5 回 Unit 5 I Come from a Big Family.
- 第 6 回 Unit 6 How Often Do You Exercise?
- 第 7 回 Unit 7 We Had a Great Time!
- 第 8 回 Unit 8 What's Your Neighborhood Like?
- 第 9 回 Unit 9 What Does She Look Like?
- 第 10 回 Unit 10 Have You Ever Ridden a Camel?
- 第 11 回 Unit 11 It's a Very Exciting Place!
- 第 12 回 Unit 12 It Really Works!
- 第 13 回 Unit 13 May I Take Your Order?
- 第 14 回 Unit 14 The Biggest and the Best!
- 第 15 回 Unit 15 I'm Going to a Soccer Match.

評価方法

Assessment will be via a written 60 minute exam on the 15th lesson, which is based on material students will have studied in units 1-12 of the text book.

使用教材

Jack C. Richard, *Interchange 4th Edition Level 1*, Cambridge UP.

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

辞書は必携。不明な単語は事前に調べておくこと。

英語ⅢB（リテラシー）

担当者

柳澤 順一

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、異文化理解にも役立つビデオ教材を用いて、学生の英語力（「読む」・「聞く」・「話す」能力）を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

英語による日常的コミュニケーション能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Chapter 1 : Where Do I Get the Bus?
- 第 3 回 Chapter 2 : Do You Have a Reservation, Ma'am?
- 第 4 回 Chapter 3 : Could You Repeat That?
- 第 5 回 Chapter 4 : I'll Take the Wrangler Convertible
- 第 6 回 Review (1)
- 第 7 回 Chapter 5 : Would You Like Soup or Salad?
- 第 8 回 Chapter 6 : Where's the Fitting Room?
- 第 9 回 Chapter 7 : Would You Mind Taking My Picture?
- 第 10 回 Review (2)
- 第 11 回 Chapter 8 : Good to See You!
- 第 12 回 Chapter 9 : I Enjoyed My Stay
- 第 13 回 Chapter 10 : Aisle Seat, Please
- 第 14 回 Review (3)
- 第 15 回 Review (4)

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

大八木廣人・Timothy Kiggell, *Viva! San Francisco: Video Approach to Survival English*（マクミランランゲージハウス, 1998）

授業外学習の内容

教員の指示に従い、e-learning に取り組むこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語ⅢC（リテラシー）

担当者

岡田 和子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

健康にまつわる、比較的短いエッセイを読みながら、現代社会と健康・医療について考える際に、必要となる語彙を身につける。健康・食生活・医療についての自らの考えを、英語で表現する方法を学ぶとともに、リーディング・リスニング等総合的な英語運用能力を身につけることが、この講義の目的である。

到達目標

健康にまつわる語彙を身につけ、中級レベルのリーディング・スキルを身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 Unit 1 Fuel Your Body and Mind ①
- 第 3 回 Unit 1 Fuel Your Body and Mind ②
- 第 4 回 Unit 2 What Helps Keep a Doctor Away? ①
- 第 5 回 Unit 2 What Helps Keep a Doctor Away? ②
- 第 6 回 Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy ①
- 第 7 回 Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy ②
- 第 8 回 Review (1)
- 第 9 回 Unit 4 The French Paradox ①
- 第 10 回 Unit 4 The French Paradox ②
- 第 11 回 Unit 5 Americans' Interest in Sushi ①
- 第 12 回 Unit 5 Americans' Interest in Sushi ②
- 第 13 回 Unit 6 Don't Stay Away from Natto ①
- 第 14 回 Unit 6 Don't Stay Away from Natto ②
- 第 15 回 Review (2)

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Toshiaki Nishihara, *Better Health for Everyday* (金星堂, 2014)

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語ⅣA（リテラシー）

担当者

クリストファー・ターン

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、異文化理解にも役立つビデオ教材を用いて、学生の英語力（「読む」・「聞く」・「話す」能力）を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

英語による日常的コミュニケーション能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 Chapter 1 : Where Do I Get the Bus?
- 第 3 回 Chapter 2 : Do You Have a Reservation, Ma'am?
- 第 4 回 Chapter 3 : Could You Repeat That?
- 第 5 回 Chapter 4 : I'll Take the Wrangler Convertible
- 第 6 回 Review (1)
- 第 7 回 Chapter 5 : Would You Like Soup or Salad?
- 第 8 回 Chapter 6 : Where's the Fitting Room?
- 第 9 回 Chapter 7 : Would You Mind Taking My Picture?
- 第 10 回 Review (2)
- 第 11 回 Chapter 8 : Good to See You!
- 第 12 回 Chapter 9 : I Enjoyed My Stay
- 第 13 回 Chapter 10 : Aisle Seat, Please
- 第 14 回 Review (3)
- 第 15 回 Review (4)

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

大八木廣人・Timothy Kiggell, *Viva! San Francisco: Video Approach to Survival English*（マクミランランゲージハウス, 1998）

授業外学習の内容

教員の指示に従い、e-learning に取り組むこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語IVB（リテラシー）

担当者

岡田 和子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

健康にまつわる、比較的短いエッセイを読みながら、現代社会と健康・医療について考える際に、必要となる語彙を身につける。健康・食生活・医療についての自らの考えを、英語で表現する方法を学ぶとともに、リーディング・リスニング等総合的な英語運用能力を身につけることが、この講義の目的である。

到達目標

健康にまつわる語彙を身につけ、中級レベルのリーディング・スキルを身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 Unit 1 Fuel Your Body and Mind ①
- 第 3 回 Unit 1 Fuel Your Body and Mind ②
- 第 4 回 Unit 2 What Helps Keep a Doctor Away? ①
- 第 5 回 Unit 2 What Helps Keep a Doctor Away? ②
- 第 6 回 Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy ①
- 第 7 回 Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy ②
- 第 8 回 Review (1)
- 第 9 回 Unit 4 The French Paradox ①
- 第 10 回 Unit 4 The French Paradox ②
- 第 11 回 Unit 5 Americans' Interest in Sushi ①
- 第 12 回 Unit 5 Americans' Interest in Sushi ②
- 第 13 回 Unit 6 Don't Stay Away from Natto ①
- 第 14 回 Unit 6 Don't Stay Away from Natto ②
- 第 15 回 Review (2)

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト／課題遂行度（30%）、試験（60%）。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Toshiaki Nishihara, *Better Health for Everyday* (金星堂, 2014)

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

英語IVC（リテラシー）

担当者

岩田 道子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

英語 III に引き続き、健康にまつわる、比較的短いエッセイを読みながら、現代社会と健康・医療について考える際に、必要となる語彙を身につける。健康・食生活・医療についての自らの考えを、英語で表現する方法を学ぶとともに、リーディング・リスニング等総合的な英語運用能力を身につけることが、この講義の目的である。

到達目標

健康にまつわる語彙を身につけ、中級レベルのリーディング・スキルを身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 Unit 7 Acute Alcohol Intoxication Can Kill You ①
- 第 3 回 Unit 7 Acute Alcohol Intoxication Can Kill You ②
- 第 4 回 Unit 8 Is Snoring a Bag Sign? ①
- 第 5 回 Unit 8 Is Snoring a Bag Sign? ②
- 第 6 回 Unit 9 Getting a Good Night's Sleep is a Challenge ①
- 第 7 回 Unit 9 Getting a Good Night's Sleep is a Challenge ②
- 第 8 回 Review (1)
- 第 9 回 Unit 10 Chocolate and Its Magical Power ①
- 第 10 回 Unit 10 Chocolate and Its Magical Power ②
- 第 11 回 Unit 11 The Health Risks of Eating Processed Food ①
- 第 12 回 Unit 11 The Health Risks of Eating Processed Food ②
- 第 13 回 Unit 12 Is Genetically Modified Food Safe Enough? ①
- 第 14 回 Unit 12 Is Genetically Modified Food Safe Enough? ②
- 第 15 回 Review (2)

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%)。なお、授業回数数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Toshiaki Nishihara, *Better Health for Everyday* (金星堂, 2014)

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。

Integrated English I (リテラシー)

担当者

クリストファー・ターン

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 1 単位

講義目標

本講義では、海外英語研修参加希望者を対象に、海外での生活における様々な場面を想定した英会話練習を行う。また、海外英語研修の事前準備についての説明も行う。但し、海外英語研修参加希望者以外も履修可。

到達目標

英語による日常会話レベルのコミュニケーション能力を獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 海外英語研修説明会 (1)
- 第 2 回 空港で : Can I have your passport, please?
- 第 3 回 両替所で : Can I change some money here?
- 第 4 回 道を尋ねる : Go straight along Seventh Avenue?
- 第 5 回 週末の予定を立てる : Are you free this weekend?
- 第 6 回 レストランで注文する : Are you ready to order?
- 第 7 回 海外英語研修説明会 (2)
- 第 8 回 家族の紹介 : My father works in a bank.
- 第 9 回 相手の趣味を尋ねる : What's your favorite food?
- 第 10 回 お店での支払い : How would you like to pay?
- 第 11 回 郵便局で : Can I send this airmail?
- 第 12 回 海外英語研修説明会 (3)
- 第 13 回 チケット売り場で : What time does the show start?
- 第 14 回 紛失物を探す : Where did you lose it?
- 第 15 回 別れの挨拶 : Goodbye and thanks!

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%)

なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

Integrated English II (リテラシー)

担当者

真下 裕子

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 1 単位

講義目標

実践問題演習を通して、TOEIC テストの全貌と特徴、傾向と対策をおさえるとともに、スコアアップのための受験のストラテジーも習得する。

到達目標

TOEIC テスト 500 点以上を目指す。

講義内容と講義計画

第 1 回 Introduction (TOEIC テストの概略説明と学習法)

第 2 回 Part 1

第 3 回 Part 2

第 4 回 Part 3

第 5 回 Part 4

第 6 回 Part 5

第 7 回 Part 6

第 8 回 Part 7

第 9 回 Part 1, 2

第 10 回 Part 3, 4

第 11 回 Part 5, 6

第 12 回 Part 7

第 13 回 模擬テスト (リスニング)

第 14 回 模擬テスト (リーディング)

第 15 回 模擬テスト解答と解説

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%)。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

必ず辞書を持参すること。また、授業で学んだことの復習を徹底すること。

ドイツ語（リテラシー）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

初習者がドイツ語に親しみ、講義終了後も学習を持続していくための足がかりを築く。

到達目標

ドイツ語を正確に発音し、聞き取ることができる。また、初級文法を用いて基本的な会話を行い、読み書きすることができる。

講義内容と講義計画

第 1 回 オリエンテーションー日常のなかのドイツ語と、ドイツ語のアルファベットー

第 2 回 Lektion1 ドイツ語の発音

第 3 回 ドイツ語の発音についての補足 (1)

第 4 回 ドイツ語の発音についての補足 (2)

第 5 回 Lektion2 一般動詞の人称変化 (1)

第 6 回 Lektion2 一般動詞の人称変化 (2)

第 7 回 Lektion3 sein と haben (ドイツ語の be 動詞と have) (1)

第 8 回 Lektion3 sein と haben (ドイツ語の be 動詞と have) (2)

第 9 回 Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある (1)

第10回 Lektion4 ドイツ語の名詞には性別がある (2)

第11回 Lektion5 助動詞を用いて表現の幅を広げる (1)

第12回 Lektion5 助動詞を用いて表現の幅を広げる (2)

第13回 夏の旅行会話

第14回 Lektion6 名詞の格変化 (1)

第15回 Lektion6 名詞の格変化 (2)

評価方法

授業への参加とその態度 (30%)、小テスト・期末テスト (70%) で評価する。

使用教材

羽根田知子・熊谷知実『ネコと学ぶドイツ語』、三修社。¥2,400

授業外学習の内容

予習は諸君の自主性に任せる。ただし、復習は必ず行うこと。

備考

特になし。

フランス語（リテラシー）

担当者

カディオンボ・アナスタシア

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

フランス語にふれる

到達目標

文法が理解できて発音できるまで

講義内容と講義計画

- 第 1 回 フランス語のアルファベット 発音及び読み方
- 第 2 回 読み方の練習と名詞の性
- 第 3 回 読み方の練習と冠詞と形容詞
- 第 4 回 読み方の練習と複数形と現在形
- 第 5 回 動詞 *etre*、*evoir* 否定形 文章の作り方
- 第 6 回 第 1 回～第 5 回の総まとめ 動詞 *aller*、*faire*
- 第 7 回 読み方の練習と複合過去
- 第 8 回 読み方の練習と複合過去の否定
- 第 9 回 質問の作り方
- 第 10 回 読み方の練習と前置詞
- 第 11 回 第 1 回～第 10 回の総まとめ
- 第 12 回 読み方の練習と半過去
- 第 13 回 読み方の練習と未来形
- 第 14 回 読み方の練習と聞くことの練習
- 第 15 回 フリートーク、質問

評価方法

筆記試験

使用教材

ゼロから始める書き込み式フランス語 BOOK 成美堂出版

授業外学習の内容

テキストに沿って予習復習をすること

備考

ポルトガル語（リテラシー）

担当者

伊勢島セリア明美

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

ポルトガル語の基礎文法を習得すると共にブラジル文化を学ぶことを目標とします。

到達目標

初歩の会話ができるようになることを到達目標とします。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ALFABETO E PRONÚNCIA (アルファベット、アクセント記号、挨拶)
- 第 2 回 UM CAFÉ (名詞の性、名刺の数、冠詞、数字 (0~30)、会話①)
- 第 3 回 SOU BRASILEIRO, SOU DE SÃO PAULO (主格人称代名詞、ser 動詞、疑問文と否定文、会話②)
- 第 4 回 A SUA MOCHILA É BONITA! (形容詞、所有形容詞、指示代名詞、指示形容詞、会話③)
- 第 5 回 VOCÊ FALA PORTUGUÊS MUITO BEM! (規則活用動詞、前置詞、前置詞と定冠詞の縮合形、会話④)
- 第 6 回 O QUE VOCÊ VAI FAZER AMANHÃ À NOITE? (ir 動詞、ter 動詞、fazer 動詞、疑問詞、会話⑤)
- 第 7 回 POSSO FALAR COM VOCÊ AGORA? (poder 動詞、querer 動詞、月日、曜日の表現、数字 (31~100)、会話⑥)
- 第 8 回 ESTOU COM DOR DE CABECA (estar 動詞、現在分詞と現在進行形、会話⑦)
- 第 9 回 VOCÊ AINDA TEM TIDO CONTATO COM A CRISTINA? (完全過去、時間表現、前置詞と指示詞の縮合形、会話⑧)
- 第10回 EU ME DIVERTI MUITO NO CHURRASCO (再起動詞、完全過去不規則活用動詞、会話⑨)
- 第11回 ERA UMA MENININHA MUITO QUIETA (不完全過去、saber 動詞、conhecer 動詞、conseguir 動詞、会話⑩)
- 第12回 VOCÊ AINDA TEM TIDO CONTATO COM A CRISTINA? (目的格人称代名詞、過去憤死、現在完了、会話⑪)
- 第13回 EU FALO PORTUGUÊS MELHOR DO QUE ANTES (比較表現、数字 (101~1000)、会話⑫)
- 第14回 文法補足 (直説法未来、接続法現在)
- 第15回 まとめ

評価方法

ミニ会話の発表 (50%)、小テスト (50%)

使用教材

ブラジル・ポルトガル語を話そう！ 重松由美著 (株)朝日出版社¥2,300+税
毎回テキストに沿って授業を進めていきます。

授業外学習の内容

1 授業 1 レッソンのペースで進めるため、予習と復習が望ましいです。

備考

“頭”と“心”の柔軟性をもって学習に挑んで頂ければと思います。

中国語（リテラシー）

担当者

渡邊 賢

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な構文を身に付ける。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。

到達目標

15 回という限られた時間で最も基礎的かつ不可欠な事項を習得し、その後、継続して自力学習が可能な能力を育成することを旨とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス：授業の展開の仕方、中国およびその言語に関する概略的な説。
- 第 2 回 発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。
- 第 3 回 発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声（子音）」の唇音・舌尖音・舌根音などを学習する。
- 第 4 回 発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声（子音）」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。
- 第 5 回 発音の基礎Ⅳ：「軽声」および四声の組み合わせの学習。発音の基礎の総復習。
- 第 6 回 教科書基本編レッスン 1・レッスン 2：簡単なあいさつの学習。
- 第 7 回 教科書基本編レッスン 3・レッスン 4：名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習
- 第 8 回 教科書基本編レッスン 5・レッスン 6：指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習
- 第 9 回 教科書基本編レッスン 7・レッスン 8：中国語の主述構造（主謂構造）などについての学習。
- 第 10 回 教科書基本編レッスン 9・レッスン 10：疑問代詞、数詞などの学習。
- 第 11 回 教科書基本編レッスン 11・レッスン 12：数量や時刻を尋ねる疑問代詞などについての学習。
- 第 12 回 発音と語法の総復習Ⅰ
- 第 13 回 発音と語法の総復習Ⅱ
- 第 14 回 発音と語法の総復習Ⅲ
- 第 15 回 まとめ

評価方法

評価は、授業時毎回の小試験を 50%、学期末筆記試験の成績を 50%とする。

使用教材

小幡敏行「大学一年生のための合格中国語」朝日出版社

授業外学習の内容

机に向かって学習するには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10 分程度で構わぬので、必ず毎日、口や下を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。また習慣的学習を身に着けたい。

備考

中国語の一語は、日本語の子音にあたる「声」と母音にあたる「韻」と、および高低のトーンである「調」とから構成され、この三者が正確に発音されなければ、相手に伝わる「コトバ」にはなり得ない。したがって授業は、最も基礎的な構文の徹底した反復学習によって中国語の発音ができる口を作ることに力点を置いて展開する。外国語の発音の習得は、困難なことでは決してないが、習慣的な学習の蓄積と、ある程度の忍耐が肝要である。履修者にはこの点を心得てほしい。

ハンゲル語（リテラシー）

担当者

河 正一

開講学科と時期・単位

全学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

韓国語で日常の基本的な会話ができるようになることである。取り分け、初級レベルの韓国語運用能力を身につける。

到達目標

正確な発音、正確な文字表記を習得する。基本的な韓国語の 4 技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力を向上させる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 韓国語について、基本母音
- 第 2 回 基本子音、複合母音
- 第 3 回 パッチム、発音の変化
- 第 4 回 第 1 課、私は浅井ゆかりです。
- 第 5 回 第 2 課、出身はソウルです。
- 第 6 回 第 3 課、図書館ではありません。
- 第 7 回 第 4 課、時間がありますが。
- 第 8 回 第 5 課、インターネットをします。
- 第 9 回 第 6 課、貿易会社で働いています。
- 第 10 回 第 7 課、東大門市場に行きます。
- 第 11 回 第 8 課、しょっちゅうスーパーで買います。
- 第 12 回 第 9 課、それは 1 万ウォンです。
- 第 13 回 第 10 課、今何時ですか。
- 第 14 回 第 11 課、日本語を話されますか。
- 第 15 回 まとめ

評価方法

韓国語ノート 40%、小テスト 30%、期末試験 370%

使用教材

木内明（2004）『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会、2,205 円

授業外学習の内容

必ず予習・復習を行うこと。授業では、韓国語ノートの作成を義務化している。韓国語ノートは、授業中の板書や授業後の宿題を記入する。履修の人数によるが、概ね隔週で回収して確認する。毎回授業の最初に毎回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。

備考

質問等がある場合は hajeongil007@gmail.com までに連絡すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハンゲル語：名前」を必ず記入すること。

コンピュータ入門 I (リテラシー)

担当者

坂本 孝

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

IT 社会においてコンピュータを真に活用するためには、ただ単にコンピュータの操作ができるだけでなく、その背景となる技術を理解することが必要不可欠である。「コンピュータ入門」の前編である本講義では、情報活用に関する基礎知識を習得し、コンピュータ内でのデータの扱いや構成装置の機能等について学ぶ。

到達目標

コンピュータ内部で様々な情報がどのように記憶・処理されているかを説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義概要と各種検定について
- 第 2 回 コンピュータの歴史と種類
- 第 3 回 コンピュータの分類、ハードウェアとソフトウェア
- 第 4 回 情報社会とコンピュータ
- 第 5 回 コンピュータの構成と性能
- 第 6 回 記憶装置 (1)
- 第 7 回 記憶装置 (2)
- 第 8 回 基数変換 (1)
- 第 9 回 基数変換 (2)
- 第10回 J 検 3 級問題
- 第11回 文字データの表現
- 第12回 入出力装置
- 第13回 論理演算
- 第14回 まとめ (1)
- 第15回 まとめ (2)

評価方法

毎回の確認テスト (80%)、学習姿勢 (20%) により評価する。

使用教材

未定

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。

備考

J 検情報活用試験 3～1 級に対応。

コンピュータ入門Ⅱ（リテラシー）

担当者

坂本 孝

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

IT 社会においてコンピュータを真に活用するためには、ただ単にコンピュータの操作ができるだけでなく、その背景となる技術を理解することが必要不可欠である。「コンピュータ入門」の後編である本講義では、ネットワークを中心とした応用知識を習得する。

到達目標

コンピュータシステム内やネットワーク上で様々な情報がどのように記憶・処理されているかを説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 負の数
- 第 2 回 2 進数の計算
- 第 3 回 入出力インターフェース
- 第 4 回 ファイル管理
- 第 5 回 ファイル形式
- 第 6 回 ネットワーク
- 第 7 回 ネットワーク (2)
- 第 8 回 ネットワーク (3)
- 第 9 回 J 検 2 級問題
- 第 10 回 J 検 2 級問題
- 第 11 回 コンピュータ犯罪とセキュリティ
- 第 12 回 システムの構成
- 第 13 回 システムの性能と信頼性
- 第 14 回 まとめ (1)
- 第 15 回 まとめ (2)

評価方法

毎回の確認テスト (80%)、学習姿勢 (20%) により評価する。

使用教材

未定

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと。

備考

J 検情報活用試験 2～1 級に対応。

コンピュータ実習 I (リテラシー)

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 1 単位

講義目標

パソコンはいまや文房具であり、それを使いこなすことはこれからの社会を生き抜く基礎力である。本実習は文書作成・プレゼンテーション・表計算の各ソフトウェアを使用する確かな基礎力を習得する。

到達目標

文書作成ではマイクロソフトの Word を使用してレポート等の作成が、自力でできる。プレゼンテーションでは PowerPoint を使用して、プレゼンテーションの作成と実施ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス
- 第 2 回 Windows 操作の基本、文字の入力
- 第 3 回 Word 文書作成の基本操作・文字の修飾、
- 第 4 回 Word 書式の設定、図表の挿入
- 第 5 回 Word 文書を用いたプレゼンテーション実施
- 第 6 回 Word 文書の編集、印刷
- 第 7 回 Word 課題文書の作成
- 第 8 回 PowerPoint スライド作成の基本操作
- 第 9 回 PowerPoint 図形の描画
- 第 10 回 PowerPoint プレゼンテーション資料作成
- 第 11 回 PowerPoint プレゼンテーション効果の活用、アニメーション設定
- 第 12 回 PowerPoint 課題プレゼンテーションの作成 (1) 全体構想
- 第 13 回 PowerPoint 課題プレゼンテーションの作成 (2) スライド作成
- 第 14 回 PowerPoint 課題プレゼンテーションの作成 (3) アニメーション設定、発表練習
- 第 15 回 PowerPoint 課題プレゼンテーション実施

評価方法

出席・課題の提出状況 (40%)、提出された課題成果物の出来栄 (30%)、発表の実施評価 (30%) を総合的に評価する。

使用教材

30 時間でマスター office2010 実教出版

授業外学習の内容

復習を行い、使えるようにすること。演習課題の提出が遅れる場合は、授業時間外に PC 室を積極的に利用すること。自宅の PC を用いて仕上げても良い。

備考

コンピュータ実習Ⅱ（リテラシー）

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 1 単位

講義目標

パソコンはいまや文房具であり、それを使いこなすことはこれからの社会を生き抜く基礎力であり、その基礎を習得する。

到達目標

表計算作成ではマイクロソフトの Excel を使用して、データの整理や集計、グラフ作成ができる。また、Excel と Word を連携したデータの差し込み印刷、PowerPoint へのグラフの挿入ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Excel 基本操作 データ入力の基礎
- 第 2 回 Excel 基本操作 基本的なワークシート編集
- 第 3 回 Excel 基本操作 関数、罫線、セル書式の指定
- 第 4 回 Excel 基本操作 グラフ作成
- 第 5 回 Excel 基本操作 関数（条件判定、順位づけ）
- 第 6 回 Excel 基本操作 関数を利用した検索
- 第 7 回 Excel 基本操作 Excel の便利な機能
- 第 8 回 Excel 基本操作 Word と Excel の活用
- 第 9 回 Excel 実践的資料作成
- 第10回 Excel 実践的表計算処理
- 第11回 Excel によるデータ分析と PowerPoint によるプレゼンテーション作成
- 第12回 Excel 検定 3 級問題
- 第13回 Excel 課題プレゼンテーションの作成（1）全体構想、グラフ作成
- 第14回 PowerPoint 課題プレゼンテーションの作成（2）スライド作成、発表練習
- 第15回 PowerPoint 課題プレゼンテーション実施

評価方法

出席・課題の提出状況（40%）、提出された課題成果物の出来栄（40%）、発表の実施評価（20%）を総合的に評価する。

使用教材

使用教材は未定

授業外学習の内容

復習を行い、使えるようにすること。演習課題の提出が遅れる場合は、授業時間外に PC 室を積極的に利用すること。自宅の PC を用いて仕上げて来ても良い。Excel 表計算処理技能認定試験に対応。資格取得を奨励する。

備考

世界の社会福祉発達史（専門教養科目）

担当者

戸澤 由美恵

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位、
健康栄養学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

人々の生活を守るために存在する社会福祉が、その国の中でどのように発展してきたのか、各国の歴史的経緯を含めて理解する。

到達目標

各国の歴史的経緯をふまえた社会福祉の制度と現状を考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 アジアの社会福祉－マレーシア①その国と人々の生活を知ろう
- 第 3 回 マレーシア②福祉の歴史を学ぼう
- 第 4 回 マレーシア③現在の福祉を知ろう
- 第 5 回 西欧の社会福祉－英国①その国と人々の生活を知ろう
- 第 6 回 英国②福祉の歴史を学ぼう
- 第 7 回 英国③現在の福祉を知ろう
- 第 8 回 まとめ
- 第 9 回 北米の社会福祉－アメリカ合衆国①その国と人々の生活を知ろう
- 第10回 アメリカ合衆国②福祉の歴史を学ぼう
- 第11回 アメリカ合衆国③現在の福祉を知ろう
- 第12回 北欧の社会福祉－スウェーデン①その国と人々の生活を知ろう
- 第13回 スウェーデン②福祉の歴史を学ぼう
- 第14回 スウェーデン③現在の福祉を知ろう
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験の成績 80%、ミニ・レポートや授業参加姿勢等 20%

使用教材

テキストは使用せず、資料は適宜プリントして配布する。

授業外学習の内容

自筆ノートを作成し、毎週の内容を整理・復習すること。講義時に配布された資料に書き込みなどをしてノート又はルーズリーフに貼り付ける（1 ページに 3 枚以内）。自分で調べた資料等の貼り付けも認める。定期試験時にはこの自筆ノートのみを持ち込み可とする。（ホチキス止めは認めない）

備考

国際保健医療論（専門教養科目）

担当者

李孟蓉

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ国際協力の必要性和意義を理解し、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識する。保健医療分野での国際協力の理論と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得する。

到達目標

1. 国際保健医療協力の概念を理解する。
2. 保健医療分野での国際協力の必要性和意義を理解する。
3. 世界の健康問題がわかり、それらに対する国際的戦略および課題を理解する。
4. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解する。
5. 国際保健医療協力の実践手法を理解する。
6. 在留外国人への健康支援を考察する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 国際保健医療協力の概念
- 第 2 回 保健医療関連の国際機関の取り組みと日本の国際協力
- 第 3 回 世界の保健医療事情
- 第 4 回 世界における健康の格差
- 第 5 回 発展途上国における疾病構造
- 第 6 回 事例検討
- 第 7 回 国際協力でのアセスメント①「地理・社会・教育」
- 第 8 回 国際協力でのアセスメント②「文化・宗教」
- 第 9 回 国際保健医療協力における世界の潮流
- 第10回 プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション
- 第11回 グローバルヘルスの展望と課題
- 第12回 問題解決手法：Project Cycle Management
- 第13回 国際協力の実際（対象国での協働）
- 第14回 在留外国人と多文化共生
- 第15回 異文化コミュニケーション

評価方法

レポート（70%）、授業参加度（30%）

使用教材

配布する資料

授業外学習の内容

授業資料は毎回使用します。事前に必読箇所を指定しますので、予習して臨んでください。授業の後にミニレポートを課します。前回の授業を踏まえて記述してもらいますので、復習して考えをまとめておいてください。

備考

授業の中でグループワーク／ディスカッションと発表を設けます。積極的な参加を期待しています。

世界の歴史と日本（専門教養科目）

担当者

山本 麻子

開講学科と時期・単位

全学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

本講座では、イギリスの諸側面をケーススタディとして扱いながら、他の国々に言及し、日本の諸側面と比較する。

到達目標

特に情報、技術、福祉等々の分野で将来活躍する者にとって大切である、物事を多角的に考え、実践することのできる能力を発展させることを目指す。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 序：歴史を学ぶ意義
- 第 2 回 現代のイギリスの動向
- 第 3 回 イギリスの教育（1）
- 第 4 回 イギリスの教育（2）
- 第 5 回 産業革命のころ（1）
- 第 6 回 産業革命のころ（2）
- 第 7 回 婦人の地位（1）
- 第 8 回 婦人の地位（2）
- 第 9 回 英語の歴史（1）
- 第10回 英語の歴史（2）
- 第11回 シェイクスピアの時代の前後（1）
- 第12回 シェイクスピアの時代の前後（2）
- 第13回 マガナカルタなど（1）
- 第14回 マガナカルタなど（2）
- 第15回 まとめ

評価方法

扱ったテーマについてのレポートを評価基準とする。また平常点も考慮する。

使用教材

教科書は指定しないが、講義に必要な資料は適宜プリントし、配布する。

授業外学習の内容

扱うテーマについて、これまで学んだことや知っていることを授業中質問するので、そのつもりで授業にのぞんでほしい。

備考

人間行動学（専門教養科目）

担当者

渡辺 俊之

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

講義、映画によるシネメディケーションを中心に臨床場面における患者行動や医療者としての行動と相互作用を理解する。

到達目標

医療場面における、ケアを受ける人の心理を理解し、適切な対人交流のための知識と技術を学ぶ

講義内容と講義計画

- 第 1 回 人間行動としての看護
- 第 2 回 患者の現実を把握する能力
- 第 3 回 人間関係をつくる能力（対象関係）
- 第 4 回 感情をコントロールする能力
- 第 5 回 自己愛と愛他主義
- 第 6 回 自我の機能（防衛）
- 第 7 回 ハンディキャップとスティグマ
- 第 8 回 ケアを受ける人の共通感情—否定的感情—
- 第 9 回 ケアを受ける人の共通感情—肯定的感情—
- 第10回 退行（心の子ども返り）
- 第11回 対象喪失とモーニング
- 第12回 転移について
- 第13回 逆転移について
- 第14回 疾病利得と心身症
- 第15回 まとめ

評価方法

記述試験

使用教材

「ケアを受けるための心を理解するために」 渡辺俊之著中央法規出版

授業外学習の内容

教科書の講義の担当頁を読んでくる。講義の後に参考文献を読む。

備考

病気の人、その家族、死別体験における心理を学ぶので、真摯な態度で授業に臨むこと。

健康運動実技（専門教養科目）

担当者

梶田 万里子

開講学科と時期・単位

全学科 2 年後期 選択 1 単位

講義目標

健康・体力づくりのための運動について理解し、基本的な運動が出来るようになる。

到達目標

個人の体力レベルに応じたプログラムを理解し、各自の目標とする運動強度で各種の運動が出来るようになる。
また自分の身体に気付き、自己管理が出来るようになる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス（筆記用具、室内シューズ着用）
- 第 2 回 ウォーキングの理論と実技①
- 第 3 回 ウォーキングの理論と実技②
- 第 4 回 ジョギングの理論と実技
- 第 5 回 ストレッチングの理解と実技
- 第 6 回 レジスタンス運動の理論と実技①
- 第 7 回 レジスタンス運動の理論と実技②
- 第 8 回 エアロビックエクササイズ実技①
- 第 9 回 エアロビックエクササイズ実技②
- 第10回 エアロビックエクササイズ実技③
- 第11回 エアロビックエクササイズ実技④
- 第12回 エアロビックエクササイズ実技⑤
- 第13回 チェアエクササイズの理論と実技①
- 第14回 チェアエクササイズの理論と実技②
- 第15回 健康運動実技のまとめ

評価方法

授業態度・授業内容の理解度 70%、レポート 30%

使用教材

必要に応じてプリントを配布する。

授業外学習の内容

日常生活においても正しい姿勢で歩いたり、軽い運動を行ったり、身体活動量を増加させ健康増進を心がけること。

備考

宗教と倫理（専門教養科目）

担当者

出雲 春明

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 選択 2 単位
健康栄養学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

東西の代表的な宗教・倫理思想に触れることで、世の多様な価値観への理解を養うことを目的とする。また、それによって自己の在り方に対する客観的・批判的な視座を養う。

到達目標

講義で取り扱った諸宗教・倫理思想の基本について説明することができる。そして、それを自己理解、他者理解に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 『聖書』の思想：一神教の系譜
- 第 3 回 善人とは何かー『旧約聖書』（『ヨブ記』）より（1）「応報主義」の論理
- 第 4 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（2）生誕の災い
- 第 5 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（3）自己の在り方を省みる
- 第 6 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（4）現代の事例から考える
- 第 7 回 善人とは何かー『ヨブ記』より（5）「応報主義」を超えるもの
- 第 8 回 旧約から新約へ：イエスの教え
- 第 9 回 悪人とは何かー『歎異抄』より（1）『歎異抄』について
- 第10回 悪人とは何かー『歎異抄』より（2）罪の意識
- 第11回 悪人とは何かー『歎異抄』より（3）浄土思想の展開（1）
- 第12回 悪人とは何かー『歎異抄』より（4）浄土思想の展開（2）
- 第13回 悪人とは何かー『歎異抄』より（5）「悪人正機説」
- 第14回 悪人とは何かー『歎異抄』より（6）悪の不可避性とそれゆえの無力
- 第15回 総括

評価方法

授業への参加とその態度（30%）、課題・期末レポート（60%）から評価する。

使用教材

講義中に資料を配布する

授業外学習の内容

なるべく平易な表現を用いて講義を行う。特に予習は求めないが、配付された資料を読むなど復習は必ず行うこと。「宗教」は非日常的なものとして敬遠されることも多い。しかし、だからこそ、そこで語られる教えや物語は、私たちが日常を省みるためのもの機会を提供してくれる。自分が普段、どのような判断や行動をしているか常に考えつつ、講義に臨んでほしい。

備考

レクリエーション論（専門教養科目）

担当者

大家 千枝子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 選択 2 単位、健康栄養学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

レクリエーションという世界に関心・興味を持つ学生のための入門的な授業。

到達目標

- 1 知識・理解の観点：レクリエーションの意義、歴史、使命、仕組み、制度、現代社会の課題を確認する。またそのうえでレクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解を深める。
- 2 思考・判断の観点：楽しさを原動力としたレクリエーション事業の類別ができる。
- 3 関心・意欲の観点：自らの経験を振り返りながらレクリエーション活動に積極的に関わり、問題意識をもつことができる。
- 4 態度の観点：積極的にレクリエーション事業に取り組むことができる。
- 5 技能・表現の観点：レクリエーション事業の計画・実施・評価を考える上で必要な資料や情報を収集し、適切な方法で表現できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス、レクリエーションとは
- 第 2 回 レクリエーションの基礎理論
- 第 3 回 レクリエーションの意義
- 第 4 回 レクリエーション運動を支える制度
- 第 5 回 レクリエーション支援の理論
- 第 6 回 ライフスタイルとレクリエーション
- 第 7 回 少子高齢化社会の課題とレクリエーション
- 第 8 回 レクリエーション事業論
- 第 9 回 レクリエーション事業とは
- 第10回 事業計画Ⅰ 集団を介して個人にアプローチする事業のつくり方 (1)
- 第11回 事業計画Ⅰ 集団を介して個人にアプローチする事業のつくり方 (2)
- 第12回 事業計画Ⅱ 市民を対象とした事業のつくり方 (1)
- 第13回 事業計画Ⅱ 市民を対象とした事業のつくり方 (2)
- 第14回 安全管理
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート課題 50%、授業態度・授業への参加度 30%、授業内での発表 20%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

授業外学習の内容

授業終了時に配布する課題についてレポートを作成すること。また、日頃から新聞やニュース、地域情報などをチェックし、学外のさまざまな分野で行われているレクリエーション活動に関心・興味をもつ。また、地元や身近な地域で開催されるレクリエーション事業に積極的に参加する。

備考

授業ごとの課題の配布、提出がある。授業を欠席した学生はその週のうちに課題を研究室まで取りに来ること。
(健康福祉学部 1 号館 3 階 302) また、積極的に C-Learning を活用する授業のため、ネット環境を整えておくこと。(無理な場合は大学 PC 室を利用してください) 受講上の注意：社会福祉学科の学生で「福祉レクリエーション・ワーカー」の資格取得を希望者は必ず履修すること。

数学基礎 I (専門導入科目)

担当者

東福寺 幾夫

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

高等学校までに学んだ数学を総ざらいし、大学での学習に必要な数学的基礎を確立する。

到達目標

高等学校の数学 I, II, A の基礎的問題が解ける

講義内容と講義計画

| | |
|---------------|--------------|
| 第 1 回 | Introduction |
| 第 2 回～第 3 回 | 数と式の計算 |
| 第 4 回～第 5 回 | 関数とグラフ |
| 第 6 回～第 8 回 | 三角関数 |
| 第 9 回～第 10 回 | 指数関数 |
| 第 11 回～第 12 回 | 対数関数 |
| 第 13 回～第 14 回 | 関数の極限 |
| 第 15 回 | まとめの演習 |

評価方法

学期末試験 (80%)、及び課題の提出状況 (20%) で評価する。

使用教材

大学新入生のための数学入門増補版石村園子著共立出版

授業外学習の内容

教科書の練習問題を解き、理解を深めること

備考

数学基礎Ⅱ（専門導入科目）

担当者

東福寺 幾夫

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

高等学校までに学んだ数学を総ざらいし、大学での学習に必要な数学的基礎を確立する。

到達目標

高等学校の数学 I，Ⅱ、A の基礎的問題が解ける

講義内容と講義計画

| | |
|---------------|--------------|
| 第 1 回～第 3 回 | 微分 |
| 第 4 回～第 6 回 | 積分 |
| 第 7 回～第 8 回 | パラメータ曲線と極方程式 |
| 第 9 回 | 複素平面と極座標 |
| 第 10 回～第 11 回 | ベクトルと空間図形 |
| 第 12 回 | 集合 |
| 第 13 回～第 14 回 | 順列、組合せと確率 |
| 第 15 回 | まとめの演習 |

評価方法

学期末試験（80%）、及び課題の提出状況（20%）で評価する。

使用教材

大学新入生のための数学入門増補版石村園子著共立出版

授業外学習の内容

教科書の練習問題を解き、理解を深めること

備考

物理学基礎（専門導入科目）

担当者

竹内 裕之

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

物理学の基礎は健康・医療分野で用いられる各種計測機器の原理と深い関わりがある。ここでは学生が健康・医療との関連を意識しながら高校レベルの物理を理解できるようにする。

到達目標

日常生活で経験する光、音、熱などに関わる物理現象を説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 導入・なぜ物理学を学ぶのか
- 第 2 回 光の性質と光の性質がもたらす現象
- 第 3 回 光と医療
- 第 4 回 音の性質と音の性質がもたらす現象
- 第 5 回 音と医療
- 第 6 回 物体の運動
- 第 7 回 物体の運動と医療
- 第 8 回 中間まとめ（中間試験を含む）
- 第 9 回 エネルギー
- 第10回 温度と熱
- 第11回 電力
- 第12回 電流と磁気
- 第13回 自然エネルギーと核エネルギー
- 第14回 放射線と健康・医療
- 第15回 まとめ（期末試験を含む）

評価方法

中間および期末試験の総合結果で評価するが、出席状況・受講態度も勘案する。

使用教材

- (1) 自作 ppt ファイルのプリント

授業外学習の内容

講義用 ppt ファイルを毎回事前に参照フォルダに入れておくので予習しておくこと。

備考

生物学基礎（専門導入科目）

担当者

石嶋 康史

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

生物学の基本的な知識を修得するために「細胞の機能」「タンパク質・糖・脂質」「遺伝」「遺伝情報とその発現」「エネルギー代謝と物質代謝」「生体内の情報伝達」「免疫」などについて学習する。

到達目標

- ・細胞の構造や機能について説明できる。
- ・生命活動を支える分子の構造や役割について説明できる。
- ・遺伝子の構造と機能について説明できる。
- ・生命活動に必要なエネルギーの産生について説明できる。
- ・生体内の情報伝達機構について説明できる。
- ・免疫のしくみについて説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 イントロダクション（石嶋）
- 第 2 回 細胞の構造と機能①（岡本）
- 第 3 回 細胞の構造と機能②（岡本）
- 第 4 回 動物の組織と器官（岡本）
- 第 5 回 タンパク質の構造と機能（石嶋）
- 第 6 回 糖質の構造と機能（石嶋）
- 第 7 回 脂質の構造と機能（石嶋）
- 第 8 回 エネルギー代謝と物質代謝（石嶋）
- 第 9 回 遺伝①（岡本）
- 第10回 遺伝②（岡本）
- 第11回 遺伝情報とその発現①（岡本）
- 第12回 遺伝情報とその発現②（岡本）
- 第13回 内分泌系と神経系（石嶋）
- 第14回 免疫（石嶋）
- 第15回 まとめ（石嶋）

評価方法

定期試験の結果により評価する。出席状況も考慮する。

使用教材

テキスト：ZERO からの生命科学（南山堂）

授業外学習の内容

授業後に教科書をよく読んで十分に復習しておくこと。

備考

化学基礎（専門導入科目）

担当者

西村 淳

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 選択 2 単位

講義目標

受講生が化学の領域の思考法を獲得することを目指した講義である。言い換えれば、どのような物質が現在の社会を支えるものとして利用されていて、なぜそれが利用できるのか、を考える素地を与えることを目標としている。科学（化学）を深く理解することを目指す他の講義を補完する目的を持っている。

到達目標

化学の主要科目としない分野の学生のための講義であり、出来るだけ実際に世の中で役立っている物質を題材にして、パワーポイントでそれらを示して、化学の現状と将来が概略把握できることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 はじめに
教師自己紹介、授業の到達目標およびテーマ、キーワード、授業についての注意
- 第 2 回 化学の起源・対象・成り立ち
物質の出現、化学史
- 第 3 回 化学の原理①——原子と分子
周期表
- 第 4 回 化学の原理①——原子と分子
結合、量子化学
- 第 5 回 化学の原理②——原子と分子
熱力学
- 第 6 回 化学の原理②——原子と分子
発熱反応、吸熱反応
- 第 7 回 化学反応
四つの基本的な反応
- 第 8 回 化学藩王
有機分子の反応と電子雲
- 第 9 回 化学の道具
秤りとる
- 第 10 回 化学の道具
原子の並びをつかむ
- 第 11 回 化学の恵み
水を安全にする化学
- 第 12 回 化学の恵み
土と空気
- 第 13 回 化学の恵み
医薬
- 第 14 回 化学の将来
ナノの世界
- 第 15 回 まとめ

評価方法

授業参加度及び貢献度（毎回の小テストを回収することで評価する。50 点満点）。試験（期末に試験を行う。ノ

ート持ち込み可、但し配布資料以外のゼロックスコピーを貼ったものは不可。50 点満点)。

使用教材

テキスト：アトキンス著、渡辺訳「化学、美しい原理と恵み」、丸善出版株式会社、2014、価格 1,080 円。
参考書：西村ら著「有機合成化学入門」（丸善出版株式会社）などのほか、適宜紹介する。
講義形式で授業を進める。LCD を用いてパワーポイントで講義する。ノートを取ることは必須である。

授業外学習の内容

高校の教科書あるいは化学の入門書で基礎部分を再確認することが望ましい。身の回りの物質の働きを観察して、授業で習った科学的な思考を利用して、原子、分子レベルでその喜作を考える訓練をして欲しい。

備考

授業中の質問は随時可能。質問はメール (jfgaorh.jun@gmail.com) でも受け付ける。
授業中の私語は厳禁であるが、授業時間中の小テスト解答中は周りの受講生と相談することを許している。

医療概論（医学英語 I 含む）（専門導入科目）

担当者

小澤 滯司

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

医学の体系、医学の歴史、医学倫理、医療制度など医学・医療に関する包括的な知識を習得する。また、英語による医学用語の表現法を理解する。

到達目標

医学の体系、医学の歴史、医学倫理、医療制度などの概要を説明することができる。また、医学英語に関しては、英語で表記された基本的な医学用語を日本語に訳すことができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 医学の体系（基礎医学、臨床医学、予防医学）
- 第 2 回 医学の歴史（1）ギリシャ、ローマ、中世の医学
- 第 3 回 医学の歴史（2）近代の医学（ルネッサンスから 18 世紀まで）
- 第 4 回 医学の歴史（3）19 世紀の医学
- 第 5 回 医学の歴史（4）20 世紀および現代の医学
- 第 6 回 医学の歴史（5）わが国の医学の歴史
- 第 7 回 医の倫理
- 第 8 回 社会保障制度と医療制度
- 第 9 回 医療法と医療計画
- 第 10 回 医学英語 I（1）造語の基本
- 第 11 回 医学英語 I（2）用語についての基本的な考え方
- 第 12 回 医学英語 I（3）器官系の解剖生理に関する用語
- 第 13 回 医学英語 I（4）特定疾患例の病因、症状、診断、治療などの英語表現（i）
- 第 14 回 医学英語 I（5）特定疾患例の病因、症状、診断、治療などの英語表現（ii）
- 第 15 回 筆記試験、重要事項の解説

評価方法

筆記試験 80%、授業への参加度・貢献度（出席、及び授業中の質疑に積極的に参加し、授業の進行に協力すること）20%

使用教材

診療情報管理士テキスト「診療情報管理 I（基礎・医学編）」・日本病院会
診療情報管理士テキスト「診療情報管理 II（基礎・医学用語編）」・日本病院会
授業はテキストに記載されている重要事項の解説を中心にして行う。

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業の重要事項について質問をするので、それらの意味を説明できるように十分な復習をすること。

備考

診療情報管理士資格必修科目

ソフトウェア入門（専門導入科目）

担当者

坂本 孝

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

プログラミング言語として C 言語を用い、基本的なプログラミング技法を習得することを目的とする。毎回 5 ～10 題程度の小課題を出題。ステップアップ学習方式で多くの課題をこなすことにより、プログラミングにおける様々な手法を身につける。

到達目標

制御文を使いこなし、様々な反復処理を行うプログラムを作成することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 プログラミング環境と基本操作
- 第 2 回 文字列の表示
- 第 3 回 変数の表示と演算
- 第 4 回 キーボードからの数値入力
- 第 5 回 条件分岐処理 if 分 (1)
- 第 6 回 条件分岐処理 if 分 (2)
- 第 7 回 反復処理 while 分 (1)
- 第 8 回 反復処理 while 分 (2)
- 第 9 回 合計計算
- 第10回 最大値・最小値
- 第11回 まとめ問題と復習
- 第12回 確認テスト
- 第13回 特別課題とりくみ
- 第14回 特別課題とりくみ
- 第15回 特別課題とりくみ

評価方法

課題提出状況 (50%)、試験 (30%)、学習姿勢 (20%) により評価する。

使用教材

自作教材を使用。

授業外学習の内容

毎回課題を出題するので、次回授業までに仕上げて提出すること。

備考

基本情報技術者試験に対応。

情報通信ネットワーク概論（専門導入科目）

担当者

長澤 亨

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

本講義は、ネットワークの構築・管理に関する基礎知識の修得を目的とする。また、1つの技術に特化することなく、基礎知識を広く修得することを目指す。

到達目標

- ・ ネットワークに関する基礎知識を説明できる。
- ・ TCP/IP を説明できる。
- ・ ネットワーク機器や仕組みを説明できる。
- ・ LAN や WAN で使われている技術やサービスを説明できる。
- ・ ネットワークセキュリティを説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ネットワークの基礎知識、プロトコルとレイヤ構造
- 第 2 回 LAN とインターネットに接続するには
- 第 3 回 クライアントサーバ型と P2P 型
- 第 4 回 回線事業者と ISP の役割
- 第 5 回 ADSL の役割
- 第 6 回 ネットワークアーキテクチャ
- 第 7 回 OSI 参照モデルと TCP/IP モデル
- 第 8 回 ネットワークインターフェース層とインターネット層の役割
- 第 9 回 トランスポート層の役割、TCP プロトコルの通信手順
- 第10回 アプリケーション層の役割
- 第11回 インターネットですでに使われるプロトコル
- 第12回 トランスポート層ですでに使われるポート番号
- 第13回 インターネット層ですでに使われる IP アドレス
- 第14回 サブネットマスクと VLSM と CIDR
- 第15回 まとめ

評価方法

中間試験 50%、期末試験 50% で評価する。

使用教材

図解ネットワーク仕事で使える基本の知識、増田若菜、技術評論者

授業外学習の内容

次の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。

備考

キーワード：プロトコル、OSI、TCP/IP、符号化、LAN・WAN

データベース概論（専門導入科目）

担当者

小杉 尚子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

ビッグデータ時代を迎え、データベース技術は情報システムの要となっている。本講義では、表計算ソフトとデータベースの違いを理解するところから始めて、データベースの設計に関わるモデル化について学び、その中でも特に重要な関係モデルについて詳細に学ぶ。後半は SQL を中心に講義を進め、最後はデータベース技術を用いた様々な応用事例を紹介し、これまで学習したことが、実社会でどのように役立つのかを学ぶ。

到達目標

データベースと表計算ソフトとの違いを理解し、データベース技術の重要性を説明できる。正規化を理解し、適切なリレーションスキーマ設計について説明できる。SQL を理解し、SQL を用いた問い合わせ文を作成できる。データベース技術が、社会の中でどのように利用されているかを説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス
- 第 2 回 データモデル
- 第 3 回 関係演算
- 第 4 回 データベースの設計
- 第 5 回 正規化
- 第 6 回 データベース管理システム
- 第 7 回 データベース管理システム (2)
- 第 8 回 小テスト (1)
- 第 9 回 SQL (1)
- 第10回 SQL (2)
- 第11回 SQL (3)
- 第12回 小テスト (2)
- 第13回 データベース応用 (1)
- 第14回 データベース応用 (2)
- 第15回 講義全体の復習

評価方法

期末試験 65%、小テストまたは課題 20%、授業参加度 15%

使用教材

自作教材（穴埋め式）を使用

授業外学習の内容

授業で使用した教材を、次回の講義までに読み返して復習しておくこと

備考

関連資格：IT パスポート、基本情報技術者

コミュニケーションメッセージ演習（専門導入科目）

担当者

案田 順子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

メッセージ表現の多様性と意味性・効果性を理解し、自己表現への応用を図る。前半ではコミュニケーション学の基本的要素を理解し、後半でメッセージ表現の方法性と方向性を把握する。そのために現行コマーシャルを分析し、オリジナルのコマーシャルを作成する。

到達目標

コミュニケーション表現能力の基礎知識を駆使し、コマーシャルの多様性と影響を考慮し独創性あふれた作品を創りあげる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 言語使用の生物学的基盤①構音器官の発達
- 第 2 回 言語使用の生物学的基盤②脳容量の増大
- 第 3 回 言語の発達と直立二足歩行
- 第 4 回 言語使用のニーズと言語能力の生得性
- 第 5 回 言語的コミュニケーションと思考様式①言語と思考
- 第 6 回 言語的コミュニケーションと思考様式②言語機能の恣意性
- 第 7 回 言語的コミュニケーションと思考様式③言語相対性仮説
- 第 8 回 コミュニケーションの認知分析
- 第 9 回 ノンバーバル・コミュニケーションと TV コマーシャル
- 第10回 現行コマーシャルの調査①グループワーキングでの分析
- 第11回 現行コマーシャルの調査②グループワーキングでの提案
- 第12回 オリジナルコマーシャルの作成①商品と購買対象、購入媒体等
- 第13回 オリジナルコマーシャルの作成②パワーポイント作成
- 第14回 オリジナルコマーシャルの作成③パワーポイント作成
- 第15回 コマーシャルメッセージの評価

評価方法

個人発表関連（発表前の資料収集・分析方法、発表時のレジュメ及び発表方法等）40%に、学期末筆記試験 50%と授業参加度 10%による。なお評価方法の基準は、講義初回時に提示する。

使用教材

『コミュニケーション学への招待』（大修館書店）…必ず授業に持参すること。

授業外学習の内容

普段から積極的にコミュニケーションをはかれるよう努め、CM 作品にも目を向けておくように。

備考

資格に関する内容：高校教諭一種「情報」資格必修科目

受講ルール：私語・携帯電話の使用・飲食については、授業の妨げになると考え、一切禁止する。

キーワード：「直立二足歩行」「ノンバーバルコミュニケーション」「オリジナル」「コマーシャル」

担当教員メールアドレス：janda@takasaki-u.ac.jp

情報システム概論（専門導入科目）

担当者

東福寺 幾夫

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

情報は企業活動において、ヒト・モノ・カネと並ぶ重要な経営資源のひとつである。企業における情報システムは企業の盛衰を左右する生命線となっており、コンピュータは不可欠の経営ツールである。情報システムの構築について理解するためには、「企業」について理解を深める必要がある。そこで本講座では、IT パスポート試験におけるストラテジ系と言われる領域の、企業の組織、会計、財務、経営戦略などについての基礎的な知識を得ること目的として開講する。

到達目標

IT パスポート試験のストラテジ系問題で、60%以上の正答率が得られること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 情報システム戦略
- 第 2 回 経営戦略 経営戦略マネジメント
- 第 3 回 経営戦略 技術戦略マネジメント
- 第 4 回 経営戦略 ビジネスインダストリ
- 第 5 回 企業と法務 企業活動・組織
- 第 6 回 企業と法務 企業会計
- 第 7 回 企業と法務 経営科学 OR、IE
- 第 8 回 企業と法務 経営科学 品質管理手法
- 第 9 回 企業と法務 経営科学 業務改善
- 第10回 企業と法務 法務と標準化 知的財産権
- 第11回 企業と法務 法務と標準化 労働関係法規
- 第12回 企業と法務 法務と標準化 技術者倫理
- 第13回 企業と法務 法務と標準化 標準化と認証制度
- 第14回 演習問題と解説
- 第15回 演習問題と解説

評価方法

評価は期末試験（90%）および授業への参加状況（10%）を総合的に判定する。

使用教材

「IT 戦略とマネジメント」インフォテックサーブ

授業外学習の内容

教科書を参照し、用語や略語の意味を確認しておくこと。

備考

Early Exposure（専門導入科目）

担当者

長澤 亨、児玉 直樹

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

社会人として必要とされる基礎知識やマナーなどを身につけるとともに、将来の進路を考えるための礎を築く。また、接遇や礼儀作法、一般常識、表現技法、報告書作成などの病院実習やインターンシップに必要な知識や技能を身につける。

到達目標

一般常識、コミュニケーション能力、社会人としてのマナーなどを身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 社会人としての一般常識と礼儀作法（大川先生）
- 第 3 回 医療事務管理士の業務内容、資格取得に必要な知識と技術（大川先生）
- 第 4 回 PG・SE の業務内容、資格取得に資格必要な知識と技術（坂本先生）
- 第 5 回 一般事務職の仕事、必要な知識と技術（長澤先生）
- 第 6 回 手紙、メールの基本的マナー（児玉）
- 第 7 回 診療情報管理士の業務内容、資格取得に必要な知識と技術（木村先生）
- 第 8 回 報告書作成およびプレゼンテーションスキル（長澤先生）
- 第 9 回 電話対応とコミュニケーションスキル*（小杉先生）
- 第10回 院内コミュニケーション、患者接遇*（大川先生）
- 第11回 医療機関の概要、医療保険制度*（木村先生）
- 第12回 医療関連法令、診療報酬制度*（児玉）
- 第13回 医療機関におけるコンピュータの活用*（竹内先生）
- 第14回 一般教養について
- 第15回 まとめ

評価方法

課題提出と学期末試験で評価する。

使用教材

必要に応じてプリントを配布する。

授業外学習の内容

各講義で出されるレポートの課題を仕上げ、遅滞なく提出すること。

備考

*印はホスピタルコンシェルジュ 3 級の試験対策に該当します。

医療経営論（専門導入科目）

担当者

木村 憲洋

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

医療機関で働く人たちが、経済・経営に関する知識を持つことの重要性が指摘されています。こうしたニーズに応え、本講義では、経営の指針となる経済学の代表的な理論を用いて病院経営を考えることを目的とします。

到達目標

病院経営において発生する様々な経営課題とそれに影響を与える事象と背景について経営の考え方の母体となる経済学の代表的な理論に基づき理解し、説明できるようになることを目標にします。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 我が国の医療システムとその課題
- 第 2 回 病院経営を「サunkコスト」の視点で考える
- 第 3 回 病院経営を「機会費用」の視点で考える
- 第 4 回 病院経営を「比較優位」の視点で考える
- 第 5 回 病院経営を「インセンティブ」の視点で考える
- 第 6 回 病院経営を「モラルハザード」の視点で考える
- 第 7 回 病院経営を「逆選択」の視点で考える
- 第 8 回 病院経営を「価格差別」の視点で考える
- 第 9 回 病院経営を「裁定」の視点で考える
- 第10回 病院経営を「囚人のジレンマ」の視点で考える
- 第11回 病院経営を「共有地の悲劇」の視点で考える
- 第12回 病院経営を「割引現在価値」の視点で考える
- 第13回 病院経営を「ネットワークの外部性」の視点で考える
- 第14回 まとめ 1
- 第15回 まとめ 2

評価方法

講義への取り組み状況（グループ討議・発言等）40%・課題 60%により評価します。評価方法の基準を初回講義でアナウンスします。

使用教材

適宜プリントを配布します。

授業外学習の内容

IT パスポートで必要とされる IE の知識、病院経営に関する知識の習得を目指すため、各授業のテーマについて事前に予習することと、随時出された課題を調べておくことが必要となります。

備考

人体構造・機能論（専門基幹科目）

担当者

小澤 滯司

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年前期 必修 2 単位

講義目標

人体の構造と機能について理解する。また、それらの基礎的知識に基づき病気の起こるメカニズムを考察する。

到達目標

人体を構成する細胞・組織・器官および器官系の構造と機能を理解し、これらの異常がどのような病気をもたらすかを推論できるようになることを目標とする。本科目の内容を十分に理解しておくことは、臨床医学総論、および臨床医学各論 I－VI を学ぶための準備として不可欠である。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 人体の構造と機能の概観
- 第 2 回 細胞・組織・器官・器官系
- 第 3 回 遺伝子のはたらき
- 第 4 回 骨格・骨格筋系の構造と機能
- 第 5 回 神経系の構造と機能 (1) ニューロン、グリア、シナプス
- 第 6 回 神経系の構造と機能 (2) 脳・脊髄、末梢体性神経系、自律神経系
- 第 7 回 感覚器の構造と機能
- 第 8 回 内分泌系とホルモン
- 第 9 回 血液・体液
- 第 10 回 循環器系の構造と機能
- 第 11 回 呼吸器系の構造と機能
- 第 12 回 消化器系の構造と機能
- 第 13 回 泌尿器系の構造と機能
- 第 14 回 生殖器系の構造と機能
- 第 15 回 筆記試験、重要事項の解説

評価方法

筆記試験 80%、授業への参加度・貢献度（出席、および授業中の質疑に積極的に参加し、授業の進行に協力すること）20%

使用教材

教科書：「カラーで学ぶ解剖生理学」ティボドー他著（コメディカルサポート研究会訳）・医学書院・2007 年・5,880 円

教科書に沿って授業を行う。特に、カラーの図を参照することによって、複雑な人体の構造と機能についての理解を深める。

参考書：診療情報管理士テキスト「診療情報管理 I（基礎・医学編）」・日本病院会

授業外学習の内容

①毎回授業の最初に前回授業の重要事項について質問をするので、それらに答えられるように十分な復習をすること。

②授業の復習として、教科書の各章の巻末にある「巻末テスト」および「復習問題」を解くことを義務づける。

臨床医学総論（専門基幹科目）

担当者

尾形 敏郎

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

病気の主な原因とその際に起こる人体の組織・器官の変化の概要を説明できる。また、病気の診断と治療がどのように行われるか、および病気の診断と治療の過程で行われる多種類の検査のもつ意義を説明できる。さらに、先天奇形、主な染色体異常症候群、および損傷・中毒・その他の外因が人体にもたらす影響を説明できる。

到達目標

病気の原因および診断・検査と治療の概要について理解する。また、先天奇形・染色体異常、および損傷・中毒・その他の外因が人体にもたらす影響を理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 健康と疾病、病気の原因
- 第 2 回 病気による組織・臓器の病理学的変化
- 第 3 回 病気の診断
- 第 4 回 検査所見 (1) (血液、尿、画像検査など)
- 第 5 回 検査所見 (2) (生理学的検査、病理組織検査、遺伝子診断など)
- 第 6 回 治療の概要
- 第 7 回 先天奇形 (1) (神経系、眼、耳、顔面、頸部、呼吸器系の奇形)
- 第 8 回 先天奇形 (2) (消化器系、生殖器、腎・尿路系、筋骨格系の奇形)
- 第 9 回 染色体異常
- 第10回 損傷 (1) (皮膚、筋・腱、血管、靭帯など軟部の損傷)
- 第11回 損傷 (2) (頭部、頸部、胸部の損傷)
- 第12回 損傷 (3) (腹部、下背部、腰椎、骨盤部の損傷)
- 第13回 損傷 (4) (肩、四肢の損傷)
- 第14回 薬物による中毒、物質の毒作用 (アルコール、農薬、生物由来の毒物などの作用)
- 第15回 筆記試験、重要事項の解説

評価方法

筆記試験 80%、授業への参加度・貢献度（出席、及び授業中の質疑に積極的に参加し、授業の進行に協力すること） 20%

使用教材

診療情報管理士テキスト「診療情報管理 I（基礎・医学編）」（日本病院会）

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業の重要事項について質問をするので、それらに答えられるように十分な復習をすること。

備考

診療情報管理士資格必修科目

臨床医学各論 I (感染症・寄生虫、血液) (専門基幹科目)

担当者

坂本 輝彦

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

病原微生物による疾患、および血液疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などについて、医療内容を理解するために必要な知識を習得する。

到達目標

病原微生物による疾患、および血液疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 感染症総論 (1) 病原微生物の種類
- 第 2 回 感染症総論 (2) 感染経路、症状、診断、検査
- 第 3 回 感染症総論 (3) 治療と予防
- 第 4 回 腸管感染症
- 第 5 回 呼吸器感染症
- 第 6 回 性感染症
- 第 7 回 ウイルス感染症の概要
- 第 8 回 ウイルス肝炎、ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 病
- 第 9 回 その他の感染症真菌症、原虫疾患、寄生虫病など
- 第10回 血液疾患 (1) 血液の組成、造血のメカニズム
- 第11回 血液疾患 (2) 血液疾患の症状、検査
- 第12回 血液疾患 (3) 貧血
- 第13回 血液疾患 (4) 凝固障害
- 第14回 血液疾患 (5) 免疫機構の障害
- 第15回 筆記試験、重要事項の解説

評価方法

筆記試験 80%、授業への参加度・貢献度 (出席、および授業中の質疑に積極的に参加し、授業の進行に協力すること) 20%

使用教材

診療情報管理士テキスト「診療情報管理 I (基礎・医学編)」(日本病院会)

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業の重要事項について質問をするので、それらに答えられるように十分な復習をすること。

備考

診療情報管理士資格必修科目

臨床医学各論Ⅱ（新生物、代謝・内分泌）（専門基幹科目）

担当者

坂本 輝彦

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

腫瘍（新生物）による疾患、および内分泌・代謝系疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などについて、医療内容を理解するために必要な知識を習得する。

到達目標

腫瘍（新生物）による疾患、および内分泌・代謝系疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 腫瘍（新生物）総論 腫瘍の定義、分類
- 第 2 回 腫瘍（新生物）の診断、治療
- 第 3 回 消化管の悪性新生物
- 第 4 回 肝・胆・膵臓の悪性新生物
- 第 5 回 呼吸器系の悪性新生物
- 第 6 回 骨・軟骨、皮膚、乳房の悪性新生物
- 第 7 回 生殖器、腎・尿路系の悪性新生物
- 第 8 回 脳、内分泌腺の新生物
- 第 9 回 リンパ組織、造血組織の悪性新生物
- 第10回 内分泌・代謝系疾患（1）内分泌疾患総論、甲状腺・副甲状腺の障害
- 第11回 内分泌・代謝系疾患（2）糖尿病とその他の膵内分泌障害
- 第12回 内分泌・代謝系疾患（3）下垂体の障害
- 第13回 内分泌・代謝系疾患（4）副腎の障害
- 第14回 内分泌・代謝系疾患（5）栄養欠乏症、肥満、代謝障害、体液・電解質の異常、酸塩基平衡障害
- 第15回 筆記試験、重要事項の解説

評価方法

筆記試験 80%、授業への参加度・貢献度（出席、および授業中の質疑に積極的に参加し、授業の進行に協力すること）20%

使用教材

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」（日本病院会）

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業の重要事項について質問をするので、それらに答えられるように十分な復習をすること。

備考

診療情報管理士資格必修科目

臨床医学各論Ⅲ（循環器・呼吸器）（専門基幹科目）

担当者

小澤 滯司

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

循環器、呼吸器の疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などについて、医療内容を理解するために必要な知識を習得する。

到達目標

循環器、呼吸器の各種疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 循環器疾患 (1) 循環器疾患総論①主要症候
- 第 2 回 循環器疾患 (2) 循環器疾患総論②ショックと心不全
- 第 3 回 循環器疾患 (3) 循環器疾患総論③検査 (i) 心音、心電図、不整脈
- 第 4 回 循環器疾患 (4) 循環器疾患総論④検査 (ii) 心エコー、心カテーテルなど
- 第 5 回 循環器疾患 (5) リウマチ性心疾患、弁膜症患
- 第 6 回 循環器疾患 (6) 先天性心疾患
- 第 7 回 循環器疾患 (7) 高血圧性疾患
- 第 8 回 循環器疾患 (8) 虚血性心疾患
- 第 9 回 循環器疾患 (9) 肺性心疾患、その他の心疾患（心膜炎、心筋症など）
- 第 10 回 循環器疾患 (10) 動脈、細動脈、毛細血管、静脈の疾患
- 第 11 回 呼吸器疾患 (1) 呼吸器疾患総論、呼吸不全
- 第 12 回 呼吸器疾患 (2) 上気道疾患、下気道疾患
- 第 13 回 呼吸器疾患 (3) 肺炎
- 第 14 回 呼吸器疾患 (4) 間質性肺疾患、胸膜疾患
- 第 15 回 筆記試験、重要事項の解説

評価方法

筆記試験 80%、授業への参加度・貢献度（出席、および授業中の質疑に積極的に参加し、授業の進行に協力すること） 20%

使用教材

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」（日本病院会）
授業はテキストに記載されている重要事項の解説を中心に行う。

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業の重要事項について質問をするので、それらに答えられるように十分な復習をすること。

備考

診療情報管理士資格必修科目

臨床医学各論Ⅳ（消化器・腎泌尿器、皮膚）（専門基幹科目）

担当者

坂本 輝彦

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

消化器、腎・泌尿器の疾患、および皮膚疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などについて、医療内容を理解するために必要な知識を習得する。

到達目標

消化器、腎・泌尿器の疾患、および皮膚の各種疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 消化器疾患 (1) 消化器疾患総論
- 第 2 回 消化器疾患 (2) 食道、胃・十二指腸の疾患
- 第 3 回 消化器疾患 (3) 小腸、大腸の疾患
- 第 4 回 消化器疾患 (4) 肝臓疾患
- 第 5 回 消化器疾患 (5) 胆嚢、胆管の疾患
- 第 6 回 消化器疾患 (6) 膵臓の疾患
- 第 7 回 腎・泌尿器疾患 (1) 腎疾患総論
- 第 8 回 腎・泌尿器疾患 (2) 腎糸球体疾患
- 第 9 回 腎・泌尿器疾患 (3) 腎尿細管間質性疾患
- 第10回 腎・泌尿器疾患 (4) 腎不全
- 第11回 腎・泌尿器疾患 (5) 尿路系疾患
- 第12回 皮膚疾患 (1) 皮膚疾患総論
- 第13回 皮膚疾患 (2) 皮膚および皮下組織の感染症、皮膚炎、湿疹、真菌症、蕁麻疹、紅斑
- 第14回 皮膚疾患 (3) 皮膚の結合織病（膠原病）
- 第15回 筆記試験、重要事項の解説

評価方法

筆記試験 80%、授業への参加度・貢献度（出席、および授業中の質疑に積極的に参加し、授業の進行に協力すること）20%

使用教材

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」（日本病院会）

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業の重要事項について質問をするので、それらに答えられるように十分な復習をすること。

備考

診療情報管理士資格必修科目

臨床医学各論Ⅴ（周産期、筋骨格）（専門基幹科目）

担当者

坂本 輝彦

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

妊娠、周産期における疾患、および筋・骨格系の疾患の特徴・病因・症状・診断・治療・予後などについて、医療内容を理解するために必要な知識を習得する。

到達目標

妊娠、周産期における疾患、および筋・骨格系の疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 生殖器の構造と機能、性周期
- 第 2 回 妊娠の成立と維持
- 第 3 回 正常の妊娠と分娩
- 第 4 回 流産
- 第 5 回 妊娠高血圧症候群、妊娠悪阻
- 第 6 回 予想される分娩の諸問題（1）胎位異常など
- 第 7 回 予想される分娩の諸問題（2）前置胎盤など
- 第 8 回 分娩・産褥における合併症
- 第 9 回 周産期の児に発生する病態
- 第10回 筋・骨格系疾患（1）関節障害
- 第11回 筋・骨格系疾患（2）全身性結合組織障害
- 第12回 筋・骨格系疾患（3）脊柱障害
- 第13回 筋・骨格系疾患（4）軟部組織障害
- 第14回 筋・骨格系疾患（5）骨・軟骨障害
- 第15回 筆記試験、重要事項の解説

評価方法

筆記試験 80%、授業への参加度・貢献度（出席、および授業中の質疑に積極的に参加し、授業の進行に協力すること）20%

使用教材

診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」（日本病院会）

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業の重要事項について質問をするので、それらに答えられるように十分な復習をすること。

備考

診療情報管理士資格必修科目

臨床医学各論Ⅵ（精神・脳神経・感覚器、医学英語Ⅱ）（専門基幹科目）

担当者

小澤 漣司

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

精神・神経系、感覚器の疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などについて、医療内容を理解するために必要な知識を習得する。また、多様な疾患の症状・検査・診断・治療に関する英語表現法を習得する。

到達目標

精神・神経系、感覚器の疾患の特徴・症状・診断・治療・予後などの基本的事項について説明できる。また、多様な疾患の症状・検査・診断・治療に関する英語表現を日本語に訳すことができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 神経系疾患 (1) 神経疾患の主要症状
- 第 2 回 神経系疾患 (2) 脳血管疾患
- 第 3 回 神経系疾患 (3) 中枢神経系の炎症性疾患、神経変性疾患
- 第 4 回 神経系疾患 (4) 脱髄疾患、末梢神経系疾患
- 第 5 回 神経系疾患 (5) 神経・筋接合部、骨格筋の疾患
- 第 6 回 精神と行動の障害 (1) 精神疾患総論
- 第 7 回 精神と行動の障害 (2) 認知症、統合失調症、気分障害など
- 第 8 回 眼科疾患、眼瞼、結膜、水晶体、硝子体、脈絡膜・網膜、視神経、眼筋の障害
- 第 9 回 外耳、中耳、内耳の障害
- 第 10 回 医学英語Ⅱ (1) 造語法の基本 (復習)
- 第 11 回 医学英語Ⅱ (2) 循環器・呼吸器疾患の症状・検査・診断・治療の用語
- 第 12 回 医学英語Ⅱ (3) 消化器・泌尿生殖器疾患の症状・検査・診断・治療の用語
- 第 13 回 医学英語Ⅱ (4) 精神神経・感覚器疾患の症状・検査・診断・治療の用語
- 第 14 回 医学英語Ⅱ (5) 皮膚・骨格系疾患、妊娠・分娩に関する症状・検査・診断・治療の用語
- 第 15 回 筆記試験、重要事項の解説

評価方法

筆記試験 80%、授業への参加度・貢献度（出席、および授業中の質疑に積極的に参加し、授業の進行に協力すること）20%

使用教材

- ①診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）」・日本病院会
 - ②診療情報管理士テキスト「診療情報管理Ⅱ（基礎・医学用語編）」・日本病院会
- 授業はテキストに記載されている重要事項の解説を中心にして行う。

授業外学習の内容

- ①毎回授業の最初に前回授業の重要事項について質問をするので、それらに答えられるように十分な復習をすること。
- ②医学英語については、学生が分担して問題集の問題を解いて、その解説をすることを義務づけるので、そのための予習を行うこと。

備考

医療情報学概論（専門基幹科目）

担当者

竹内 裕之

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

医療情報学は、情報技術を応用し、医療の質的向上と効率化、安全性向上などを実践的に達成することを目的とする。従って、学科必修の科目である。医療情報学概論では、基礎となる情報通信技術（IT）、医療情報の特徴、医療情報化政策、医療情報システム、医療情報の標準化、情報セキュリティなど全般的に学ぶ。

到達目標

診療情報管理士認定試験 専門該当分野で合格点を取れるレベル。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 導入・医療情報学とは
- 第 2 回 コンピュータの基礎
- 第 3 回 情報システムとデータベース
- 第 4 回 ネットワークの基礎と IT の医療への応用
- 第 5 回 医療情報の特徴と種類
- 第 6 回 行政が進める医療の情報化
- 第 7 回 中間まとめ（中間試験を含む）
- 第 8 回 病院情報システム（Ⅰ）
- 第 9 回 病院情報システム（Ⅱ）
- 第10回 電子カルテシステム
- 第11回 地域医療情報システム
- 第12回 医療情報の標準化
- 第13回 情報セキュリティ
- 第14回 診療情報管理士の仕事
- 第15回 まとめ（期末試験を含む）

評価方法

中間および期末試験の総合成績（80%）とレポート（20%）で評価する。

使用教材

診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ（専門・診療情報管理編）（社）日本病院会発行

授業外学習の内容

教科書にそって予習をしておくこと。

備考

生体情報学 I (専門基幹科目)

担当者

児玉 直樹

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

生体は多くの優れた機能を有しており、これらの優れた機能を測定・解析して応用することにより、医学的価値の高い医療機器を開発することが可能である。そのためには生体信号（血圧、温度など生体からの信号）を感度よく検出し、解析する必要がある。本講義では、血圧計、心電図、脳波など、医療現場で使用されている機器の測定原理、検出原理を理解することを目的とする。

到達目標

生体情報の取得方法及び解析方法を理解するとともに、医療機器の測定原理について理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 心電計
- 第 2 回 刺激伝導系と心電図の発生
- 第 3 回 脳波計
- 第 4 回 血圧計
- 第 5 回 筋電計
- 第 6 回 サーモグラフィ
- 第 7 回 パルスオキシメータと光の吸収特性
- 第 8 回 呼吸流量計
- 第 9 回 画像診断装置 I (CT)
- 第 10 回 画像診断装置 II (MRI)
- 第 11 回 画像診断装置 III (PET・SPECT)
- 第 12 回 超音波診断装置と音の特性
- 第 13 回 内視鏡装置
- 第 14 回 患者監視システム
- 第 15 回 安全対策 (電撃の安全対策)

評価方法

期末試験の成績 (90%) と授業への取り組み (10%) により総合的に評価する。

使用教材

「医用工学入門」(コロナ社) を使用する

授業外学習の内容

予習では講義内容に関するテキストを十分に読み、復習ではその日に習ったことを振り返り、理解すること。

備考

情報数学基礎（専門基幹科目）

担当者

小杉 尚子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

コンピュータやデジタル機器の原理を理解する上で必須となる基数変換、論理演算、順列、組み合わせ、確率、グラフ理論について、その基礎知識を習得する。

到達目標

- (1) 位取り表記の意味を理解し、基数変換ができる。
- (2) ブール代数（論理演算）の基礎を熟知し、論理式の意味が理解できる。
- (3) 論理式から加算器やエンコーダ・デコーダの論理回路図を作成できる。
- (4) 順列・組み合わせに基づく確率が計算できる。
- (5) グラフ理論の基礎が理解でき、木の説明ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス、数の表記法、10 進数の位取り表記法
 第 2 回 整数の 10 進数・2 進・8 進・16 進の相互変換
 第 3 回 小数の 10 進数・2 進・8 進・16 進の相互変換
 第 4 回 コンピュータにおける数の表現 2 の補数
 第 5 回 コンピュータにおける数の表現 浮動小数点方式、2 進化 10 進
 第 6 回 コンピュータにおける数の表現と演算に関わる誤差
 第 7 回 集合と論理、論理値
 第 8 回 論理演算 論理式と論理演算、論理演算の法則
 第 9 回 論理式の簡略化とカルノー図
 第10回 論理回路 論理回路記号、加算器
 第11回 論理回路 エンコーダ・デコーダ
 第12回 順列と組合せ
 第13回 確率
 第14回 グラフ理論の基礎 グラフと木
 第15回 まとめ

評価方法

期末試験 65%、小テストまたは課題 20%、授業参加度 15%

使用教材

選定中

授業外学習の内容

授業で使用した教材を、次回の講義までに読み返して復習しておくこと

備考

関連資格：教職、基本情報技術者試験

応用数学（専門基幹科目）

担当者

小杉 尚子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

身の回りのデジタル機器で利用されている画像処理技術や医療分野における CT, MRI を理解するためには、周波数領域の考え方が必須である。本講義では、実空間と周波数空間の考え方を理解するために必要な数学を学ぶ。

到達目標

三角関数、指数関数、三角級数の基本について理解し計算できる。極限の考え方を理解し基本的な関数の微分および積分ができる。基本的なフーリエ級数とフーリエ変換の計算ができる。周波数領域の応用と考え方を説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス
- 第 2 回 三角関数と指数関数
- 第 3 回 三角級数
- 第 4 回 関数の極限
- 第 5 回 接線、導関数、微分公式
- 第 6 回 関数の微分
- 第 7 回 三角関数の微分、指数の微分、対数の微分
- 第 8 回 不定積分
- 第 9 回 定積分
- 第10回 最少二乗法
- 第11回 直交関数
- 第12回 フーリエ級数
- 第13回 フーリエ変換
- 第14回 ウェーブレット解析
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験 65%、小テストまたは課題 20%、授業参加度 15%

使用教材

選定中

授業外学習の内容

授業で使用了教材を、次回の講義までに読み返して復習しておくこと

備考

情報システム各論（専門基幹科目）

担当者

東福寺 幾夫

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

企業活動において、情報はヒト・モノ・カネと並ぶ経営資源のひとつである。情報をいかに活用するかは、企業の盛衰を左右する重要な経営課題であり、情報システムは企業経営に不可欠の経営ツールである。情報システムの構築と運用に関わる人材にはこれに関わる広範な知識が要求される。そこで本講座では、情報システムに関わるセキュリティ、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査などの基礎的な知識を得ること目的として開講する。

到達目標

IT パスポート試験のストラテジ系およびマネジメント系問題で、60%以上の正答率が得られること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 セキュリティー-情報セキュリティの概要
- 第 2 回 セキュリティー-情報セキュリティ対策
- 第 3 回 セキュリティー-情報セキュリティ関連法規とガイドライン
- 第 4 回 セキュリティー-演習と確認小テスト
- 第 5 回 プロジェクトマネージメント-プロジェクトマネージメントの概要
- 第 6 回 プロジェクトマネージメント-プロジェクトマネージメントプロセスの概要
- 第 7 回 プロジェクトマネージメント-演習と確認小テスト
- 第 8 回 サービスマネージメント-IT サービスマネージメントの概要
- 第 9 回 サービスマネージメント-IT サービスマネージメント・プロセス
- 第10回 サービスマネージメント-演習と確認小テスト
- 第11回 システム監査と内部統制-システム監査
- 第12回 システム監査と内部統制-内部統制
- 第13回 システム監査と内部統制-演習と確認小テスト
- 第14回 まとめと演習
- 第15回 まとめと演習

評価方法

確認小テスト結果（40%）、期末試験（50%）、授業への貢献（10%）で評価する。

使用教材

「IT 戦略とマネジメント」インフォテックサーブ

授業外学習の内容

教科書で、用語の意味を確認しておくこと。

備考

プログラミング I (Cプログラミング基礎) (専門基幹科目)

担当者

坂本 孝

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

「ソフトウェア入門」で学習した C 言語の基本的なプログラミング技法を基に、主にデータ処理技法を習得することを目的とする。毎回 5～10 題程度の小課題を出題。ステップアップ学習方式で多くの課題をこなすことにより、プログラミングにおける様々な手法を身につける。

到達目標

反復処理と配列を用いたデータ処理プログラムを作成することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 反復処理 (for 文) ①
- 第 2 回 反復処理 (for 文) ②
- 第 3 回 2 重ループ処理①
- 第 4 回 2 重ループ処理②
- 第 5 回 long 型変数と float 型変数①
- 第 6 回 long 型変数と float 型変数②
- 第 7 回 double 型変数と数値演算関数①
- 第 8 回 double 型変数と数値演算関数②
- 第 9 回 配列の基本①
- 第10回 配列の基本②
- 第11回 配列を使った集計 (テーブル集計)
- 第12回 配列の初期化
- 第13回 まとめ問題と復習
- 第14回 まとめ問題と復習
- 第15回 まとめ問題と復習

評価方法

課題提出状況 (50%)、試験 (30%)、学習姿勢 (20%) により評価する。

使用教材

自作教材を使用。

授業外学習の内容

毎回課題を出題するので、次回授業までに仕上げて提出すること。

備考

基本情報技術者試験に対応。

プログラミングⅡ（Cプログラミング実用）（専門基幹科目）

担当者

坂本 孝

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

「ソフトウェア入門」「プログラミングⅠ」で学習した C 言語のプログラミング技法を基に、配列の応用と文字操作についての技法を習得することを目的とする。毎回 5～10 題程度の小課題を出題。ステップアップ学習方式で多くの課題をこなすことにより、プログラミングにおける様々な手法を身につける。

到達目標

配列を利用した応用プログラムと文字操作を行うプログラムを作成することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 二次元配列 (1)
- 第 2 回 二次元配列 (2)
- 第 3 回 テーブルサーチ (1)
- 第 4 回 テーブルサーチ (2)
- 第 5 回 金種計算
- 第 6 回 三次元配列 (1)
- 第 7 回 三次元配列 (2)
- 第 8 回 確認テスト
- 第 9 回 文字型データ (1)
- 第 10 回 文字型データ (2)
- 第 11 回 文字型データ (3)
- 第 12 回 文字型データの配列 (1)
- 第 13 回 文字型データの配列 (2)
- 第 14 回 まとめ問題と復習
- 第 15 回 まとめ問題と復習

評価方法

課題提出状況 (80%)、学習姿勢 (20%) により評価する。

使用教材

自作教材を使用する。

授業外学習の内容

毎回課題を出題するので、次回授業までに仕上げて提出すること。

備考

基本情報技術者試験に対応。

プログラミングⅢ（Cプログラミング応用）（専門基幹科目）

担当者

中村 賢治

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

C 言語の説明と演習を行う。プログラムの不得意な学生でも演習をクリアすることを目指す

到達目標

C 言語のポインタと構造体を中心に、ソートなどの基本的アルゴリズムを習得することを目指す。ステップアップ学習方式で多くの課題をこなすことにより、プログラミングにおける様々な手法を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 文字列の入力と編集
- 第 2 回 関数（引数がない場合）
- 第 3 回 関数（引数がある場合）
- 第 4 回 構造体
- 第 5 回 構造体配列
- 第 6 回 構造体と関数 1
- 第 7 回 構造体と関数 2
- 第 8 回 ポインタ 1
- 第 9 回 ポインタ 2
- 第 10 回 ポインタと関数 1
- 第 11 回 ポインタと関数 2
- 第 12 回 構造体ポインタ
- 第 13 回 ファイル処理
- 第 14 回 ソート 1
- 第 15 回 ソート 2

評価方法

課題提出状況（70%）、学習姿勢（30%）により評価する。

使用教材

自作教材を使用。

授業外学習の内容

毎回課題を出題するので、次回授業までに仕上げて提出すること。

備考

基本情報技術者試験に対応。

プログラミングⅣ（Windowsプログラミング）（専門基幹科目）

担当者

中村 賢治

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

プログラミング言語として VisualC# を使い、Windows アプリケーションの作成方法を習得することを目的とする。

到達目標

画像を使った簡単なゲームプログラムを作成できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 環境設定とプロジェクト作成
- 第 2 回 テキストボックス、ラベル、ボタン
- 第 3 回 ラジオボタン、チェックボックス、ピクチャーボックス
- 第 4 回 グループボックス、リストボックス
- 第 5 回 コンボボックス、ローカル変数とグローバル変数
- 第 6 回 メニューバー
- 第 7 回 日時取得、文字列操作
- 第 8 回 タイマー
- 第 9 回 コントロールの有効化と無効化
- 第10回 イメージリスト
- 第11回 乱数
- 第12回 キャラクタ画像の移動表示
- 第13回 フローチャート
- 第14回 ゲームプログラム制作
- 第15回 ゲームプログラム制作

評価方法

課題提出状況（70%）、学習姿勢（30%）により評価する。

使用教材

自作教材を使用する。

授業外学習の内容

毎回課題を出題するので、次回授業までに仕上げて提出すること。

備考

ソフトウェア I (専門基幹科目)

担当者

児玉 直樹

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

Visual Basic 言語を用いて基礎的なプログラミング技法を学習することにより、ソフトウェアに関する理解を深める。

到達目標

Visual Basic の言語を理解し、プログラミング技法の習得を目指す。また VB を通じて Web プログラミングを習得することにより、VBA プログラミングへその応用を広める

講義内容と講義計画

- 第 1 回 文字の表示
- 第 2 回 簡単な計算
- 第 3 回 数値処理関数
- 第 4 回 飛び越し
- 第 5 回 条件判断 I
- 第 6 回 条件判断 II
- 第 7 回 コントロールによる分岐
- 第 8 回 回数指定の繰り返し I
- 第 9 回 回数指定の繰り返し II
- 第 10 回 条件指定による繰り返し I
- 第 11 回 条件指定による繰り返し II
- 第 12 回 配列 I
- 第 13 回 配列 II
- 第 14 回 配列 III
- 第 15 回 配列 IV

評価方法

レポート課題 (100%) による評価する。

使用教材

Excel VBA 基礎編 (技術評論社)

授業外学習の内容

復習として、自宅等で VBA を操作し取得すること。

備考

ソフトウェアⅡ（専門基幹科目）

担当者

児玉 直樹

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

Visual Basic 言語を用いたプログラミング技法を理解し、より実用的なプログラミングを取得する。

到達目標

Visual Basic のより高度なプログラミングを習得する。特に文字処理、図形やファイルの取り扱いを理解し、自在に活用できるように理解を深める

講義内容と講義計画

- 第 1 回 文字列の処理Ⅰ
- 第 2 回 文字列の処理Ⅱ
- 第 3 回 文字列の処理Ⅲ
- 第 4 回 図形の描画Ⅰ
- 第 5 回 図形の描画Ⅱ
- 第 6 回 画像の取扱
- 第 7 回 シーケンシャルファイルの処理Ⅰ
- 第 8 回 シーケンシャルファイルの処理Ⅱ
- 第 9 回 シーケンシャルファイルの処理Ⅲ
- 第10回 ランダムファイルの処理Ⅰ
- 第11回 ランダムファイルの処理Ⅱ
- 第12回 ファイル処理の関数
- 第13回 応用プログラミングⅠ
- 第14回 応用プログラミングⅡ
- 第15回 応用プログラミングⅢ

評価方法

レポート課題（100%）により評価する。

使用教材

Excel VBA 応用編（技術評論社）

授業外学習の内容

復習として自宅等で VBA を操作し、習得すること。

備考

直、「ソフトウェアⅠ」を履修していることが望ましい。

Webプログラミング I (HTML、CSS) (専門基幹科目)

担当者

長澤 亨

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 選択 2 単位

講義目標

インターネットにおけるホームページの役割を理解し、実際にホームページの設計作成を身につける。

到達目標

HTML、CSS に関する基本的な知識を習得し、ホームページをデザインし、その作成ができる。また Web ページのソースを見て、内容を正しく理解し、適切に追記修正をおこなうことができる。また、文書の構造化や CSS によるレイアウトを作成することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義と評価、Web クリエータ能力認定試験について
- 第 2 回 HTML の基本、一般定義
- 第 3 回 文字修飾と仕切り
- 第 4 回 リンク、イメージマップ
- 第 5 回 埋め込みオブジェクト、リスト
- 第 6 回 テーブルの基本
- 第 7 回 フォームの基本
- 第 8 回 フレームの基本
- 第 9 回 スタイルシートの基本
- 第10回 スタイルシートのプロパティ、テキスト、フォント
- 第11回 スタイルシートのプロパティ、背景、ボックス
- 第12回 スタイルシートのプロパティ、配置
- 第13回 スタイルシートのプロパティ、リスト
- 第14回 スタイルシートのプロパティ、テーブル、その他
- 第15回 まとめ

評価方法

課題提出 50%、模擬試験 50%で評価する。

使用教材

よくわかるマスターWeb クリエータ能力認定試験対策テキスト&問題集 (初級)

授業外学習の内容

次回の授業に備え復習し、練習問題を解くこと。

備考

キーワード：HTML、CSS、Web クリエータ

WebプログラミングⅡ（JavaScript）（専門基幹科目）

担当者

長澤 亨

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

動的ホームページの基本を理解し、実際に作成できる能力を養う。特に JavaScript 言語を理解しプログラミングできる能力を養う。つまり高い表現力を持ったインタラクティブな Web コンテンツを作成できる能力を培う。

到達目標

JavaScript 言語の基本を理解し、プログラムを読み説明できる。JavaScript 言語を使ったイベントハンドラや関数を理解しプログラムを記述できる。AJAX を説明でき簡単なプログラムを記述できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義概要と評価、Web プログラミング認定試験について
- 第 2 回 JavaScript 言語の概要と記述ルール
- 第 3 回 イベントハンドラと関数の基本
- 第 4 回 変数の宣言と変数の演算
- 第 5 回 配列と関数の引数、関数の戻り値
- 第 6 回 繰り返し処理 (1)
- 第 7 回 break と continue
- 第 8 回 条件分岐、文字入力とエラー処理
- 第 9 回 オブジェクトとウィンドウの操作
- 第10回 スクロール操作、文字色、背景色操作
- 第11回 画像の操作
- 第12回 日付、時刻の操作
- 第13回 フォームの操作、URL と履歴の操作
- 第14回 一定間隔での処理を繰り返す、クッキーの操作
- 第15回 まとめ

評価方法

課題達成 50%、小テスト 50%で評価する。

使用教材

JavaScript ワークブック

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習しておくこと。

備考

キーワード：JavaScript, Web Programing

情報処理演習 I (専門基幹科目)

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

Excel はあらゆるビジネスシーンにおいてもっとも活用されている表計算ソフトである。本講義は、その Excel を活用して効果的に実務を行うための技術、知識を習得することを目的とする。

到達目標

Excel 表計算処理技能認定試験 2 級に合格するに足る知識の習得

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス
- 第 2 回 作業環境、基本操作
- 第 3 回 関数演習
- 第 4 回 グラフ機能、オブジェクト
- 第 5 回 Excel の機能
- 第 6 回 過去問題対策 (1) マクロ、ピボットテーブル
- 第 7 回 過去問題対策 (2) ゴールシーク、集計
- 第 8 回 過去問題対策 (3) データベース関数
- 第 9 回 ユーザ定義書式
- 第 10 回 数学関数、日時関数
- 第 11 回 文字列関数
- 第 12 回 グラフの応用
- 第 13 回 過去問題対策 (4) 模擬問題知識
- 第 14 回 過去問題対策 (5) 模擬問題実技
- 第 15 回 まとめ

評価方法

課題提出状況 (20%)、試験結果 (60%)、学習姿勢 (20%) で評価する。

使用教材

Excel 表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 サーチファイソフトウェア活用能力認定委員会

授業外学習の内容

毎回、演習課題を出すので演習課題の提出が遅れる場合は、授業時間外に PC 室を積極的に利用すること。

備考

Excel 表計算処理技能認定試験に対応。

アルゴリズムとデータ構造（専門基幹科目）

担当者

坂本 孝

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

情報処理とはデータを加工処理することであり、それが加工されやすいようにデータを格納しておく形態をデータ構造といい、加工手順のことをアルゴリズムという。すなわち、データ構造とアルゴリズムはコインの裏表の関係にある。本講義では、情報技術者として必須となるデータ構造とアルゴリズムの代表的な知識習得を目的とする。

到達目標

- ①基本的なデータ処理手法を説明できる。
- ②各種データ構造における代表的な探索・整列アルゴリズムを説明できる。
- ③疑似言語の表記法による資格試験の問題が解ける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 アルゴリズムの基本
- 第 2 回 基本データ処理 (1)
- 第 3 回 基本データ処理 (2)
- 第 4 回 基本データ処理 (3)
- 第 5 回 配列操作 (1)
- 第 6 回 配列操作 (2)
- 第 7 回 配列操作 (3)
- 第 8 回 配列操作 (4)
- 第 9 回 文字操作 (1)
- 第10回 文字操作 (2)
- 第11回 データ探索 (1)
- 第12回 データ探索 (2)
- 第13回 整列 (1)
- 第14回 整列 (2)
- 第15回 疑似言語

評価方法

試験 (40%)、課題提出状況 (40%)、学習姿勢 (20%) により評価する。

使用教材

はじめてのアルゴリズム (インフォテック・サーブ)

授業外学習の内容

毎回、小テストを実施するか実習課題を出題するので復習しておくこと。

備考

高校教諭一種「情報」資格必修科目 基本情報技術者試験対応科目

マルチメディア入門（専門基幹科目）

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

本講義では、受講者がマルチメディアに関連する基礎的な事項を理解するとともに、CG やアニメーション作成の演習を通じて、マルチメディアコンテンツを作成するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。

到達目標

レイトレーシングソフトウェアを用いた CG を作成し、アニメーションにすることができる。画像を素材として、加工して利用することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス
- 第 2 回 マルチメディアと情報化社会
- 第 3 回 情報のデジタル化
- 第 4 回 マルチメディアの構成要素とその取り扱い
- 第 5 回 CG 作成演習 (1) 基本操作
- 第 6 回 CG 作成演習 (2) 基本図形
- 第 7 回 CG 作成演習 (3) 物体の移動、回転
- 第 8 回 CG 作成演習 (4) 物体の組み合わせ
- 第 9 回 CG 作成演習 (5) 回転体、テクスチャー
- 第10回 CG 作成演習 (6) アニメーション制作
- 第11回 Photoshop 画像サイズ、解像度、フォーマットの変換
- 第12回 Photoshop 範囲選択、写真合成
- 第13回 Photoshop ノイズ除去、色補正
- 第14回 Photoshop 透明化、グラデーション
- 第15回 課題作品制作

評価方法

課題提出状況 (40%)、提出された課題成果物の出来栄 (40%)、学習姿勢 (20%) で評価する。

使用教材

自作教材を利用。

授業外学習の内容

テキストを読み復習すること。演習課題の提出が遅れる場合は、授業時間外に PC 室を積極的に利用すること。

備考

高校教諭一種「情報」資格必修科目

情報管理概論（専門基幹科目）

担当者

坂本 孝

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

今や大量の情報を PC に保存し、情報システムで管理し、ネットでやりとりする時代であるが、障害や人的災害によるデータの紛失や情報漏えい、トラブルが後を絶たない。本講義では、このような問題を未然に防ぐための情報管理法について学ぶ。

到達目標

PC トラブルが発生しても困らない情報管理ができ、情報システムにおける様々な情報管理法について理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 データベース管理 (1)
- 第 2 回 データベース管理 (2)
- 第 3 回 データベース管理 (3)
- 第 4 回 PC 故障に対する備え
- 第 5 回 ソフトウェア動作の仕組みとメモリ管理
- 第 6 回 ディスク管理 (1)
- 第 7 回 ディスク管理 (2)
- 第 8 回 RAID システム
- 第 9 回 アクセス管理 (1)
- 第10回 アクセス管理 (2)
- 第11回 バックアップ管理
- 第12回 コスト管理
- 第13回 知的財産権
- 第14回 個人情報保護と情報モラル
- 第15回 まとめ

評価方法

確認テスト (80%)、学習姿勢 (20%) により評価する。

使用教材

自作教材を使用。

授業外学習の内容

毎回授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと。

備考

J 検情報活用試験 1 級に対応

医療管理総論（専門展開科目）

担当者

木村 憲洋

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

医療情報を理解する上で診療情報管理や日本の医療制度などについて理解し知識を習得する必要がある。そこで、医療管理総論では、医療のマクロ的な視点とミクロ的な視点について概説する。

到達目標

医療制度に関する知識と診療情報管理と診療情報管理士について理解する。医療制度の理解は、診療情報管理士としての方向性を決める上での目標設定ができることができることを目指す。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 診療情報管理
- 第 2 回 診療情報管理士の役割 1
- 第 3 回 診療情報管理士の役割 2
- 第 4 回 医療資源 人
- 第 5 回 医療資源 物
- 第 6 回 医療資源 金
- 第 7 回 医療資源 情報
- 第 8 回 日本の医療制度 1
- 第 9 回 日本の医療制度 2
- 第 10 回 医療の需要
- 第 11 回 医療の供給
- 第 12 回 地域医療（医療供給体制）
- 第 13 回 医療関連の法規 医師法
- 第 14 回 医療関連の法規 医療法
- 第 15 回 医療関連の法規 健康保険法

評価方法

定期試験（100%）

使用教材

診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ（専門・診療情報管理編）
病院のしくみ、日本実業出版社
病院は、めんどくさい 光文社
病院経営のしくみ、日本医療企画

授業外学習の内容

医療管理総論は、医療政策などに関する知識を学ぶため、慣れない用語が多くなります。きちんと教科書と指定図書を読むこと、講義中に 3 回程度、課題があるので調べて提出する必要があります。

備考

医療管理各論（専門展開科目）

担当者

木村 憲洋

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

医療管理総論で習得した知識を深めることと実際の医療現場での応用について学ぶ。ここでは、実際に病院経営のポイントや医療費の支払制度やその支払制度の背景について理解する。

到達目標

診療情報管理士にとって、必要な病院管理と経営の知識を習得する。習得する知識は、病院管理の現場における最低限度の知識とし、将来的な指針となることにもつながる知識である

講義内容と講義計画

- 第 1 回 病院の経営管理 プロセス
- 第 2 回 病院の経営管理 危機管理
- 第 3 回 病院の経営管理 管理と組織
- 第 4 回 医療管理と部門管理
- 第 5 回 診療報酬制度の概要
- 第 6 回 医療の評価
- 第 7 回 医療現場の情報共有
- 第 8 回 医療の標準化
- 第 9 回 医療の質の評価とは
- 第10回 医療評価の歴史
- 第11回 日本の医療評価
- 第12回 ケースミックス区分法とは
- 第13回 DRG-PPS
- 第14回 DPC
- 第15回 要介護度と RUGs

評価方法

評価方法：定期試験（100%）

使用教材

診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ（専門・診療情報管理編）
病院のしくみ、日本実業出版社
病院経営のしくみ、日本医療企画
病院は、めんどくさい 光文社

授業外学習の内容

医療管理各論については、医療管理総論の内容を復習すること、教科書などをきちんと読み、まとめることで授業前に理解しておくこと、教員から提示する課題について指定通りに提出してください。

備考

診療情報管理論（専門展開科目）

担当者

大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

患者が受診すれば最初に診療録が作成され、診療に関する情報が記録される。その記録に関する理解を深めるとともに、よりよい記録の作成を支援し、そこから発生する情報の活用とその管理体制の骨組みを理解する。また、診療記録の価値を十分に発揮させるために、責任のある効率的な管理運用に関わっているのが診療情報管理部門である。そこに集約されるさまざまな医療情報が、有効かつ迅速に活用されるために必要な基本的・具体的な管理方法と業務内容の実務について理解する。

到達目標

診療情報と管理について理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション：6 章 1.診療に関する情報とは、2.診療情報管理の背景
- 第 2 回 3.診療情報管理と法規①から⑦記載と保存
- 第 3 回 3.診療情報管理と法規⑧から⑫提示、守秘ほか
- 第 4 回 3.診療情報管理と法規⑬個人情報保護、病院の対応
- 第 5 回 4.診療記録の記載方法
- 第 6 回 5.臨床評価指標
- 第 7 回 6.診療記録の電子化への対応、7 章 1.診療情報管理委員会（※5 回へ）
- 第 8 回 2.診療記録用紙の種類と内容
- 第 9 回 3.診療情報管理部門の業務①から⑦
- 第 10 回 4.診療情報の管理①「もの」の管理…1 から 3
- 第 11 回 4.診療情報の管理①「もの」の管理…4 から 9
- 第 12 回 4.診療情報の管理②「情報」の管理、5.診療情報の活用
- 第 13 回 6.診療情報の提供
- 第 14 回 7.がん登録／まとめと補足
- 第 15 回 総まとめ

評価方法

課題・定期テスト 100%

使用教材

診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅲ

授業外学習の内容

次回の授業範囲のテキストを必ず読んでおくこと

備考

診療情報管理士資格必修科目

医療情報学各論（専門展開科目）

担当者

竹内 裕之

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

医療情報学各論では、少子高齢化社会における医療機関で今後必要となる医療機器・情報システムの具体例を多く挙げ、その機能・役割を考えることを通して医療情報学概論で学んだことの肉付けを行う。

到達目標

少子高齢化社会を展望し、今後のあるべき医療機関像とそれに相応しい新たな医療機器・情報システムとは何かを考える力をつける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 導入・社会の潮流と展望
- 第 2 回 少子高齢化社会
- 第 3 回 医療機関のあり方
- 第 4 回 新たな医療施設と機能分化
- 第 5 回 医療機関の具体的将来像
- 第 6 回 基盤技術の動向
- 第 7 回 在宅医療機器・システム
- 第 8 回 医療機器とネットワークの融合
- 第 9 回 医療情報ネットワーク
- 第10回 高度医療機器（Ⅰ）
- 第11回 高度医療機器（Ⅱ）
- 第12回 無線技術と医療
- 第13回 無線技術の現状と展望
- 第14回 医療への無線活用の具体例
- 第15回 まとめ（期末試験を含む）

評価方法

期末試験の成績（80%）とレポート（20%）で評価する。

使用教材

「医療機器・情報システムの動向に関する調査研究」および「医療への無線技術活用に関する調査研究」の冊子

授業外学習の内容

教科書にそって予習をしておくこと。予め課題をだし（4回）、その結果を授業で使うので必ず実施すること。

備考

医療統計学（専門展開科目）

担当者

児玉 直樹

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

医療でよく用いられる統計に関する基礎的な知識や考え方について学ぶ。

到達目標

医療データの特性を理解し、基本的な統計量を算出できる。適切なデータ処理ができ、グラフ表現ができる。病院等で使用されている統計調査および統計指標を理解できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 統計学の基礎
- 第 2 回 母集団と標本
- 第 3 回 変量と尺度
- 第 4 回 記述統計 I
- 第 5 回 記述統計 II
- 第 6 回 推測統計 I
- 第 7 回 推測統計 II
- 第 8 回 データのグラフ表現 I
- 第 9 回 データのグラフ表現 II
- 第 10 回 データのグラフ表現 III
- 第 11 回 病院統計の作成と意義
- 第 12 回 主な統計調査
- 第 13 回 主な医療評価指標
- 第 14 回 統計指標の活用
- 第 15 回 病院管理統計表

評価方法

学期末試験（90%）、授業への取り組み（10%）による総合評価する。

使用教材

診療情報管理テキスト「診療情報管理Ⅲ」（社団法人日本病院会）を使用する。

授業外学習の内容

予習復習を十分に行い、医療統計の知識と技術を理解すること。

備考

診療情報管理士資格必修科目高校教諭一種「情報」資格選択科目

医療統計学演習（専門展開科目）

担当者

児玉 直樹

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

医療統計学に関する知識や考え方を演習を通じてより深く学ぶ。

到達目標

実際のデータを使って、前処理ができる。基本統計量が算出できる。点推定と区間推定が算出できる。平均値に関する適切な検定方法の選定し検定できる。分散分析の利用目的を理解し、実際のデータを処理し結果を読むことができる。分割表分析の適切な検定方法の選択と実際のデータを検定できる。相関係数をもとめ検定できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義の進め方・基本統計量
- 第 2 回 前処理（ヒストグラム、はずれ値処理など）
- 第 3 回 点推定と区間推定
- 第 4 回 平均に関する推定と検定 I
- 第 5 回 平均に関する推定と検定 II
- 第 6 回 分散に関する推定と検定
- 第 7 回 比率に関する推定と検定
- 第 8 回 適合度の検定
- 第 9 回 独立性の検定
- 第10回 ノンパラメトリック検定 I
- 第11回 ノンパラメトリック検定 II
- 第12回 回帰分析
- 第13回 一元配置分散分析
- 第14回 二元配置分散分析
- 第15回 多重比較

評価方法

課題レポート（100%）により評価する。

使用教材

「Excel で学ぶ統計解析入門」（オーム社）を使用する。

授業外学習の内容

復習して Excel による医療統計を習得すること。

備考

診療情報管理士の取得を希望する学生は選択すること。

生体情報学Ⅱ（専門展開科目）

担当者

児玉、竹内、東福寺、長澤、中村

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

生体情報学Ⅱでは、生体情報学Ⅰで学んだ知識をもとに、1号館6階の生体情報実験室にある生体計測機器および電子機器を用いて実験し、その原理と仕組みについて理解するとともに、報告書（レポート）の作成方法について学ぶ。実験は班単位で実施するが、報告書（レポート）は個人毎に作成する。

到達目標

医療に利用されている機器の原理や操作方法を説明できる。また電子回路・サーモグラフィー、心電・筋電などのデータの取得と解析ができる。さらに体の3D構造を理解し、目的部位の超音波画像をプローブで表示できる。

講義内容と講義計画

最初に実験ガイダンスとレポートの書き方、注意事項について説明する。

実験テーマ

第1回 電流計の原理とテスタによる直流電圧、抵抗の測定

第2回 オシロスコープを用いたCR回路定数の測定

第3回 血圧計、サーモグラフィ

第4回 筋電図、心電図

第5回 脳波、眼球運動

第6回 超音波診断（腹部）

実験は12班（1班あたり6名以下）に分かれ、各班ごとに上記実験テーマを行い、実験と報告書提出を2週間のサイクルで実施する。なお、提出された報告書が不十分な内容であれば再提出を求める。

評価方法

評価は提出された報告書（100%）により行う。特に報告書に記載されている考察・課題の項目を重点的に評価する。報告書は実験終了後1週間以内に担当教員まで提出する。報告書未提出は不合格となる。報告書は実験終了後1週間以内に担当教員まで提出する。報告書未提出は不合格となる。

使用教材

学科独自で作成した実験書を使用する。

授業外学習の内容

次回実習する内容に関して使用教材を熟読し、分からない専門用語は予め調べておくこと。また予め提出レポートの目的や方法など記載しておくことが望ましい。

備考

報告書（レポート）作成に重点を置いていることを理解するとともに、実験前に実験書を必ず熟読する必要がある。なお、「電子情報工学基礎」を履修していることが望ましい。

分類法総論（専門展開科目）

担当者

大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

情報の効果的な処理方法のひとつとして「分類法」がある。「分類法」とは、大量に発生する情報を整理・統合して必要に応じた検索・集計を容易にするための方法であり、その手段としてコーディングがある。疾病の分類を中心に、その概念・種類・目的及び診療録に記載された内容について、分類コードをつけるための理論と技法を修得する。ICD-10 の具体的な使用方法を理解し、腫瘍の分類、医療行為の分類についての理解と知識を深め、それらの活用能力を身につけることを目指す。

到達目標

ICD-10 コードブックによるコーディングができるようになる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 分類法とは
- 第 2 回 国際疾病分類の意義と目的
- 第 3 回 ICD-10 と関連する他の分類①ICD-10 の特徴
- 第 4 回 ICD-10 と関連する他の分類②ファミリーの概念
- 第 5 回 ICD-10 の基本体系および章ごとの注釈
- 第 6 回 疾病統計①「主要病態」および「その他の病態」のコーディング・ガイドライン
- 第 7 回 疾病統計②主要病態が適正に記載されていない場合の再選択ルール
- 第 8 回 死因統計①死亡診断書および死亡原因と原死因
- 第 9 回 死因統計②原死因選択のルール
- 第 10 回 ICD-10 の使用方法①第 2 巻「内容例示表」
- 第 11 回 ICD-10 の使用方法②第 3 巻「索引表」
- 第 12 回 ICD-10 の使用方法③診断名の構成と分類軸
- 第 13 回 ICD-10 の使用方法④基本的コーディング・ガイドライン⑤複合病態分類と二重分類
- 第 14 回 腫瘍の分類
- 第 15 回 医療行為の分類

評価方法

課題・定期テスト 100%

使用教材

診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅳ、診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅳ、ICD-10 第 2 巻「内容例示表」（財団法人厚生統計協会）ICD-10 第 3 巻「索引」（財団法人厚生統計協会）

授業外学習の内容

次回授業範囲のテキストを必ず読んでおくこと

備考

診療情報管理士資格必修科目

分類法演習 I (専門展開科目)

担当者

大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

「分類法総論」で学習した内容を基礎において、さらに実務面での具体的な留意点等の理解を深めつつ、主に頻度の高い疾病を中心にコーディング技術を習得する。

到達目標

医療現場で発生する疾病・障害と、それに対応する医療行為について、「国際疾病分類 (ICD)」「ICD-9-CM」を使い、正しいコーディングが行える。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 国際疾病分類概論、コーディングを始めるにあたって
- 第 2 回 第 I 章感染症および寄生虫症 (A00-B99) の特徴および練習問題
- 第 3 回 第 I 章感染症および寄生虫症 (A00-B99) の練習問題 (退院要約)
- 第 4 回 第 II 章新生物 (C00-D48) の特徴および練習問題
- 第 5 回 第 II 章新生物 (C00-D48) の練習問題 (退院要約)
- 第 6 回 第 III 章血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50-D89) の特徴および練習問題
- 第 7 回 第 III 章血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50-D89) の練習問題 (退院要約)
- 第 8 回 第 IV 章内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)
- 第 9 回 第 V 章精神および行動の障害 (F00-F99)
- 第 10 回 第 VI 章神経系の疾患 (G00-G99)
- 第 11 回 第 VII 章眼および付属器の疾患 (H00-H59)
- 第 12 回 第 VIII 章耳および乳様突起の疾患 (H60-H95)
- 第 13 回 第 IX 章循環器系の疾患 (I00-I99) の特徴および練習問題
- 第 14 回 第 X 章循環器系の疾患 (I00-I99) の練習問題 (退院要約)
- 第 15 回 まとめ

評価方法

受講態度・定期試験

使用教材

- ・診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅳ専門・国際疾病分類法編発行日本病院会
- ・疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2003 年版) 準拠第 2 巻内容例示表発行財団法人厚生統計協会
- ・疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2003 年版) 準拠第 3 巻索引表発行財団法人厚生統計協会

授業外学習の内容

前回の授業内容を復習すること・次回授業範囲を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。

備考

分類法演習Ⅱ（専門展開科目）

担当者

大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

「分類法総論」で学習した内容を基礎において、さらに実務面での具体的な留意点等の理解を深めつつ、主に頻度の高い疾病を中心にコーディング技術を習得する。

到達目標

医療現場で発生する疾病・障害と、それに対応する医療行為について、「国際疾病分類 (ICD)」「ICD-9-CM」を使い、正しいコーディングが行える。原死因選択ルールを理解し、原死因の特定ができるようになる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 第 X 章呼吸器系の疾患 (J00-J99)
- 第 2 回 第 X I 章消化器系の疾患 (K00-K93)
- 第 3 回 第 X II 章皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)
- 第 4 回 第 X III 章筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)
- 第 5 回 第 X IV 章腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)
- 第 6 回 第 X V 章妊娠、分娩および産褥 (O00-O99) の特徴および練習問題
- 第 7 回 第 X V 章妊娠、分娩および産褥 (O00-O99) の練習問題 (退院要約)
- 第 8 回 第 X VI 章周産期に発生した病態 (P00-P96)
- 第 9 回 第 X VII 章先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)
- 第 10 回 第 X VIII 章症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)
- 第 11 回 第 X IX 章損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)
- 第 12 回 第 X X 章傷病および志望の外因 (V01-Y98)
- 第 13 回 第 X X I 章健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用 (Z00-Z99)
- 第 14 回 原死因コーディング
- 第 15 回 まとめ

評価方法

受講態度・定期試験

使用教材

- ・診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅳ専門・国際疾病分類法編発行日本病院会
- ・疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2003 年版) 準拠第 2 巻内容例示表 2006 年発行財団法人厚生統計協会
- ・疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2003 年版) 準拠第 3 巻索引表 2006 年発行財団法人厚生統計協会

授業外学習の内容

前回授業内容を復習すること。次回の授業範囲を予習し、用語の意味等を理解しておくこと

備考

診療情報管理ゼミ（専門展開科目）

担当者

木村 憲洋

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

これまで学んだ、基礎医学、専門・分類法、ICD-10、ICD-9CM の復習と実践を行う。

到達目標

病院において、診療情報管理士が利用する基礎医学などの知識について体系化しより高度に理解されることを目的とする。診療情報管理士としての総合的な知識の習得を目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 基礎医学① 解剖、生理、生化学
- 第 2 回 基礎医学② 悪性腫瘍
- 第 3 回 基礎医学③ 感染症、神経系、内分泌
- 第 4 回 基礎医学④ 呼吸器、消化器
- 第 5 回 基礎医学⑤ その他
- 第 6 回 専門・分類法① 医療制度
- 第 7 回 専門・分類法② 病院経営
- 第 8 回 専門・分類法③ 医療統計
- 第 9 回 専門・分類法④ 医療情報
- 第10 回 専門・分類法⑤ 診療情報管理
- 第11 回 コーディング① ICD-10①
- 第12 回 コーディング② ICD-10②
- 第13 回 コーディング③ ICD-9CM①
- 第14 回 コーディング④ ICD-9CM②
- 第15 回 コーディング⑤ サマリー

評価方法

定期試験（100%）

使用教材

使用教材：診療情報管理士テキストと問題集（全て）、ICD10 第二巻、ICD10 第三巻、ICD9CM 内容例示表、ICD9CM 索引表

授業外学習の内容

診療情報管理ゼミでは、課題が授業毎に提示されます。この課題を丁寧に調べ、回答してください。また、試験も授業中に行われますので、試験のために日々復習をする必要があります。

備考

診療情報管理士資格必修科目

医療事務論 I (医療事務の基礎知識) (専門展開科目)

担当者

大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

診療報酬請求に関する知識を学び、病院勤務に必要なスキルを身につける。

※『医療事務管理士』、『診療報酬請求事務能力認定試験』を受験する学生を対象とする。

※『医療事務管理士』取得希望の学生は必須。医療事務論 II とセットで受講すること。

到達目標

『医療事務管理士』資格取得に足る知識の習得

講義内容と講義計画

- 第 1 回 病院概論・医療保障制度
- 第 2 回 医療保障制度
- 第 3 回 請求事務の基本・上書き
- 第 4 回 診察料①
- 第 5 回 診察料②
- 第 6 回 医学管理料①
- 第 7 回 医学管理料②
- 第 8 回 在宅医療料
- 第 9 回 投薬料①
- 第 10 回 投薬料②
- 第 11 回 投薬料③・注射料①
- 第 12 回 注射料②
- 第 13 回 注射料③
- 第 14 回 処置料①
- 第 15 回 処置料②

評価方法

平常点、課題提出、定期試験等を総合的に評価する。(出席率 8 割未満の場合は単位取得不可。全課題提出が必要)。

使用教材

医科医療事務テキスト一式。(テキスト 1~3、トレーニングブック、サポートブック、レポート集、レセプト用紙、診療報酬点数表、索引 医科試験問題集) 価格 20,000 円 (税込)

授業外学習の内容

毎週課題提出 (テキストの練習問題、トレーニングブックのレセプト作成)

備考

実施した授業は復習し、次回の授業範囲を予習しておくこと。毎回電卓を持参すること。

医療事務論Ⅱ（点数計算とレセプトの書き方Ⅰ）（専門展開科目）

担当者

大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 2 単位

講義目標

診療報酬請求に関する知識を学び、病院勤務に必要なスキルを身につける。
『医療事務管理士』、『診療報酬請求事務能力認定試験』を受験する学生を対象とする。
『医療事務管理士』取得希望の学生は必須。医療事務論Ⅰとセットで受講すること。

到達目標

『医療事務管理士』資格取得に足る知識の習得

講義内容と講義計画

- 第 1 回 病院概論・医療保障制度
- 第 2 回 医療保障制度
- 第 3 回 請求事務の基本・上書き
- 第 4 回 診察料①
- 第 5 回 診察料②
- 第 6 回 医学管理料①
- 第 7 回 医学管理料②
- 第 8 回 在宅医療料
- 第 9 回 投薬料①
- 第 10 回 投薬料②
- 第 11 回 投薬料③・注射料①
- 第 12 回 注射料②
- 第 13 回 注射料③
- 第 14 回 処置料①
- 第 15 回 処置料②

評価方法

平常点、課題提出、定期試験等を総合的に評価する。（出席率 8 割未満の場合は単位取得不可。全課題提出が必要）。

使用教材

医科医療事務テキスト一式。（テキスト 1～3、トレーニングブック、サポートブック、レポート集、レセプト用紙、診療報酬点数表、索引 医科試験問題集）価格 20,000 円（税込）

授業外学習の内容

毎週課題提出（テキストの練習問題、トレーニングブックのレセプト作成）

備考

実施した授業は復習し、次回の授業範囲を予習しておくこと。毎回電卓を持参すること。

医療事務論Ⅲ（点数計算とレセプトの書き方Ⅱ）（専門展開科目）

担当者

大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

診療報酬請求に関する知識を学び、病院勤務に必要なスキルを身につける。
※『医療事務管理士』、『診療報酬請求事務能力認定試験』を受験する学生を対象とする。
※医療事務論Ⅰ・Ⅱを受講していること。
※『医療事務管理士』取得希望の学生は必須。医療事務論Ⅳとセットで受講すること。

到達目標

『医療事務管理士』資格取得に足る知識の習得

講義内容と講義計画

- 第 1 回 検査料①
- 第 2 回 検査料②
- 第 3 回 検査料③
- 第 4 回 手術料①
- 第 5 回 手術料②
- 第 6 回 麻酔料①
- 第 7 回 画像診断料①
- 第 8 回 画像診断料②
- 第 9 回 入院料①
- 第 10 回 入院料②
- 第 11 回 入院料③
- 第 12 回 公費負担医療
- 第 13 回 その他制度
- 第 14 回 点検・総括・まとめ
- 第 15 回 模擬試験

評価方法

試験と課題提出で総合的に評価する。（出席率 8 割未満の場合は単位取得不可。全課題提出が必要）。

使用教材

医科医療事務テキスト一式。（テキスト 1～3、トレーニングブック、サポートブック、レポート集、レセプト用紙、診療報酬点数表、索引 医科試験問題集）価格 20,000 円（税込）

授業外学習の内容

毎週課題提出（テキストの練習問題、トレーニングブックのレセプト作成）

備考

医療事務管理士の資格取得を目的とした受講する。実施した授業は復習し、次回の授業範囲を予習しておくこと。毎回電卓を持参すること。

医療事務論Ⅳ（公費負担医療他、総合演習）（専門展開科目）

担当者

大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

診療報酬請求に関する知識を学び、病院勤務に必要なスキルを身につける。
※『医療事務管理士』、『診療報酬請求事務能力認定試験』を受験する学生を対象とする。
※医療事務論Ⅰ・Ⅱを受講していること。
※『医療事務管理士』取得希望の学生は必須。医療事務論Ⅲとセットで受講すること。

到達目標

『医療事務管理士』資格取得に足る知識の習得

講義内容と講義計画

- 第 1 回 検査料①
- 第 2 回 検査料②
- 第 3 回 検査料①
- 第 4 回 手術料①
- 第 5 回 手術料②
- 第 6 回 麻酔料①
- 第 7 回 画像診断料①
- 第 8 回 画像診断料②
- 第 9 回 入院料①
- 第 10 回 入院料②
- 第 11 回 入院料③
- 第 12 回 公費負担医療
- 第 13 回 その他制度
- 第 14 回 点検・総括・まとめ
- 第 15 回 模擬試験

評価方法

試験と課題提出で総合的に評価する。（出席率 8 割未満の場合は単位取得不可。全課題提出が必要）。

使用教材

平常点、課題提出、定期試験等を総合的に評価する。（出席率 8 割未満の場合は単位取得不可。全課題提出が必要）。

授業外学習の内容

毎週課題提出（テキストの練習問題、トレーニングブックのレセプト作成）

備考

医療事務管理士の資格取得を目的とした受講とする。実施した授業は復習し、次回の授業範囲を予習しておくこと。毎回電卓を持参すること。

診療報酬請求事務論 I (専門展開科目)

担当者

大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 選択 2 単位

講義目標

難関資格取得を目標とし、診療報酬のスペシャリストとしてのスキルを習得する。
※『医療事務管理士』を取得し『診療報酬請求事務能力認定試験』を受験する学生対象。
※『診療情報管理士』取得希望者は必須とする。
※診療報酬請求事務論 II とセットで受講すること。

到達目標

診療報酬請求事務能力認定試験に合格するに足る知識の習得

講義内容と講義計画

- 第 1 回 医療保険制度
- 第 2 回 公費負担医療制度
- 第 3 回 保険医療機関等
- 第 4 回 療養担当規則
- 第 5 回 保険調剤のしくみ
- 第 6 回 医療関係法規
- 第 7 回 介護保険制度
- 第 8 回 初診・再診料
- 第 9 回 在宅医療料
- 第 10 回 注射料
- 第 11 回 手術料
- 第 12 回 検査料
- 第 13 回 リハビリテーション料
- 第 14 回 放射線料
- 第 15 回 総復習

評価方法

試験と課題提出で総合的に評価する。(出席率 8 割未満の場合は単位取得不可、全課題提出が必須)。

使用教材

診療報酬請求事務能力認定試験関係テキスト一式 (テキスト I・II、受験対策と予想問題集、診療点数早見表)
価格 11,000 円 (税込)

授業外学習の内容

毎週課題提出 (テキストの練習問題)

備考

実施した授業は復習し、次回の授業範囲を予習しておくこと。毎回電卓を持参すること

診療報酬請求事務論Ⅱ（専門展開科目）

担当者

大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 選択 2 単位

講義目標

難関資格取得を目標とし、診療報酬のスペシャリストとしてのスキルを習得する。
※『医療事務管理士』を取得し『診療報酬請求事務能力認定試験』を受験する学生を対象とする。
※『診療情報管理士』取得希望者は必須とする。
※診療報酬請求事務論Ⅰとセットで受講すること。

到達目標

診療報酬請求事務能力認定試験に合格するに足る知識の習得

講義内容と講義計画

- 第 1 回 後期高齢者医療制度
- 第 2 回 公費負担医療制度
- 第 3 回 保険医療機関等
- 第 4 回 療養担当規則
- 第 5 回 薬学の基礎知識
- 第 6 回 医療関係法規
- 第 7 回 介護保険制度
- 第 8 回 医学管理料
- 第 9 回 投薬料
- 第 10 回 処置料
- 第 11 回 麻酔料
- 第 12 回 画像診断料
- 第 13 回 精神科専門療法料
- 第 14 回 入院料
- 第 15 回 総復習

評価方法

試験と課題提出で総合的に評価する。（出席率 8 割未満の場合は単位取得不可。全課題提出が必要）。

使用教材

診療報酬請求事務能力認定試験関係テキスト一式（テキストⅠ・Ⅱ、受験対策と予想問題集、診療点数早見表）
価格 11,000 円（税込）

授業外学習の内容

毎週課題提出（テキストの練習問題）

備考

実施した授業は復習し、次回の授業範囲を予習しておくこと。毎回電卓を持参すること。

医療経済学（専門展開科目）

担当者

町田 修三

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

将来、医療関連の現場で働く可能性のある学生が、医療経済関連の知識や医療の実態を学び、専門家としての基礎知識を身につける。

到達目標

下に示す講義内容の各トピックについて正しく理解し、他者に対して説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 インTRODakション：日本の医療の基礎知識
- 第 2 回 医療需要（医療需要の特徴）
- 第 3 回 医療の供給体制（医療労働市場、医療の質）
- 第 4 回 国民医療費の分析
- 第 5 回 診療報酬と薬価制度（医療と薬剤の価格の決め方）
- 第 6 回 日本の医療制度と医療改革
- 第 7 回 世界の医療制度Ⅰ（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ）
- 第 8 回 世界の医療制度Ⅱ（途上国と新興国）
- 第 9 回 医療マネジメントⅠ（病院の経営分析）
- 第10回 医療マネジメントⅡ（選ばれる病院になるための戦略）
- 第11回 医薬品産業の分析Ⅰ（製薬企業の行動と産業構造）
- 第12回 医薬品産業の分析Ⅱ（医薬品卸企業の行動と産業構造）
- 第13回 薬剤経済学Ⅰ（薬剤の費用－効果分析、モデル分析）
- 第14回 薬剤経済学Ⅱ（演習）
- 第15回 全体のまとめと確認テスト

評価方法

定期試験 80%、講義評価（コメントペーパー、小レポート）20%で評価する。

使用教材

必修テキストはないが、推薦テキストは多数ある。講義の中で紹介する。講義に使用する教材や資料、データは、適宜授業中に配布する。

授業外学習の内容

毎回の授業に先立って、レジメ、統計資料、特集記事等を配布するので、予習して授業に臨むこと

備考

ソフトウェア工学（専門展開科目）

担当者

小杉 尚子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

ソフトウェアの規模は拡大の一途をたどっており、大規模なソフトウェアを効率的に正しく作成するためには適切な方法論が必要である。本講義では、大規模ソフトウェア開発のための基本的な方法論を学ぶ。

到達目標

大規模ソフトウェア開発に係る様々な課題を理解し、課題解決への取り組みについて説明できる。ソフトウェアの開発工程を理解し、その中で最も重要かつ困難な「要求分析」について、しっかり理解して説明することができる。また、開発したソフトウェアの品質管理のために重要なテストと検証について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス
- 第 2 回 大規模ソフトウェア開発の課題
- 第 3 回 ソフトウェアの開発工程
- 第 4 回 プロジェクト管理
- 第 5 回 要求分析
- 第 6 回 構造化分析
- 第 7 回 オブジェクト指向分析
- 第 8 回 アーキテクチャ設計
- 第 9 回 ユーザインタフェース設計
- 第10回 モジュール設計
- 第11回 プログラミング
- 第12回 テストと検証 (1)
- 第13回 テストと検証 (2)
- 第14回 保守
- 第15回 再利用

評価方法

期末試験 85%，授業参加度 15%

使用教材

「情報工学レクチャーシリーズ ソフトウェア工学」、高橋直久・丸山勝久共著、森北出版株式会社、2010 年、3000 円

授業外学習の内容

指定した教科書の該当部分を事前・事後に読んで自習しておくこと

備考

関連資格：IT パスポート

インターネット概論（専門展開科目）

担当者

長澤 亨

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

私たちの生活はインターネットとの関わりが深まり、欠かすことができなくなっている。このため、IT を専門とする人は勿論のこと、PC やスマートフォンを扱う人はインターネットを有効に活用するために必要な、ネットワークに関する基本的な知識とインターネットアプリケーションに関する知識を修得する。

到達目標

インターネットの基本を説明できる。インターネットアプリケーションを説明できる。インターネットを利用に必要なセキュリティについて説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 LAN で使われる技術
- 第 2 回 LAN と WAN、ゲートウェイによるネットワーク接続
- 第 3 回 ルーティング
- 第 4 回 VPN
- 第 5 回 無線 LAN
- 第 6 回 ウェブサービス、メール、FTP、DNS、NTP
- 第 7 回 ウェブページ構成技術
- 第 8 回 CMS、検索サイト、動画配信
- 第 9 回 ネットワークセキュリティ
- 第10回 ファイアウォールと DMZ
- 第11回 ウイルスとウイルス対策
- 第12回 コンテンツフィルタリングと情報漏えい
- 第13回 ネットワークの構築とネットワーク構成図
- 第14回 ネットワーク機器とネットワーク分割
- 第15回 ネットワーク運用と監視、障害対策

評価方法

中間試験 50%、学期末試験 50%で評価する。

使用教材

図解ネットワーク仕事で使える基本の知識、増田若菜、技術評論者

授業外学習の内容

次回の授業内容を予習し、専門用語を理解しておくこと。

備考

キーワード：Internet

高校教諭一種「情報」資格必修科目

資格との関連：IT パスポート、基本情報技術者試験、医療情報技師

社会生活とネットワーク（専門展開科目）

担当者

竹内 裕之

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

インターネットが社会生活と大きな係わりを持つようになってきている。本講義では、学生がこのようなネットワーク社会の利便性や問題点・課題に関する理解を深め、情報通信技術の健全な活用法を学ぶことを目的とする。

到達目標

インターネットの利便性だけでなく影の部分とその対策法につき理解する。

講義内容と講義計画

[基礎編]

- 第 1 回 導入・先端技術の紹介
- 第 2 回 インターネットとその仕組み
- 第 3 回 携帯電話とその仕組み
- 第 4 回 情報セキュリティとプライバシーの保護
- 第 5 回 暗号化と電子署名の仕組み
- 第 6 回 著作権等の知的所有権の保護
- 第 7 回 中間まとめ（中間試験を含む）

[応用編]

- 第 8 回 情報化と社会—サイバー空間と実空間—
- 第 9 回 行政サービスの電子化（電子政府）
- 第10回 Web ショッピング
- 第11回 e-コマース
- 第12回 健康管理サービス
- 第13回 医療サービスとネットワーク（1）—高度医療—
- 第14回 医療サービスとネットワーク（2）—地域医療—
- 第15回 まとめ（期末試験を含む）

評価方法

中間および期末試験の総合成績 80%、レポート課題提出 20%を基準とするが、出席日数・受講態度なども勘案する。

使用教材

- (1) 自作 ppt ファイルのプリント

授業外学習の内容

講義用 ppt ファイルを毎回事前に参照フォルダに入れておくので予習をしておくこと。

備考

デジタル信号処理（専門展開科目）

担当者

小杉 尚子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

情報通信技術の発展によって、アナログ信号はデジタル信号に変換されて、我々の生活に劇的な変化をもたらした。本講義では、デジタル信号処理の全体像を理解するとともに、その基盤となる信号、信号処理及び関連する数学の基礎知識を習得することを目的として学習を進める。最後はデジタル信号処理技術発展の中心である、音声・音響信号を中心にデジタル信号処理技術の応用を学ぶ。

到達目標

アナログ信号とデジタル信号の違いを理解し、アナログ信号からデジタル信号への変換処理について説明できる。周波数、振幅、サンプリング定理、時間分解能、周波数分解能などのデジタル信号処理における基本用語について説明することができる。デジタル信号処理を用いた技術について説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス
- 第 2 回 デジタル信号とは
- 第 3 回 AD 変換（サンプリングと量子化）
- 第 4 回 デジタル信号処理の目的（スペクトル解析など）、正弦波信号
- 第 5 回 畳み込みとインパルス応答
- 第 6 回 課題 1-1：正弦波信号
- 第 7 回 課題 1-2：正弦波信号の合成
- 第 8 回 フーリエ変換
- 第 9 回 サンプリング定理
- 第 10 回 時間分解能と周波数分解能
- 第 11 回 フィルタ
- 第 12 回 相関関数とパワースペクトル
- 第 13 回 音声信号処理
- 第 14 回 音声認識技術
- 第 15 回 まとめ

評価方法

期末試験 65%、小テストまたは課題 20%、授業参加度 15%

使用教材

「基本を学ぶ 信号処理」、浜田 望著、オーム社、平成 24 年、2500 円

授業外学習の内容

授業で使用した教材を、次回の講義までに読み返して復習しておくこと

備考

高校教諭一種「情報」資格選択科目

画像情報処理（専門展開科目）

担当者

児玉 直樹

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

情報通信技術の急速な発展により、画像処理技術は多くの産業分野で使用されるようになった。このため、画像処理のアルゴリズムを理解し、プログラミングできる能力を身につける必要がある。本講義ではデジタル画像の概念、画像処理技術を学ぶとともに、画像処理プログラミングも行なう。

到達目標

画像処理のアルゴリズムを理解し、画像処理に関するプログラミンスを作成できる。

講義内容と講義計画

前半に講義を行い、後半は画像処理演習を行う。

第 1 回 アナログとデジタル

第 2 回 標本化と量子化

第 3 回 ヒストグラム

第 4 回 濃度変換

第 5 回 空間化フィルタ

第 6 回 2 値化処理

第 7 回 膨張と収縮

第 8 回 パターン認識

第 9 回 画像処理演習 I（画像の表示）

第10回 画像処理演習 II（二値化処理）

第11回 画像処理演習 III（平滑化処理）

第12回 画像処理演習 IV（線検出）

第13回 画像処理演習 V（膨張と収縮）

第14回 画像処理演習 VI（パターン認識）

第15回 画像処理演習 VII（総合演習）

評価方法

期末試験の成績（50%）およびレポート課題（50%）により総合的に評価する。

使用教材

「デジタル画像処理入門」（CQ 出版社）を使用する

授業外学習の内容

テキスト内容について予習し、講義終了後にはプログラミング技法について復習すること。

備考

電子情報工学基礎（専門展開科目）

担当者

東福寺 幾夫

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

情報システムを構築するうえで、電子情報機器は必須の道具である。こうした電子情報機器の動作原理や仕組みを理解するために必要な、電気回路や半導体の基礎知識を習得する。

到達目標

3 年後期の「生体情報学Ⅱ」の実験テーマ 1, 2 の内容が理解できること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 直流回路 オームの法則
- 第 2 回 直流回路の解析 キルヒホッフの法則
- 第 3 回 直流電流計その応用
- 第 4 回 直流回路のまとめ
- 第 5 回 CR 回路と過渡現象
- 第 6 回 電磁誘導とコイルの性質
- 第 7 回 交流回路の電流と電圧
- 第 8 回 交流回路におけるコンデンサ・コイルとインピーダンス
- 第 9 回 交流回路のまとめ
- 第10回 半導体とダイオード
- 第11回 ダイオードの整流作用とへの応用
- 第12回 トランジスタ（バイポーラ型）の増幅作用と応用
- 第13回 半導体の応用（MOS 半導体と集積回路、パワー半導体）
- 第14回 半導体の応用（光センサ・太陽電池、LED）
- 第15回 半導体のまとめ

評価方法

出席状況・受講態度（10%）および期末試験（90%）の総合成績で評価する。

使用教材

自作のプリントを使用する。

授業外学習の内容

授業で習った部分につき、必ず復習を行うこと。

備考

シミュレーション概論（専門展開科目）

担当者

小杉 尚子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 選択 2 単位

講義目標

本講義の目的は、自然科学・社会科学の何れの領域でも利用されるシミュレーションの基本的考え方とその具体的例を学ぶことにより、シミュレーションの概要を理解することを目指す。

到達目標

シミュレーションやモデル化について理解し、エクセルなどのツールを用いて、シミュレーションに関連する処理を行える。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス
- 第 2 回 モデル化、シミュレーションとは
- 第 3 回 基礎数理 1：グラフ、接続行列、状態遷移図
- 第 4 回 基礎数理 2：線形計画法
- 第 5 回 基礎数理 3：数値計算による方程式の解法
- 第 6 回 基礎数理 4：確率・統計、乱数、モンテカルロ法
- 第 7 回 基礎数理 5：待ち行列
- 第 8 回 モデル化の基礎 1：モデル化とその分類
- 第 9 回 モデル化の基礎 2：図的モデル・動的モデルの作成
- 第10回 モデル化の基礎 3：モデル化とシミュレーション
- 第11回 基本モデルによるシミュレーション
- 第12回 物理現象のシミュレーション
- 第13回 社会現象のシミュレーション
- 第14回 身近な現象のシミュレーション
- 第15回 自然現象のシミュレーション

評価方法

各種課題レポート（70%）、授業への参加態度・貢献度（30%）により評価する。

使用教材

選定中

授業外学習の内容

授業で使用した教材を、次回の授業までに読み返しておくこと

備考

高校教諭一種「情報」資格必修科目。

計測と制御（専門展開科目）

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

電力・交通・通信などの社会インフラ、産業機械など、ほとんどすべてのシステムは自動化されており、これらの自動化を安定して支える基盤要素技術の一つが「計測と制御」である。我々のすむ快適な情報化社会もこうしたインフラの上に成立している。従って、計測・制御の基本的原理を理解することは、複雑なシステムを理解する上でも不可欠である。制御・計測の本質に迫るために、一番身近にある人間を考察対象として用いる。

到達目標

- ①自動制御システムの構成要素を用いたブロック線図がかけること
- ②フィードバック制御とフィードフォワード制御について、その実現方法と利点・欠点について説明できること。
- ③生物の学習・制御の階層性・多様性が情報処理に応用可能であることを理解すること

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義概要、生物は働きかける
- 第 2 回 相手の状態を知る
- 第 3 回 一定の状態を保つ
- 第 4 回 より柔軟な制御
- 第 5 回 制御・計測、学習のできる範囲
- 第 6 回 自然界と生物の最適性
- 第 7 回 進化のメカニズム・遺伝と学習
- 第 8 回 生物の中での情報処理
- 第 9 回 法則を抽出する
- 第10回 学習と記憶
- 第11回 人間と機械の協力
- 第12回 自分自身を制御する
- 第13回 情報マシンとしての人間
- 第14回 人間を助ける機械
- 第15回 機械が提供する世界

評価方法

レポート 60%，授業参加度 40%

使用教材

『制御と学習の人間科学』 コロナ社 斎藤正男著

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習しておくこと

備考

高校教諭一種「情報」資格必修科目

情報と職業（専門展開科目）

担当者

長澤 亨

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 選択 2 単位

講義目標

企業における情報化推進状況を把握・認識することにより、社会で求められる IT 技術の理想像を明確にし、その実現に資するために学校教育が目指すものはなんであるかを明確にする。

到達目標

- ①情報革新が社会（企業）をどのように変えているかを説明できる
- ②IT 技術者の処遇や育成の現状を説明できる
- ③情報イノベーションに対応した学校教育における IT 教育のあり方を理解する
- ④情報技術専門家としての、職業倫理観を身につける

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義概要
- 第 2 回 IT 技術者育成の重要性
- 第 3 回 企業における IT への期待の変化
- 第 4 回 インターネットのインパクト
- 第 5 回 企業での IT 活動動向
- 第 6 回 IT 推進組織
- 第 7 回 企業における IT 化の現状
- 第 8 回 IT による勤務形態の変化
- 第 9 回 IT 技術者とは
- 第10回 情報サービス業
- 第11回 IT 技術者のイメージと実像
- 第12回 高校での情報教育
- 第13回 大学での情報教育
- 第14回 総合的、将来的課題（1）
- 第15回 総合的、将来的課題（2）

評価方法

レポート課題 60%、授業参加度 40%で評価する。

使用教材

小暮仁著、『教科書情報と職業』日科技連出版社、2200 円

授業外学習の内容

次回の講義内容に関する教科書を読み、まとめておくこと。また、章末にある課題をインターネット等で情報収集してレポートにまとめておくこと。

備考

高校教諭一種「情報」資格必修科目新聞などを読み、社会や IT 技術の最新動向を把握すること。
システム技術者・情報処理技術者として就職を希望している人に、要求される企業における一般常識も適宜提供する。

情報処理演習Ⅱ（専門展開科目）

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

Excel はあらゆるビジネスシーンにおいてもっとも活用されている表計算ソフトである。本講義は、その Excel を活用して効果的に実務を行うためのさらに高度な技術、知識を習得することを目的とする。

到達目標

Excel 表計算処理技能認定試験 1 級に合格するに足る知識の習得

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス
- 第 2 回 ユーザ定義書式応用
- 第 3 回 ソルバー
- 第 4 回 データテーブル
- 第 5 回 Excel の環境の設定と変更
- 第 6 回 過去問題対策 (1) ピボットテーブル
- 第 7 回 過去問題対策 (2) データ分析
- 第 8 回 過去問題対策 (3) ソルバー
- 第 9 回 Excel の高度な機能
- 第10回 数式と計算
- 第11回 グラフ機能、オブジェクト
- 第12回 データベース機能
- 第13回 過去問題対策 (4) 模擬問題知識
- 第14回 過去問題対策 (5) 模擬問題実技
- 第15回 まとめ

評価方法

課題提出状況 (30%)、試験結果 (50%)、学習姿勢 (20%) で評価する。

使用教材

Excel 表計算処理技能認定試験 1・2 級問題集 サーティファイ ソフトウェア活用能力認定委員会

授業外学習の内容

毎回演習課題を出すので、演習課題の提出が遅れる場合は、授業時間外に PC 室を積極的に利用すること。

備考

Excel 表計算処理技能認定試験に対応。

WebプログラミングⅢ（サーバサイドプログラミング）（専門展開科目）

担当者

長澤 亨

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 2 単位

講義目標

Web プログラミングに関するスクリプト言語の特性を理解し、PHP 言語のプログラミングを習得する。また、クライアントの業務内容を理解し、それらのニーズに合わせたダイナミックな Web 上の業務コンテンツを作成を習得する。

到達目標

クライアントとサーバの関連を理解し説明できる。Web サーバ Apache の機能を理解し設定できる。CGI 言語の機能を理解し PHP 言語による簡単なアプリケーションを作成できる。データベース MySQL の機能を理解し PHP と連携した処理するプログラムを作成できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義概要と評価、上級 Web プログラミング認定試験
- 第 2 回 Apache と PHP のインストールと開発環境
- 第 3 回 PHP とは、PHP の書き方、PHP と HTML、コメントと変数
- 第 4 回 条件分岐 IF 文、比較・論理・三項演算子、Switch
- 第 5 回 ループ処理 for、While、do~while
- 第 6 回 関数とは、関数の使い方、PHP の主な関数
- 第 7 回 関数や変数のインクルード
- 第 8 回 配列 数値インデックスの配列、連想配列、配列関数
- 第 9 回 HTML フォームと PHP のやり取り
- 第10回 MySQL の基本
- 第11回 データベースの基本と SQL によるデータベース操作
- 第12回 PHP によるデータベース操作の基本
- 第13回 select 文のスクリプト
- 第14回 PHP の MySQL 操作の関数
- 第15回 PHP と MySQL の作品の仕上げ

評価方法

課題達成 50%、小テスト 50%で評価する。

使用教材

基礎からの PHP、Web 開発者のための PHP ベストサンプル集

授業外学習の内容

次回の講義内容を予習しておくこと

備考

キーワード：HTML, PHP, SQL, MySQL

Webデザイン I (専門展開科目)

担当者

坂本 孝

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

Web ページ制作に必要な基本的な画像編集から、Flash アニメーションを組み込んだ Web ページが制作できるまでを学ぶことを目的とする。

到達目標

画像を素材として加工し、独自に図形描画を加え、これをアニメーションに仕立てるまでができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Photoshop 画像編集 画像サイズ、解像度、フォーマットの変換
- 第 2 回 Photoshop 画像編集 範囲選択、写真合成
- 第 3 回 Photoshop 画像編集 自動選択、色域選択
- 第 4 回 Photoshop 画像編集 ぼかし、境界微調整、ノイズ除去
- 第 5 回 Photoshop 画像編集 色補正、明るさ補正
- 第 6 回 Photoshop 画像編集 透明化、グラデーション
- 第 7 回 作品制作
- 第 8 回 Flash アニメ制作 基本操作
- 第 9 回 Flash アニメ制作 基本アニメーション
- 第10回 Flash アニメ制作 レイヤー
- 第11回 Flash アニメ制作 ドローイング
- 第12回 Flash アニメ制作 グラデーション
- 第13回 Flash アニメ制作 モーションガイド
- 第14回 作品制作
- 第15回 作品制作

評価方法

課題提出状況 (80%)、学習姿勢 (20%) により評価する。

使用教材

自作教材を使用。

授業外学習の内容

毎回課題を出題するので、次回授業までに仕上げて提出すること。

備考

WebデザインⅡ（専門展開科目）

担当者

坂本 孝

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

様々なアニメーションの制作方法について学び、ユーザの操作に応じて動きが異なるインタラクティブなアニメーションを制作する技術を習得することを目的とする。

到達目標

Flash に搭載されたスクリプト言語 Action Script を使って、アニメーションの再生を制御することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 Flash アニメ制作 ペンツール
- 第 2 回 Flash アニメ制作 カラー効果アニメーション
- 第 3 回 Flash アニメ制作 シェイプアニメーション
- 第 4 回 Flash アニメ制作 写真アニメーション
- 第 5 回 Flash アニメ制作 マスク効果アニメーション
- 第 6 回 Flash アニメ制作 ムービークリップ (1)
- 第 7 回 Flash アニメ制作 ムービークリップ (2)
- 第 8 回 Flash アニメ制作 ボタン
- 第 9 回 Flash アニメ制作 ムービークリップボタン
- 第10回 Flash アニメ制作 アクションスクリプト (1)
- 第11回 Flash アニメ制作 アクションスクリプト (2)
- 第12回 Flash アニメ制作アクションスクリプト (2)
- 第13回 作品制作
- 第14回 作品制作
- 第15回 作品制作

評価方法

課題提出状況 (80%)、学習姿勢 (20%) により評価する。

使用教材

自作教材を使用。

授業外学習の内容

毎回課題を出題するので、次回授業までに仕上げて提出すること。

備考

受講条件：「Web デザインⅠ」を履修していること

オブジェクトプログラミング I (専門展開科目)

担当者

中村 賢治

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

プログラミングの初心者でも理解できるレベルの講義からスタートし、最新の JAVA の基礎を学ぶ。

到達目標

オブジェクト志向言語 JAVA の基本を理解すること

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義概要
- 第 2 回 Java の位置づけと多言語の比較
- 第 3 回 JAVA の基本 1
- 第 4 回 JAVA の基本 2
- 第 5 回 変数と型
- 第 6 回 演算子
- 第 7 回 オブジェクト 1
- 第 8 回 オブジェクト 2
- 第 9 回 条件分岐 1
- 第 10 回 条件分岐 2
- 第 11 回 繰り返し 1
- 第 12 回 繰り返し 2
- 第 13 回 配列とコレクション 1
- 第 14 回 配列とコレクション 2
- 第 15 回 まとめ

評価方法

レポート 60 点、授業参加度 40 点

使用教材

自作教材を使用する。

授業外学習の内容

毎回課題を出題するので、次回授業までに仕上げて提出すること。

備考

オブジェクトプログラミングⅡ（専門展開科目）

担当者

中村 賢治

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 選択 2 単位

講義目標

プログラミングの初心者でも理解できるレベルの講義からスタートし、最新の C++ の基礎を学ぶ。

到達目標

オブジェクトプログラミングの特徴を理解すること

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義概要
- 第 2 回 オブジェクトプログラムの特徴
- 第 3 回 C++ の基本 1
- 第 4 回 C++ の基本 1
- 第 5 回 条件分岐
- 第 6 回 繰り返し
- 第 7 回 配列
- 第 8 回 オブジェクト 1
- 第 9 回 オブジェクト 2
- 第 10 回 オブジェクト 3
- 第 11 回 継承 1
- 第 12 回 継承 2
- 第 13 回 期末課題
- 第 14 回 期末課題
- 第 15 回 まとめ

評価方法

レポート 60%、授業参加度 40%

使用教材

自作教材を使用する。

授業外学習の内容

毎回課題を出題するので、次回授業までに仕上げて提出すること。

備考

病院実習（応用展開科目）

担当者

児玉 直樹

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

病院実習は診療情報管理士になるために必要な知識・技術を身につけるために実施される。そのため、病院の基本的な機能の理解、入院および外来診療録の具体的な管理状況の理解、診療録管理部門の病院内で果たしている機能の理解、疾病統計・サマリー等がどのようなものかを具体的に理解するとともに、医療人としてのマナーや患者接遇についても学ぶ。

到達目標

病院における診療情報管理士の実践的業務を体験し、疾病統計やサマリーなどの診療情報管理士として必要な知識と技術を身につける。

講義内容と講義計画

実習内容は以下の通りである。

- (1) 病院の基本機能を理解する。
- (2) 入院および外来診療録の具体的管理状況を理解する。
- (3) 診療録管理部門の病院内で果たしている機能を理解する。
- (4) 疾病統計・サマリー等がどのようなものかを具体的に理解する。
- (5) 診療録の量的・質的点検の方法および編綴を実習する。
- (6) 記録の収納、検索、貸出業務を実習する。
- (7) 傷病名、手術・処置等のコーディングの補助業務を実習する。

なお、病院実習を履修するためには以下の要件を全て満たす必要がある。

- (1) 実習の内容は日本病院会の診療情報管理士認定試験の受験に必須の診療情報管理業務であり、この資格取得を目指している。
- (2) 病院実習までに、その時点までに開講された「診療情報管理士認定試験受験に必要な科目の単位」を全て取得している。
- (3) 事前の口頭試問等に合格している。
- (4) 事前の病院実習に関するレポートを提出している。
- (5) 模擬試験を受験し合格基準を満たしている。
- (6) 病院実習ガイダンスなどの説明会に全て出席している。

評価方法

実習病院から提出される診療情報管理病院実習個人評価票（100%）に基づいて評価する。

使用教材

授業外学習の内容

病院実習へ行く前に基礎知識やコーディング技術を予習するとともに、病院実習後には実習で得た知識や技術について振り返り理解できるまで復習すること。

備考

診療情報管理士資格必修科目（指定病院での 2 週間の実習）

インターンシップ（応用展開科目）

担当者

坂本 孝

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 2 単位

講義目標

社会人としての仕事への取組み方や就職活動への心構えなどを学び、キャリアデザイン力を向上させることを目的とする。

到達目標

インターンシップは、社会体験を通じて自らの将来について考える貴重な機会である。企業人が真摯に職業に取り組む姿についてレポートし、自らの職業選択についてデザインできるようにする。

講義内容と講義計画

4 月中旬 概要説明ガイダンス

5 月初旬～7 月中旬 事前研修（業界研究、ビジネスマナー研修、研修先調査、研修先への申し込み書類の作成）
夏休み 実地研修（1～2 週間）

10 月中旬 事後研修（研修報告会）

評価方法

事前研修と事後研修（課題提出、報告会への参加ならびに発表を含む）50%、実地研修（研修先の評価結果を含む）50%で評価する。

使用教材

必要に応じて配布します。

授業外学習の内容

業界研究課題等、資料をまとめる課題を出題するので自力で調査・研究する意欲、ねばり強さが必要。

備考

キャリアデザイン演習（応用展開科目）

担当者

小泉 英明

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

学生自らが生涯にわたるキャリアを展望しつつ、自分自身と、社会や仕事を見つめ直し、独自のキャリア・デザインに取り組めるようになることを目指す。また、自己認識と他者評価をもとに自分軸を固め、主体性を持って自身の将来像を描き、自ら未来を切り開く就業力を身につけることも目標とする。さらに、ケーススタディによってロールモデルやキャリアを考える際の指標や示唆を得つつ、キャリア・デザインだけでなく、今後の人生の学びに役立つよう支援する。

到達目標

1. 就業観を確立し、適切な就職活動を行えるよう基礎を固める
2. 時事問題から、社会、業界、企業の動向を探るようになる
3. 就業の目標設定と戦略、キャリア・ポートフォリオを作成し、自分軸を固める
4. 発表やディスカッションを通し、自己 PR 力を高める
5. 将来を見通す力と、自らのキャリア・デザイン力を向上させる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス・予測困難の時代と就職
- 第 2 回 新規学卒労働市場の仕組みと求められる人材
- 第 3 回 企業選択の指標と企業研究①
- 第 4 回 自己理解と他者評価
- 第 5 回 自己 PR 演習
- 第 6 回 伝える力の向上
- 第 7 回 企業選択の指標と企業研究②（発表）
- 第 8 回 時事問題
- 第 9 回 時事問題演習（グループディスカッション）
- 第10回 キャリア・ポートフォリオ
- 第11回 エントリーシート対策
- 第12回 働く意義と役割
- 第13回 面接対策演習
- 第14回 ロールモデルとキャリア指標
- 第15回 まとめ

評価方法

演習の取り組み状況・グループワーク＝60% 最終レポート＝40% ※出席態度を加味して総合評価

使用教材

授業時にプリントを配布

授業外学習の内容

事前の時事問題研究、与えられた課題の提出、各授業内容の復習

備考

特別ゼミ I (情報) (応用展開科目)

担当者

中村 賢治

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 1 単位

講義目標

情報処理試験の受験者が、合格に必要な最低限の知識を身に付けることを目的とする試験を受ける心構えを身に付け、知識を整理・確認する。

到達目標

情報処理試験の合格に必要な最低限の知識を身に付ける。

講義内容と講義計画

特別ゼミ I では、情報処理試験に出題された問題を中心に uptake、合格に必要な最低限の知識を身に付ける。そのために、授業毎に小テストを実施する。

第 1 回 セキュリティ 1

第 2 回 セキュリティ 2

第 3 回 企業と法務 1

第 4 回 企業と法務 2

第 5 回 ハードウェア

第 6 回 ソフトウェア

第 7 回 ネットワーク

第 8 回 システム開発

第 9 回 システム戦略

第10回 プロジェクトマネジメント

第11回 開発モデル

第12回 開発システム

第13回 プログラム言語

第14回 演習と解説

第15回 まとめ

評価方法

期末試験テスト 40%、授業毎のプリント 40%、授業への参加態度 20%で評価する。

使用教材

適宜指示する。

授業外学習の内容

授業の復習を必ずすること。小テストの内容は前回の授業の内容から出題する。

備考

情報コースのための情報処理試験対策授業である。

授業以外にも学習が必要であるため、自主的に試験勉強に臨む姿勢が必要である。

特別ゼミ I (医療) (応用展開科目)

担当者

木村 憲洋、大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 選択 1 単位

講義目標

病院と事務部門との関係の理解、病院経営における事務部門の役割について理解する。

到達目標

病院に関する理解と病院の事務部門に従事する上でのスキルの基本を理解する。

講義内容と講義計画

病院や病院経営に関する知識の習得と思考法、組織的に成果物を作成することを学ぶ。

- 第 1 回 病院とは
- 第 2 回 病院で働く人材
- 第 3 回 病院を取り巻く環境
- 第 4 回 病院の役割
- 第 5 回 病院と経営 1
- 第 6 回 病院と経営 2
- 第 7 回 病院における事務的な作業と事務部門の役割
- 第 8 回 病院と情報
- 第 9 回 病院における情報管理と実際
- 第10回 病院の情報管理と人材
- 第11回 病院と周辺産業 1
- 第12回 病院と周辺産業 2
- 第13回 病院の事務部門 1 (医事系)
- 第14回 病院の事務部門 2 (情報管理系)
- 第15回 病院の事務部門 3 (総務系)

評価方法

課題 100%で評価する。

使用教材

病院のしくみ、日本実業出版社
病院経営のしくみ、ナツメ社
病院はめんどくさい、光文社

授業外学習の内容

授業がシラバスで提示されたテーマで進められます。この授業は、全員が参加しなければなりません。そこで、授業に関しては、各授業のテーマについて個人が調べてくる必要があります。

備考

特別ゼミⅡ（情報）（応用展開科目）

担当者

中村 賢治

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 1 単位

講義目標

情報処理試験の受験者が、受験前に過去に出題された問題を多数解き、受験の模擬体験を積むことで、問題になじみむとともに、知識を整理・確認する。

到達目標

情報処理試験の過去の試験問題の解答を通して、試験合格に必要な知識を整理する。

講義内容と講義計画

特別ゼミⅡでは、情報処理試験に出題された問題を中心に上げ、過去問を中心に演習する。

第 1 回 授業概要説明

第 2 回 過去問演習と解説 1

第 3 回 過去問演習と解説 2

第 4 回 過去問演習と解説 3

第 5 回 過去問演習と解説 4

第 6 回 過去問演習と解説 5

第 7 回 過去問演習と解説 6

第 8 回 過去問演習と解説 7

第 9 回 過去問演習と解説 8

第10回 過去問演習と解説 9

第11回 過去問演習と解説 10

第12回 過去問演習と解説 11

第13回 過去問演習と解説 12

第14回 過去問演習と解説 13

第15回 まとめ

評価方法

期末試験 80%、授業への参加態度・貢献度 20%で評価する。

使用教材

適宜指示する。

授業外学習の内容

間違えた問題や分からない単語をノートにまとめること。定期的にノートをチェックする。

ノートの書き方は第一回授業で指示する。

備考

情報コースのための情報処理試験対策授業である。

授業以外にも学習が必要であるため、自主的に試験勉強に臨む姿勢が必要である。

特別ゼミⅡ（医療）（応用展開科目）

担当者

木村 憲洋、大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 選択 1 単位

講義目標

特別ゼミでは、基礎医学についての知識を深め、基礎医学についてより深い理解することを目的とする。

到達目標

より幅広く深い基礎医学の理解を目標とする。診療情報管理士教科書の基礎医学における教科書について大分理解できることを目標とし、問題集において 6 割程度できることを目標とする

講義内容と講義計画

- 第 1 回 医療概論
- 第 2 回 人体構造・機能論
- 第 3 回 臨床医学総論
- 第 4 回 臨床医学各論Ⅰ
- 第 5 回 臨床医学各論Ⅱ
- 第 6 回 臨床医学各論Ⅲ
- 第 7 回 臨床医学各論Ⅳ
- 第 8 回 臨床医学各論Ⅴ
- 第 9 回 臨床医学各論Ⅵ
- 第 10 回 臨床医学各論Ⅶ
- 第 11 回 臨床医学各論Ⅷ
- 第 12 回 医学用語
- 第 13 回 医学用語 2
- 第 14 回 医学用語 3
- 第 15 回 医学用語 4

評価方法

授業への参加度 50%、課題 50%で評価する。

使用教材

診療情報管理士教育問題集（基礎医学編）

授業外学習の内容

診療情報管理士の基礎・医学編の教科書と問題集を利用した宿題が出ます。毎週この課題について提出の必要があります。

備考

特別ゼミⅢ（情報）（応用展開科目）

担当者

中村 賢治

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 1 単位

講義目標

基本情報技術者試験合格を目指す学生を対象に開講する。特別ゼミⅢでは、午前試験対策を中心とする。基本的な知識を身に付けることを目標とする

到達目標

基本情報技術者試験の問題が解けるようになる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 授業概要と資格の説明
- 第 2 回 基礎理論
- 第 3 回 アルゴリズムとプログラミング
- 第 4 回 コンピュータ構成要素
- 第 5 回 システム構成要素
- 第 6 回 ソフトウェア
- 第 7 回 データベース
- 第 8 回 ネットワーク
- 第 9 回 セキュリティ
- 第10回 システム開発
- 第11回 プロジェクト・サービスマネジメント、プロジェクトマネジメント
- 第12回 経営戦略・システム戦略
- 第13回 企業と法務
- 第14回 演習問題とまとめ 1
- 第15回 演習問題とまとめ 2

評価方法

筆記試験及び課題の提出（80%）、授業への参加度（20%）により評価する。

使用教材

基本情報技術者問題集（インフォテック・サーブ）。
また、午前免除試験対策も行う

授業外学習の内容

自主的に過去問を解く。

備考

特別ゼミⅢ（医療）（応用展開科目）

担当者

木村 憲洋、大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 1 単位

講義目標

診療情報管理における専門・診療情報管理について理解を深める。

到達目標

診療情報管理における専門と診療情報管理についてより広く深い知識を習得する。診療情報管理士教科書の専門・診療情報管理について大方理解することを目標とし、問題集において 6 割できることを目標とする

講義内容と講義計画

- 第 1 回 医療管理総論
- 第 2 回 医療管理各論 病院管理
- 第 3 回 医療管理各論 医療の評価
- 第 4 回 医療情報学
- 第 5 回 医療情報学
- 第 6 回 医療情報学 病院の情報利用
- 第 7 回 医療統計学
- 第 8 回 診療情報管理総論
- 第 9 回 診療情報管理各論
- 第 10 回 診療情報管理各論 実務
- 第 11 回 診療情報管理 演習 1
- 第 12 回 診療情報管理 演習 2
- 第 13 回 診療情報管理 演習 3
- 第 14 回 診療情報管理 演習 4
- 第 15 回 診療情報管理 演習 5

評価方法

授業への参加度 50%と課題 50%で評価する。

使用教材

診療情報管理士教育問題集（専門・診療情報管理編）

授業外学習の内容

診療情報管理士の専門・診療情報管理編の教科書と問題集を利用した宿題が出ます。毎週この課題について提出の必要があります。

備考

特別ゼミⅣ（情報）（応用展開科目）

担当者

中村 賢治

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 1 単位

講義目標

基本情報技術者試験合格を目指す学生を対象に開講する。特別ゼミⅣでは、過去に出題された問題を解くことで、必要な知識の再確認を中心に行う。しかし、授業時間内だけで出題範囲を網羅することはできないので、時間外での学習が前提となる。

到達目標

基本情報技術者試験の問題が解けるようになる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 授業概要の説明
- 第 2 回 リスト、2 分木、探索アルゴリズム、整列アルゴリズム、プログラム構造
- 第 3 回 プロセッサ、メモリ、入出力デバイス、入力装置、システムの構成
- 第 4 回 システムの性能評価、記憶管理、タスク管理、ジョブ管理とデータ管理、開発ツールと OSS
- 第 5 回 ヒューマンインタフェースとマルチメディア、データベースの方式
- 第 6 回 LAN、インターネット技術
- 第 7 回 ソフトウェア要件定義、モジュール設計、ソフトウェア品質管理
- 第 8 回 開発プロセス・手法、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント
- 第 9 回 エンジニアリングシステム、ビジネスシステム、経営組織、OR
- 第10回 会計・財務、知的財産、IT 関連法規、標準化関連
- 第11回 ハードウェア、ソフトウェア、データベース
- 第12回 ネットワーク、情報セキュリティ、データ構造とアルゴリズム
- 第13回 選択言語対策 1
- 第14回 選択言語対策 2
- 第15回 演習とまとめ

評価方法

筆記試験及び課題の提出（80%）、授業への参加度（20%）により評価する。

使用教材

基本情報技術者問題集（インフォテック・サーブ）。

授業外学習の内容

教科書を読み予習を行う、自主的に過去問を解く。

備考

特別ゼミⅣ（医療）（応用展開科目）

担当者

木村 憲洋、大川 喜代美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 選択 1 単位

講義目標

診療情報管理士のコーディングとサマリーの理解のための演習であり、分類法をより理解する。

到達目標

ICD-10 と 9CM の正確なコーディングを習得する。コーディングの精度を上げることを目標とする

講義内容と講義計画

- 第 1 回 国際疾病分類概論
- 第 2 回 分類法Ⅰ
- 第 3 回 分類法Ⅱ
- 第 4 回 分類法Ⅲ
- 第 5 回 分類法Ⅳ
- 第 6 回 分類法Ⅴ
- 第 7 回 分類法Ⅵ
- 第 8 回 分類法Ⅶ
- 第 9 回 分類法Ⅷ
- 第 10 回 分類法Ⅸ
- 第 11 回 分類法Ⅹ
- 第 12 回 分類法 ICD-9CM1
- 第 13 回 分類法 ICD-9CM2
- 第 14 回 分類法 ICD-9CM3
- 第 15 回 分類法 ICD-9CM4

評価方法

授業への参加度・貢献度 50%、課題 50%で評価する。

使用教材

診療情報管理士教育問題集（専門・国際疾病分類法編）

授業外学習の内容

診療情報管理士の専門・分類法編の教科書と問題集を利用した宿題が出ます。毎週この課題について提出の必要があります。

備考

SPI講座 I (非言語能力 I) (応用展開科目)

担当者

石田 正史

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 1 単位

講義目標

SPI は、潜在的な業務遂行能力、職業適性、性格等を検査することを目的として、多くの大手企業をはじめとした入社試験などで採用にあたり活用している適性試験の 1 つである。能力適性検査と性格適性検査に大別され、前者はさらに言語能力検査と非言語能力検査に分かれる。本講座では、非言語能力検査の演習を通じて数理的な能力をつけることを目的とする。

到達目標

数学や理解の基礎的な内容を中心とした非言語分野の講義および問題演習を通して、正確かつスピーディーな問題処理能力をつけることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 SPI とは
- 第 2 回 基礎計算 ①分数、正負の加減乗除、公約数、公倍数
- 第 3 回 基礎計算 ②方程式、不等式等の計算
- 第 4 回 鶴亀算、年齢式、植木算
- 第 5 回 速さ (速さ、旅人算、流水算、通過算)
- 第 6 回 時計算
- 第 7 回 仕事算・給排水算
- 第 8 回 濃度
- 第 9 回 歩合算、割合
- 第10回 図形 ①平面図形と計量
- 第11回 図形 ②立体図形と計量、展開図
- 第12回 場合の数・確率 ①場合の数、順列、組合せ
- 第13回 場合の数・確率 ②確率
- 第14回 規則性の利用 (数列、魔法陣、植木算、方陣算)
- 第15回 記数法、演算、虫食い算

評価方法

期末試験 (70%)、授業内の小テスト (30%)、授業参加度などで総合的に評価する。

使用教材

数理的思考法 I・II 石田正史著 (文教出版)

授業外学習の内容

毎回小テストで理解度をチェックするので、不明な点は各回毎に解決すること。

備考

SPI講座Ⅱ（非言語能力Ⅱ）（応用展開科目）

担当者

石田 正史

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 1 単位

講義目標

検査と性格適性検査に大別され、前者はさらに言語能力検査と非言語能力検査に分かれる。
本講座では、非言語能力検査の演習を通じて数理的な能力をつけることを目的にする。

到達目標

数学や理科の基礎的な内容を中心とした非言語分野の講義および問題演習を通して、正確かつスピーディーな問題処理能力をつけることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 条件計算問題（矢印問題、PERT 法、ブラックボックス）
- 第 2 回 グラフとその領域（一次関数、二次関数、分数関数）
- 第 3 回 判断推理 ①論理
- 第 4 回 判断推理 ②集合
- 第 5 回 判断推理 ③文章推理
- 第 6 回 判断推理 ④順序、位置
- 第 7 回 資料 ①分布図、構成比
- 第 8 回 資料 ②指数、増加率
- 第 9 回 物理 ①電気回路
- 第 10 回 物理 ②運動理学
- 第 11 回 物理 ③てこ、滑車
- 第 12 回 非言語分野総復習
- 第 13 回 SPI 非言語模擬テスト ①
- 第 14 回 SPI 非言語模擬テスト ②
- 第 15 回 まとめ

評価方法

期末試験（70%）、授業内の小テスト（30%）、授業参加度などで総合的に評価する。

使用教材

数理的思考法Ⅰ・Ⅱ 石田正史著（文教出版）

授業外学習の内容

毎回小テストで理解度をチェックするので、不明な点は各回毎に解決すること。

備考

SPI講座Ⅲ（言語能力Ⅰ）（応用展開科目）

担当者

根本 敬彦

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

SPI の言語能力の各分野を網羅的に学習し、言語能力検査の出題傾向に即した問題演習を反復することによって、「就職力」の向上を図ることを目的とする。

到達目標

SPI の能力適性検査の成績による「足切り」の増加という事態を踏まえ、年々SPI のスコアが上昇傾向にあるだけに、80%以上の正答率をあげることを目指したい。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 言語能力の向上－ガイダンス
- 第 2 回 同意語・反意語
- 第 3 回 同音異義語・同訓異字
- 第 4 回 言葉の対応関係 (1)－包含関係・行為関係
- 第 5 回 言葉の対応関係 (2)－原料関係・用途関係
- 第 6 回 ことわざ・慣用句・故事成語 (1)
- 第 7 回 ことわざ・慣用句・故事成語 (2)
- 第 8 回 四字熟語
- 第 9 回 その他・語句の知識（敬語・難解語句・文法・誤記しやすい字）
- 第10回 文章読解 (1)－要旨把握・内容合致
- 第11回 文章読解 (2)－文章整序
- 第12回 文章読解 (3)－空欄補充
- 第13回 文章読解 (4)－特定語理解
- 第14回 総合問題 (1)
- 第15回 総合問題 (2)

評価方法

期末試験（60%）、学習態度（授業参加度、貢献度）（20%）、授業内の小テスト（20%）などで総合的に評価する。

使用教材

自作プリントを毎回配布する。

授業外学習の内容

実践的な「就職力」の向上を目的とする科目であることを十二分に自覚し、授業には積極的に取り組み、また授業内容の定着度を高めるため、復習は必ず行うこと。

備考

SPI講座Ⅳ（言語能力Ⅱ）（応用展開科目）

担当者

根本 敬彦

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 1 単

講義目標

就職試験における一般常識問題のうち、主に人文科学分野の各科目の頻出テーマについて講義し、問題解法のポイントを解説することによって、「就職力」の整備を行うことを目的とする。

到達目標

採用試験における一般常識問題（主として人文科学分野）を攻略するために、単なる暗記に終わらない「問題解法スキル」を修得し、正答率をあげることを目指したい。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 日本史 (1) ー 一律令国家の形成と衰退
- 第 2 回 日本史 (2) ー 中世の政治と文化
- 第 3 回 日本史 (3) ー 近世の政治と経済
- 第 4 回 日本史 (4) ー 近世の社会と文化
- 第 5 回 日本史 (5) ー 近現代の政治と経済
- 第 6 回 日本史 (6) ー 近現代の社会と文化
- 第 7 回 世界史 (1) ー 近代ヨーロッパの形成
- 第 8 回 世界史 (2) ー 市民社会の成長
- 第 9 回 世界史 (3) ー 二つの世界大戦
- 第10回 世界史 (4) ー 中国史（王朝史）
- 第11回 世界史 (5) ー 中国史（近現代史）
- 第12回 地理 (1) ー 気候・植生・土壌・地形
- 第13回 地理 (2) 世界各國地誌（アジア・アフリカ・アラブ諸国）
- 第14回 地理 (3) 世界各國地誌（ヨーロッパ・南北アメリカ・その他）
- 第15回 人文総合

評価方法

期末試験（60%）、学習態度（授業参加度、貢献度）（20%）、授業内の小テスト（20%）などで総合的に評価する。

使用教材

自作プリントを毎回配布する。

授業外学習の内容

実践的な「就職力」の向上を目的とする科目であることを十二分に自覚し、授業には積極的に取り組み、また授業内の定着度を高めるため、復習は必ず行うこと。

備考

医療情報ゼミ（応用展開科目）

担当者

医療情報学科教員

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

基礎知識・専門知識・専門展開科目を踏まえて、実践的な応用を通じて、医療や情報に関する理解を深めることを目的とする。

到達目標

医療コースでは、医療現場における基礎的な知識として、「医療事務管理士」に合格できるレベルであること。情報コースでは、「IT パスポート」に合格できる基礎的な知識を有していること。また、4 年次の卒業研究に繋ぐための各テーマに沿った基礎的な知識を修得する。さらに就職活動を通じて、企業研究、自己鍛錬の他、エントリーにおける文書化、自己アピールやディベートなどかできる素養を身に着けること。

講義内容と講義計画

医療コースと情報コースに分かれて必要資格の取得を目指す。

評価方法

期末試験（100%）により評価する。

単位認定の要件として

医療コースの学生は「医療事務管理士」、情報コースの学生は「IT パスポート」の試験に合格すること。

使用教材

授業外学習の内容

資格に合格できるように予習復習をしっかりと行うこと。

備考

医療情報学総合演習（応用展開科目）

担当者

学科全員

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 必修 2 単位

講義目標

2 年次より、「医療コース」と「情報コース」に分かれてそれぞれ「医療」と「情報」に軸足をおいて、「医療情報学」に関わる科目を学んできたが、ここでは健康医療分野での現実の課題と情報技術を有機的に結び付け、学生が問題解決能力を養い、社会の一員として活躍できる力を身につける。

到達目標

我が国の健康医療を取り巻く状況や課題を理解し、それら課題の有力な解決手段の 1 つとしてこれまで学んできた情報技術を捉える。

講義内容と講義計画

[医療を取り巻く状況]

- 第 1 回 医学と医療
- 第 2 回 医療経営
- 第 3 回 医療経済
- 第 4 回 医療倫理
- 第 5 回 医療の情報化
- 第 6 回 医療情報の標準化
- 第 7 回 中間まとめ（レポート課題）

[基盤となる情報技術]

- 第 8 回 診療情報管理
- 第 9 回 医用画像
- 第 10 回 医療統計
- 第 11 回 データネースとネットワーク
- 第 12 回 画像処理
- 第 13 回 マルチメディア
- 第 14 回 VR/AR
- 第 15 回 全体まとめ（レポート課題）

評価方法

2 回のレポート課題により評価する。

使用教材

各担当教員自作

授業外学習の内容

我が国の健康医療を取り巻く状況や課題について事前に調査し、問題意識をもって授業に臨む。

備考

各教員オムニバスで専門分野の講義を行うので、しっかりと勉強すること。

卒業研究（卒業研究）

担当者

学科全員

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期～4 年後期 必修 4 単位

講義目標

医療情報学についての勉学の総仕上げと位置付けられる。習得した知識・技術に基づき、教員の指導のもとに、特定のテーマの研究（調査・実験等）を自主的に行い、企画・討論・発表・文章作成の能力を涵養する。

到達目標

業研究を通じて未知なるものを探求する考え方や方法を身につける。研究の成果をプレゼンテーションする技術を身につける。研究結果を論文としてまとめることができる。

講義内容と講義計画

テーマは、学生の興味や卒業後の就職や進学に即して下記 3 分類から選択し、一定の成果を挙げる事が要請される。

- A 情報処理分野に関連したテーマ
 - B 医療・福祉分野における情報処理関連テーマ
 - C 医療・福祉・情報産業分野における情報処理のテーマ
- 3 年後期より各ゼミに別れ、研究を行う。

評価方法

卒業論文、発表、研究態度などを総合的に評価する。

使用教材

授業外学習の内容

決められた時間だけではなく、常に卒業研究に向きあう姿勢で取り組むこと。

備考

教師論（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

全学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

本講義を通して【到達目標】に掲げる内容を修得し、法令で定める「教育職員（教員）」の責務を踏まえ、教職に携わる者に相応しい資質や知識技能を獲得することを目的とする。

到達目標

教職を目指す者として必要となる①教育学の原理、思想、歴史の基礎的な知識、②現代の教育問題の基礎的な知識、③教職に携わる者として求められる資質や教育方法上の基礎的スキルを修得することを目指し、④教育問題を考察する際にはこれらの修得した知識やスキルを活用することができるようになること。

講義内容と講義計画

授業計画の概要は以下の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 ガイダンス（授業計画、試験・評価方法など）
- 第 2 回 教職にかかわる諸制度①（公教育法制）
- 第 3 回 教職にかかわる諸制度②（学校教育）
- 第 4 回 教職にかかわる諸制度③（学校教育）
- 第 5 回 教職にかかわる諸制度④（教員養成制度）
- 第 6 回 教職にかかわる諸制度⑤（教員の職務）
- 第 7 回 教職にかかわる諸制度⑥（教員の職務）
- 第 8 回 教職にかかわる諸制度⑦（教員と基本的人権・政治）
- 第 9 回 教育の原理①（人間の発達）
- 第10回 教育の原理②（人間と社会）
- 第11回 現代の教育をめぐる諸課題①（学力問題）
- 第12回 現代の教育をめぐる諸課題②（生徒指導）
- 第13回 現代の教育をめぐる諸課題③（教育改革）
- 第14回 国際比較を通して考える
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%＝貢献度・授業態度・提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については授業時に指示する。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

授業時に指示する授業外課題を行うこと。また、教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

教育心理学（教職関係科目）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位、健康栄養学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

本講義は、教育心理学を学ぶことを通じて、教育場面において、教師が児童生徒を理解し効果的な教育を行うためにはどのようにしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものである。講義を通じて学び考えたことを、児童生徒と接する際のヒントにしてほしい。

到達目標

1. 人間の発達の基本原則および発達に影響を及ぼす諸要因の働きについて説明できる。
2. 人間の学習過程（とりわけ動機づけ過程）について説明できる。
3. 障害児の発達・学習の過程について説明できる。
4. 教育評価の意義・目的・心理的影響について説明できる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 教育心理学とは
- 第 2 回 発達観の変遷 (1) 生涯発達
- 第 3 回 発達観の変遷 (2) 社会・文化と人間発達
- 第 4 回 発達の規定因 (1) 遺伝・環境論争
- 第 5 回 発達の規定因 (2) 遺伝・環境論争 その後
- 第 6 回 教育の最適期
- 第 7 回 発達段階と発達課題
- 第 8 回 学習への動機づけ
- 第 9 回 内発的動機づけ
- 第 10 回 原因帰属
- 第 11 回 学習性無力感
- 第 12 回 知的障害児の発達と学習
- 第 13 回 肢体不自由児の発達と学習
- 第 14 回 発達障害児の発達と学習
- 第 15 回 教育評価

評価方法

小テスト 30%、学期末テスト 50%、学期末レポート 20%。

使用教材

「教育心理学」 田中智志・橋本美保(監修) 遠藤 司(編著) 一藝社 2014 年 2,200 円+税

授業外学習の内容

前回の授業内容を十分に理解していなければ、次の授業は理解できない。毎回授業の最初に前回授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。また、次回授業で扱う内容については、予めテキストの該当箇所を読んでおくように。

備考

特別活動論（教職関係科目）

担当者

富岡 栄

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

特別活動は、学校生活に変化と潤いをもたらす重要なものであって、学校においては学習活動と並ぶ意義を有する。この授業では、明治以来わが国の学校教育において極めて重要な役割を果たしてきた特別活動につき、その歴史、実践、理論を概観する。

到達目標

学校教育には学習指導の他に特別活動の領域があり、児童・生徒の教育に重要な役割を果たしている。この授業では、学校教育において重要な位置を占めている特別活動について、その歴史、意味、実践などを幅広く考察し、教育実践を行う上での基本的な知識等を身に付けることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 明治期の課外活動
- 第 3 回 大正期の課外活動
- 第 4 回 昭和戦前期の課外活動
- 第 5 回 戦後初期の「自由研究」 第 1 回小テスト予定
- 第 6 回 「特別教育活動」から「特別活動」へ
- 第 7 回 学級活動
- 第 8 回 生徒会活動
- 第 9 回 学校行事（国旗掲揚・国歌斉唱など）
- 第 10 回 クラブ・部活動 第 2 回小テスト予定
- 第 11 回 学校保健・安全指導
- 第 12 回 給食指導
- 第 13 回 奉仕・ボランティア活動
- 第 14 回 学校事故
- 第 15 回 特別活動と学校教育（まとめ） 第 3 回小テスト予定

評価方法

評価は、授業中に行う 3 回の小テスト（約 70%）、授業貢献度（発言、質問、授業中の態度など。約 30%）、で行う。

使用教材

教材は適宜プリントを配布。

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回テーマについて然るべき予習をしておくこと。また、5 回目ごと的小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

学生諸君自身が学校時代に受けてきた種々の学校行事等を思い出しながら、学校における特別活動の意味を問

い直し、その有する重要性について深く自覚しつつ授業に参加することを望みます。

教育基礎論（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

全学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

教育学を学ぶ上での基礎的な知識となる、①教育の原理、思想、歴史、教育制度、現代的諸問題、様々な教育実践について理解し、概括的に知識を習得すること。②その際、様々な教育事象について、歴史や社会構造をふまえた観点から分析・理解・説明などができるようになること。

到達目標

①【講義目標】に記した内容を理解・修得し、②実際の教育問題の考察や解決にあたり、獲得した知識を活用できるようになること

講義内容と講義計画

授業計画の概要は以下の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 ガイダンス（授業計画、試験・評価方法など）
- 第 2 回 教育の原理と思想①（社会の中の教育）
- 第 3 回 教育の原理と思想②（教育への認識）
- 第 4 回 教育の原理と思想③（発達の理論）
- 第 5 回 近代公教育の歴史①（近代）
- 第 6 回 近代公教育の歴史②（現代）
- 第 7 回 公教育の諸制度①（教育基本法他）
- 第 8 回 公教育の諸制度②（教育課程）
- 第 9 回 公教育の諸制度③（教育課程）
- 第10回 現代の教育をめぐる諸課題（教育問題と教育実践）
- 第11回 現代の教育をめぐる諸課題（学力問題）①
- 第12回 現代の教育をめぐる諸課題（学力問題）②
- 第13回 国際比較の観点から見る日本の教育①
- 第14回 国際比較の観点から見る日本の教育②
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%＝貢献度・授業態度・提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については授業時に指示する。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

授業時に指示する授業外課題を行うこと。また、教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

教育制度論（教職関係科目）

担当者

深見 匡

開講学科と時期・単位

全学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

本講義を通して、「到達目標」に掲げる内容を理解・修得し、教育制度のあり方が教育の実質と深い関わりを持つことについて理解できるようになること。

到達目標

教職を目指す者が修得すべき教育学の基礎的な知識のうち、主として教育制度に関わる事項について習得することを目標とする。その際、社会の中にあつて教育を組織する枠組みである教育制度について、①近現代における（公）教育制度の歴史、②現行制度の仕組みと役割、③教育改革の諸構想の観点を中心に学ぶ。

講義内容と講義計画

授業計画の概要は以下の通り。詳細は初回の授業で提示する。

第 1 回 ガイダンス（授業計画、試験・評価方法について）

第 2 回 教育の組織化

第 3 回 教育の歴史①（近代公教育）

第 4 回 教育の歴史②（現代公教育）

第 5 回 教育の諸制度①（日本国憲法と教育基本法）

第 6 回 教育の諸制度②（学校体系）

第 7 回 教育の諸制度③（教育内容）

第 8 回 教育の諸制度④（教科書制度）

第 9 回 教育の諸制度⑤（学校と校務分掌）

第10回 教育の諸制度⑥（教育行政）

第11回 現代的課題①（学級編制など）

第12回 現代的課題②（教育の多様化・能力主義）

第13回 現代的課題③（参加と選択）

第14回 国際比較を通して考える

第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%：参加度、授業態度、提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については適宜授業中に指示をする。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

授業時に指示する授業外課題を行うこと。また、教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にもらいたい。

情報科教育法（教職関係科目）

担当者

長澤 亨

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期～3 年後期 必修 4 単位

講義目標

高校の普通教科「情報」および専門教科「情報」の指導をするにあたり、必要となる基礎的・基本的な知識や指導法を学び、情報教育の実践的な教育法を身につける。

到達目標

「情報」の講義目的・目標および内容を理解し、年間講義計画や本時の指導案を作成できる。本時の内容を指導案にそって授業を進め、講義目的・目標を達成できる。実践練習を通じて指導案の見直し改善ができる。

講義内容と講義計画

「前期」

- 第 1 回 情報科教育法のガイダンス
- 第 2 回 情報科の設置経緯と情報科の目標
- 第 3 回 情報科の学習内容、他教科との関連
- 第 4 回 学習指導要領
- 第 5 回 情報活用の実践力の指導方法
- 第 6 回 情報の科学的な理解の指導法
- 第 7 回 情報社会に参画する態度の指導法
- 第 8 回 情報科の教員として、総合的な学習の時間
- 第 9 回 コラボレーションとプレゼンテーション
- 第10回 評価の工夫
- 第11回 学習指導案の作成 1
- 第12回 学習指導案の作成 2
- 第13回 情報科とプレゼンテーション
- 第14回 授業形式の実習
- 第15回 情報教育に必要な知識

「後期」

- 第 1 回 情報社会
- 第 2 回 情報社会と個人
- 第 3 回 情報とメディア
- 第 4 回 デジタルと情報機器
- 第 5 回 デジタル表現
- 第 6 回 表現の工夫
- 第 7 回 表計算ソフト
- 第 8 回 プレゼンテーション
- 第 9 回 Web ページの利用
- 第10回 コミュニケーション
- 第11回 ネットワーク
- 第12回 情報管理・保護に関する法律
- 第13回 情報セキュリティ
- 第14回 情報システムと人間
- 第15回 問題解決

評価方法

レポート課題 20%と指導案 40%、および模擬授業 40%で評価する。

使用教材

情報科教育法 久野靖 辰巳丈夫 オーム社、高校社会と情報 岡本敏推 山極 隆 実教出版社、高等学校
学習指導要領解説 情報編 文部科学省 開隆堂

授業外学習の内容

次回の講義内容を予習し、終了後課題レポートを作成する。

備考

キーワード：情報科教育法資格関係：高等学校教諭一種免許「情報」資格必修科目

生徒指導論（教職関係科目）

担当者

深見 匡、山口 晃

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 1 単位、社会福祉学科 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

生徒指導とは、学校教育において、児童生徒の人格面や生活面での望ましい成長を促す働きかけである。現代の子どもたちをめぐっては、学力面のみならず、非行や問題行動、いじめ、不登校など様々な問題が指摘されている。この授業では、個別指導と集団指導の観点をふまえた、生徒指導の基礎的な理論と実践力（技術・方法）の修得を目標とする。そして生徒指導が子どもをめぐる諸問題にどのように役割をはたすことができるのか理解を深める。

到達目標

生徒指導の理論と実践力（技術・方法）の基礎的な内容について修得すること。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 生徒指導とは
- 第 2 回 生徒指導と教育課程（教科指導など）
- 第 3 回 生徒指導と教育課程（特別活動指導など）
- 第 4 回 生徒指導と生徒理解・教育相談
- 第 5 回 生徒指導の実践 1（生徒指導体制のあり方など）
- 第 6 回 生徒指導の実践 2（問題行動の様相と指導など）
- 第 7 回 生徒指導の実践 3（指導事例とその考察など）

評価方法

授業時のテスト・課題・期末試験の結果（70%）と平常点（30%）で評価する。詳細は初回の授業で指示する。

使用教材

適宜テキストを配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

進路指導論（教職関係科目）

担当者

深見 匡、宮川 清

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 1 単位、社会福祉学科 3 年前期 必修 1 単位

講義目標

学校教育において生徒に将来の職業に対する展望を開かせ、それに向けての自己設計への準備／心構えをつけさせるための働きかけが進路指導である。進路選択の主体はあくまでも生徒自身である。その援助に関わる理論・諸技術は、教育学・心理学のみならず社会学や経済学など広範な行動科学に及ぶ。本講義は、こうした進路指導に関わる基礎・基本にあたる知識と、実用的指導力を扶養することを目標とする。

到達目標

学校教育で活用される進路指導の手順や諸理論を理解し、生徒が適性に合った進路選択や職場生活に向かう力をもてるよう指導する力を獲得すること。

講義内容と講義計画

主な内容は次の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 進路指導とは 1（概論）
- 第 2 回 進路指導とは 2（憲法や社会との関わり）
- 第 3 回 保育園／幼稚園で「私は〇〇になりたい」と言わせる意義
- 第 4 回 中学 2 年生に「職場体験」に出させる意義
- 第 5 回 「進路意識」は発達心理の中で繰り返し構成／再編される事
- 第 6 回 「進路相談」のロールプレイ実習（進路適性検査など）
- 第 7 回 進路指導論のまとめ

評価方法

授業時のテスト・課題・期末試験の結果（70%）と平常点（30%）で評価する。詳細は初回の授業で指示する。

使用教材

適宜テキストを配布する。

授業外学習の内容

配布したテキストや資料について、授業時に指示した課題を行うこと。

備考

教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

教育相談（教職関係科目）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

全学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

- ①教育相談の意義や基本的な考え方について理解する。
- ②教師として児童・生徒の相談にのり、自己実現を援助するために必要な心構えならびに技術を習得する。
- ③教育相談の考え方を授業の中で活用し、生徒の学びを受容的・共感的に支える方法について理解する。

到達目標

- ①教育相談の意義と基本的な役割について説明ができる。
- ②相談の基本的な技法についてその特徴や目的を説明できる。また、これらの技法を授業内での演習やロールプレイで実際に活用することができる。
- ③教育相談の代表的な活用例である不登校について、その背景を理解し、教育的配慮の方法について説明できる。
- ④教育実習の研究授業のなかで、生徒との教育相談的関わりが必要とされる場面を具体的に想定し、シナリオとして作成することができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 教育相談とはなにか？：恋愛相談と教育相談
- 第 2 回 教育相談の世界を体験しよう：演習とロールプレイ
- 第 3 回 教育相談の実際：教員経験者によるゲスト講義
- 第 4 回 教育相談の基礎①：フロイトの精神分析に学ぶ：「無意識」と「夢」
- 第 5 回 教育相談の基礎②：フロイトの精神分析に学ぶ：事例検討
- 第 6 回 教育相談の基礎③：来談者中心主義に学ぶ：「受容」と「共感」
- 第 7 回 教育相談の基礎④：来談者中心主義に学ぶ：「自己一致」とはなにか
- 第 8 回 教育相談の基礎⑤：来談者中心主義と教育相談：ロールプレイによる演習
- 第 9 回 教育相談の基礎⑤：解決志向アプローチと教育相談
- 第10回 教育相談の基礎⑥：解決志向アプローチ：事例検討
- 第11回 教育相談の心を活かした授業展開①：研究授業のシミュレーション
- 第12回 教育相談の心を活かした授業展開②：グループワークとディスカッション
- 第13回 教育相談と学校社会①：映画「パリ 20 区、僕たちのクラス」に学ぶ（前半）
- 第14回 教育相談と学校社会②：映画「パリ 20 区、僕たちのクラス」に学ぶ（後半）
- 第15回 まとめ

評価方法

コミュニケーションカード 30%、シナリオ 30%、期末試験 40%により総合的に評価する。

使用教材

必要に応じてプリントを配布する

授業外学習の内容

レポート課題の作成と毎回の授業についてコミュニケーションカードを記入・提出することを課します。コミュニケーションカードには、当該授業で印象に残ったこととその理由を B5 版用紙 1 枚程度にまとめ、その週のうちに提出することとします。

教職指導 I (教職関係科目)

担当者

宮川清、瀧口典子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 1 単位、社会福祉学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

公私立を問わず『学校教育』に携わる教員は、教育の専門職として必要な指導力・教育力・人間力を具えなければならない。そのための基礎・基本は幅広い領域に及び、かつ、互いに関係しあうものである。ここでは、学生がその基盤をなす「教師力」と言える必修内容を学ぶ。

到達目標

学生がどの教壇に立っても通用する教師力の基礎を身につける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション・学校教育の源流：シビルミニマム
- 第 2 回 二つのニーズの流れ：国家的ニーズ（ナショナルスタンダード）
- 第 3 回 明治から現代までの学校教育史（職員会議の位置付けを例に）
- 第 4 回 学校現場の手法 I（学習成立の心理）
- 第 5 回 学校現場の手法 II（Ward's Shower 実習）
- 第 6 回 学校現場の手法 III（生徒指導の 3 機能）
- 第 7 回 学校現場の手法 IV（Role-play・DeBate 実習）
- 第 8 回 教育実習までの準備と教材研究
- 第 9 回 「ボイストレーニング」ー身体をほぐし、心を開くー
- 第 10 回 授業実習にあたって：学習指導要領、教科書、板書、発問など
- 第 11 回 『指導案の書き方』と『教育実習ノートの書き方』
- 第 12 回 先輩の経験に学ぶ
- 第 13 回 研究授業と授業研究会
- 第 14 回 学生による模擬授業と授業研究会 I
- 第 15 回 学生による模擬授業と授業研究会 II・講義のまとめ

評価方法

前半は 5 回以上に及ぶ演習問題の評価点。後半は平常点（70%）、提出物（30%）。さらに両者を加味したテストなどで総合的に評価する。

使用教材

配布プリント、演習問題、本学作成の『教育実習の手引き』など

授業外学習の内容

『教育実習の手引き』を事前に読み、諸課題の準備をする。

備考

教職指導Ⅱ（教職関係科目）

担当者

瀧口 典子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 必修 1 単位、社会福祉学科 4 年前期 必修 1 単位

講義目標

教職指導Ⅰを踏まえて、学生が教育実習前のより実践的な事前学習を行う。さらに、実習後の学習を通して、学生が現場体験の意味を問い直し、今後の課題解決と教職への意識・使命感を確立することを目的とする。

到達目標

学生がどの教壇に立っても通用する教師力の基礎を身につけ、教育実習をやり遂げる。さらに教育実習後、体験記の作成と報告会を通じて総括し、教育実践力を高める。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーションとボイストレーニング
- 第 2 回 初めて生徒に出会う時（自己紹介など、生徒の前に立つ実践）
- 第 3 回 学校で起こる諸問題とその対応について
- 第 4 回 学生による模擬授業と授業検討会
- 第 5 回 学生による模擬授業と授業検討会
- 第 6 回 学生による模擬授業と授業検討会
- 第 7 回 学生による模擬授業と授業検討会
- 第 8 回 学生による模擬授業と授業検討会
- 第 9 回 教育実習（巡回、個別指導など）
- 第10回 教育実習（巡回、個別指導など）
- 第11回 教育実習の交流とまとめ
- 第12回 教育実習体験記の作成
- 第13回 教育実習体験報告会について（話し合い）
- 第14回 教育実習体験報告会の準備
- 第15回 教育実習体験報告会

評価方法

教育実習校の評価（30%）を参考に、授業参加度・参加状況（50%）、「教育実習体験記録」の内容、「報告会」の発表等（20%）を加味して、総合的に評価を行う。

使用教材

本学作成の『教育実習の手引き』、配布プリント

授業外学習の内容

『教育実習の手引き』を事前に読み、模擬授業の指導案作成と教材研究をする

備考

高等学校教育実習（教職関係科目）

担当者

角野 善司

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 4 年前期 必修 2 単位

講義目標

学校教育の現場に実習生として参加し、教科指導、生活指導、学校の管理運営などについての理解を深める。

到達目標

教師として必要な態度や脳力を養い、教科や教職に関する地しい・理論・技術を活かして学校現場での生徒の発達や人格形成の促進のために実践的指導を行える。

講義内容と講義計画

4 年次の 5, 6 月、または秋に 2 週間の教育実習を行う。

評価方法

実習校における評価を踏まえて担当教員が評価の原案を作成し、教務委員会教職専門部会において判定会議を行う。

使用教材

授業外学習の内容

教壇実習に必要な教材研究や学校指導案の作成を各自で行う。

備考

教職実践演習（高）（教職関係科目）

担当者

角野善司、瀧口典子

開講学科と時期・単位

医療情報学科、社会福祉学科 4 年後期 必修 2 単位

講義目標

学生が、教員としての使命感や責任、教育的愛情を携えた上で、なおかつ情報、福祉、公民の高等学校教員として各教科指導においても十分な責務を果たすことができるような資質・能力を獲得したことを確認し、さらにそれらの向上を目指す。この目的を達成するために、担当教員およびゲスト講師による講義、事例検討、実践レポートの分析、「学校」シリーズ（山田洋次監督作品）など視聴覚教材の活用、ディスカッション、グループワーク、ロールプレー実技などを取り入れ、教職学生の総合的な実力の向上を図る。

到達目標

①教員として教育現場に出るために、自らが克服すべき課題について整理・検討し、具体的かつ効果的な手段を講じることができる。②教員としてのコミュニケーション能力の向上を目的として、事例検討、ロールプレイ、ディスカッションなどに積極的に参加する。③保護者との関わり、学級経営、行事作り、職員会議など、実践的な課題について理解し、これらの課題の教育的重要性や困難さについて、説明できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション「教員として現場に出るために」：自己分析と克服すべき課題の確認
- 第 2 回 「教師のライフヒストリーを聴く」
- 第 3 回 事例検討：「気になる」生徒の理解とその方法（例：いじめ・発達障害）
- 第 4 回 事例検討：「気になる」生徒の理解とその方法：保護者との関わりを中心に
- 第 5 回 講義とディスカッション：学級経営の実際について
- 第 6 回 授業実践「指導案づくりのワークショップ」
- 第 7 回 講義とディスカッション：教員としての総合的資質について
- 第 8 回 実技：生徒とのコミュニケーションと表現活動
- 第 9 回 実技：他の教員とのコミュニケーションと連携・協力
- 第10回 事例検討：職員会議（テーマ：生徒指導の問題をめぐって）
- 第11回 ロールプレイ実技：職員会議（テーマ：生徒指導の問題をめぐって）
- 第12回 フィールド調査のための話し合い
- 第13回 フィールド調査準備
- 第14回 フィールド調査実施
- 第15回 総括

評価方法

授業への参加度と合わせ克服すべき課題の解決にむけた建設的かつ具体的努力の成果を総合的に評価する。

使用教材

必要に応じて配布資料を使用する。

授業外学習の内容

授業外活動として、レポートの作成を課します。また教員としての現場での連携力を養う目的で、他の教職学生との連絡や協働作業を積極的に行うことが必要となる状況や課題を設定します。

備考

生涯学習社会と図書館（司書科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について理解できる。

到達目標

高齢化社会の到来によって、従来の学歴社会から生涯学習社会への移行が進展している。図書館は、社会教育施設の中でも利用度が高く、「知の拠点」として大きな役割を果たすことが求められている。ここでは、地域住民の課題解決と学習支援サービスに対応できる有為な人材の育成が期待できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 生涯学習へのアプローチ
- 第 2 回 生涯学習・生涯教育論の展開と学習の実際
- 第 3 回 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携
- 第 4 回 生涯学習振興施策の立案と推進
- 第 5 回 教育の原理とわが国における社会教育の意義・発展・特質
- 第 6 回 社会教育行政の意義・役割と一般行政との関係
- 第 7 回 自治体の行財政制度と教育関連法規
- 第 8 回 社会教育の内容・方法・形態（学習情報の提供と学習相談、評価を含む）
- 第 9 回 学習への支援と学習成果の評価と活用
- 第10回 社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営と連携
- 第11回 社会教育指導者の役割
- 第12回 生涯学習の実際（群馬県生涯学習センターと指導者バンクについて）
- 第13回 生涯学習の実際（高崎市生涯学習推進本部の生涯学習推進計画）
- 第14回 生涯学習の実際（講演会・放送大学・フィールドワーク等）
- 第15回 生涯学習体験報告会・まとめのレポート

評価方法

まとめのミニレポート（各 UNIT の要約と朗読 CD の感想を課題に採点評価する。）

使用教材

朝比奈大作編著『図書館員のための生涯学習概論』（日本図書館協会）定価（本体 1,900 円＋税）

授業外学習の内容

指定した教科書の UNIT を事前に読んでおくこと。

備考

司書資格科目

図書館概論（司書科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

図書館の機能・意義・役割を理解し、図書館の歴史や現状、図書館職員、図書館の自由、各種および各国の図書館、図書館の類縁機関を解説し、今後の図書館を巡る課題や展望を考察する。

到達目標

図書館とは何か。図書館の理論や諸制度の基本的な知識を習得し、図書館を知的関心の対象として、図書館について深く考え、図書館という組織をもつ社会的意味を広い視野から説明できるようになることを目的とする

講義内容と講義計画

- 第 1 回 図書館の現状と動向
- 第 2 回 図書館の構成要素と機能および図書館サービス
- 第 3 回 図書館の業務モデル
- 第 4 回 図書館の社会的意義
- 第 5 回 文化伝承し保存する図書館
- 第 6 回 公共図書館の成立と展開
- 第 7 回 わが国における公共図書館の成立と発展
- 第 8 回 わが国における公共図書館の展開
- 第 9 回 図書館の種類と利用者（1）国立図書館と公共図書館
- 第10回 図書館の種類と利用者（2）大学・学校・専門図書館
- 第11回 図書館の類縁機関と図書館関係団体
- 第12回 図書館員とライブラリアンシップ
- 第13回 知的自由と図書館
- 第14回 図書館の課題
- 第15回 展望

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回レポートを提出してもらい評価する。
レポート 2 回（80%）、出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

使用教材：『図書館の基礎と展望』（ベイシック司書講座・図書館の基礎と展望 1）村健著、学文社

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また、指示した事項は必ず確認すること

備考

司書という資格を取得する上で、必須科目ではある。それだけでなく社会に出て、仕事をこなしていく上で、自分で学ぶということを必ず意識せざるを得ない場面に必ず直面する。その時、図書館という機関がどういうものであり、どういったサービスを提供するところであるか学ぶことは、きっと役に立ちます。指定したテキストの該当 unit を事前に読んでおくこと。本講義は司書科目の最初に受講することが望ましい。

図書館制度・経営論（司書科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年前期 必修 2 単位

講義目標

図書館の関係法規、図書館政策のもと、図書館計画、図書館経営、サービス計画、図書館評価、図書館形態について解説する

到達目標

生涯学習社会における図書館という視点を重視して、図書館経営や制度に関わる組織、管理・運営、各種図書館計画について学び、図書館マネジメントや制度的背景について説明できるようになることを目的とする

講義内容と講義計画

第 1 回 図書館の法的基盤（教育基本法、社会教育法、地方自治法）

第 2 回 図書館法

第 3 回 図書館行政

第 4 回 学校図書館・大学図書館の制度

第 5 回 国立国会図書館の制度

第 6 回 その他の図書館関係法規

第 7 回 図書館経営の意義と自治体行政

第 8 回 図書館業務の理論と実際

第 9 回 図書館の組織

第10回 図書館の組織・職員

第11回 図書館計画とマーケティング

第12回 図書館の施設整備計画

第13回 図書館のネットワーク

第14回 図書館業務とサービス評価

第15回 図書館の管理形態の多様化とまとめ

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回レポートを提出してもらい評価する。レポート 2 回（80%）、出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

『図書館経営論』永田治樹著（JLA 図書館情報学テキストシリーズ）日本図書館協会

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また指示した事項は必ず確認すること。

備考

司書という資格を取得する上で、必須科目である。それだけでなく社会に出て、仕事をこなしていく上で、自分で学ぶということを必ず意識せざるを得ない場面に必ず直面する。その時、図書館という機関がどういうものであり、どういったサービスを提供するところであるか学ぶことは、きっと役に立ちます。指定したテキストの該当 unit を事前に読んでおくこと。

図書館情報技術論（司書科目）

担当者

田村 拓郎

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

近年の情報機器の多様化や進歩には目覚ましいものがある。図書館においても CD、DVD、コンピュータソフトなどの多様なメディアやコンピュータに代表される各種の情報機器が整備されてきている。また、これらの図書館資料にネットワーク情報資源を加えて、図書館情報資源としてとらえる必要がある。図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、利用法について学習する。

到達目標

図書館業務やサービスに必要な、情報機器やコンピュータシステム等の情報技術の知識や技術について習得できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 講義全体のガイダンス
- 第 2 回 現代の生活と情報技術
- 第 3 回 図書館と情報機器
- 第 4 回 コンピュータにおける情報の表現
- 第 5 回 情報の蓄積媒体と入出力媒体
- 第 6 回 コンピュータネットワーク
- 第 7 回 コンピュータシステム技術
- 第 8 回 図書館業務システム
- 第 9 回 データベースシステム
- 第10回 検索エンジン
- 第11回 情報検索
- 第12回 電子資料の管理
- 第13回 コンピュータシステムの管理
- 第14回 デジタル図書館
- 第15回 まとめ

評価方法

出席・課題の提出状況（70%）、授業への参加態度・貢献度（30%）で評価する。

使用教材

使用教材は未定。

授業外学習の内容

演習課題の提出が遅れる場合は、授業時間外に PC 室を積極的に利用すること。

備考

司書資格必修科目

図書館サービス概論（司書科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

図書館サービスの考え方・構造を理解し、資料・情報提供、様々な図書館サービス、著作権、コミュニケーション等の基本を解説する

到達目標

図書館サービスは図書館の機能の具体化し実践する活動であり、図書館利用者と直結した大切な領域である。これからの図書館のあり方や自分が利用する図書館のサービスを点検できるようになることを目的とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 図書館サービスの意義
- 第 2 回 図書館サービス計画と業務分析
- 第 3 回 図書館サービスに関わる職員と外部資源の活用
- 第 4 回 来館者サービス
- 第 5 回 利用空間の整備
- 第 6 回 貸出サービスの構造
- 第 7 回 資料提供の展開
- 第 8 回 図書館サービスと著作権
- 第 9 回 情報提供サービスの意義
- 第 10 回 情報提供サービスの実際
- 第 11 回 課題解決支援サービス
- 第 12 回 障害者サービスと高齢者サービス
- 第 13 回 多文化サービスとその他のサービス
- 第 14 回 利用者との交流
- 第 15 回 まとめ

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回レポートを提出してもらい評価する。
レポート 2 回（80%）、出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

図書館サービス論（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ 3）小田光宏編著 日本図書館協会

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また、指示した事項は必ず確認すること

備考

司書という資格を取得する上で、必須科目である。それだけでなく社会に出て、仕事をこなしていく上で、自分で学ぶということを必ず意識せざるを得ない場面に必ず直面する。その時、図書館という機関がどういうものであり、どういうサービスを提供するところであるか学ぶことは、きっと役に立ちます。指定したテキストの該当 unit を事前に読んでおくこと。

情報サービス論（司書科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービスや情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源を理解し、利用者に対する図書館利用方法を支援し、発信型の情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

到達目標

高度情報社会といわれる現代社会では、各種の情報サービスが、高度に展開されている。図書館サービスとしてのレファレンス・サービスも資料提供を基にしたサービスだけでは充分でなく、新しい種々の情報サービスが提供されるようになった。その知識や技術を習得し、図書館利用者への資料・情報提供支援を的確に行なえるようにすることが目的である。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 情報サービスの概要
- 第 2 回 情報サービスの基礎（レファレンスサービス、オンライン検索サービス等）
- 第 3 回 情報サービスの基礎（利用案内、レフェラルサービス）
- 第 4 回 情報サービスの展開（読書相談、学習情報提供、地域情報提供、案内・紹介）
- 第 5 回 情報源の種類と評価
- 第 6 回 情報ニーズの理解と情報検索行動
- 第 7 回 レファレンスプロセス、レファレンス質問、インタビュー
- 第 8 回 検索戦略、情報源の選択、検定語の選定
- 第 9 回 データベースの検索機能、検索の実行、回答の提供と評価
- 第10回 情報サービスの管理
- 第11回 事実検索の情報源
- 第12回 文献検索の情報源
- 第13回 電子メディアの活用
- 第14回 発信型情報サービスの意義と活用
- 第15回 図書館利用教育

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回レポートを提出してもらい評価する。レポート 2 回（80%）、ミニテスト・出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

情報サービス論（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ5 4）小田光宏編著日本図書館協会

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また指示した事項は必ず確認すること

備考

司書という資格を取得する上で、必須科目である。それだけでなく社会に出て、仕事をこなしていく上で、自分で学ぶということを必ず意識せざるを得ない場面に必ず直面する。その時、図書館という機関がどうしても

のであり、どういうサービスを提供するところであるか学ぶことは、きっと役に立ちます。指定したテキストの該当 unit を事前に読んでおくこと。

児童サービス論（司書科目）

担当者

案田 順子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 2 年後期 必修 2 単位

講義目標

児童サービス（対象は乳幼児からヤングアダルトまで）の概要と意義、担当者の専門的職務、歴史的変遷と発展内容、児童資料の特色と選択、発達と学習への「読書」の役割、児童コレクションの形成と管理、さらにヤングアダルトサービスの概要と資料の特色を認識する。

到達目標

公共図書館における児童サービスの重要性を理解し、年齢別、資料別での具体的な仕事内容の認識と技法を身に付ける。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 児童サービスの概要と意義
- 第 2 回 児童サービス担当者の専門的職務
- 第 3 回 児童資料の類型
- 第 4 回 児童資料の特色と選択 1 絵本の種類とグレード
- 第 5 回 児童資料の特色と選択 2 児童文学 創作児童文学、昔話・伝承文学、詩
- 第 6 回 児童資料の特色と選択 3 ノンフィクション、レファレンスブック
- 第 7 回 児童資料の特色と選択 4 児童資料の出版と流通
- 第 8 回 児童資料の特色と選択 5 児童コレクションの形成と評価
- 第 9 回 児童サービスの業務 1 資料提供サービス
- 第 10 回 児童サービスの業務 2 情報サービス
- 第 11 回 児童サービスの業務 3 乳幼児サービス
- 第 12 回 児童サービスの方法・技術（読み聞かせとストーリーテリング）
- 第 13 回 絵本読み聞かせ指導
- 第 14 回 ヤングアダルトサービスの概要と資料の特色
- 第 15 回 児童サービス対象者向けオリジナル図書館案内の作成

評価方法

学期末筆記試験 60%、オリジナル図書館案内（児童向け）の作成 30%、授業参加度 10%による。なおオリジナル図書館案内（児童向け）作成に関する評価基準は、講義時に提示する。

使用教材

『児童サービス論』JAL 図書館情報学テキストシリーズⅡ…テキストは内容改訂が多いので、前年度のものを先輩から譲ってもらわないように!!

授業外学習の内容

近隣の公共図書館を来館し、現在の児童サービスの現状を実際に見聞して来てください。

備考

受講ルール：私語・携帯電話の使用・飲食については、授業の妨げになるため一切禁止。
学習上の助言：生涯教育の一環としての児童サービスの重要性を理解するとともに、どのようにすれば子ども達に読書の楽しさと喜びを伝えられるかについて学ぶ、大変有意義な授業です。特に各自がオリジナルの図書

館案内（児童向け）を作成することによって、児童サービスの内容を認識でき、キャリアプランへの構築へと繋がります。担当教員メールアドレス：janda@takasaki-u.ac.jp

情報サービス演習（司書科目）

担当者

井ノ口雄久、田村拓郎

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年通年 必修 4 単位、社会福祉学科 3 年通年 必修 4 単位

講義目標

情報サービスの設計から評価までの各種の業務、質問回答、情報源の評価、情報検索の実際、発信型情報サービスの実際を演習を通して、実践的な能力を養成する

到達目標

本科目は情報サービス概論の実際を学ぶ科目として、実際のレファレンスブックや様々な情報源を確認し、情報源の評価やデータベースの実際の利用を通して、レファレンスサービスの実際を体験し、図書館の現場できちんとした対応ができるようにすることが目的である。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 レファレンスサービスの方法と実際
- 第 2 回 参考図書の評価の実際（総記・哲学）
- 第 3 回 参考図書の評価の実際（歴史・社会科学）
- 第 4 回 参考図書の評価の実際（自然科学・技術）
- 第 5 回 参考図書の評価の実際（産業と芸術）
- 第 6 回 参考図書の評価の実際（語学・文学）
- 第 7 回 参考図書の評価の実際（総記・哲学）
- 第 8 回 質問回答の実際（総記・哲学・歴史）
- 第 9 回 質問回答の実際（社会科学・自然科学）
- 第10回 質問回答の実際（技術・産業・芸術）
- 第11回 質問回答の実際（語学・文学）
- 第12回 パスファインダーの作成方法
- 第13回 パスファインダーの作成の実際
- 第14回 利用案内の比較の方法
- 第15回 利用案内の比較の実施
- 第16回 情報検索の概要
- 第17回 情報検索システムの基本機能
- 第18回 主要な図書検索システムの概要
- 第19回 NDL-OPAC による検索
- 第20回 NACSIS-CAT による検索
- 第21回 TRC による検索
- 第22回 主要なサーチエンジンの概要
- 第23回 サーチエンジンによる検索の実際 1
- 第24回 サーチエンジンによる検索の実際 2
- 第25回 情報検索の実際 1
- 第26回 情報検索の実際 2
- 第27回 シソーラスの利用
- 第28回 検索システムの仕組み 1
- 第29回 検索システムの仕組み 2
- 第30回 情報機器の構成と利用法

評価方法

毎回のレポート（80％）出席状況及び出席態度（20％）

使用教材

講義中に適宜、レジюмеや課題を配布する

授業外学習の内容

講義中に指示する。

備考

司書という資格を取得する上で、必須科目である。それだけでなく社会に出て、仕事をこなしていく上で、自分で学ぶということを必ず意識せざるを得ない場面に必ず直面する。その時、図書館という機関がどういうものであり、どのようなサービスを提供するところであるか学ぶことは、きっと役に立ちます。特にこの演習は、ゼミ及び卒業研究に役立ちます。

図書館情報資源概論（司書科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 3 年前期 必修 2 単位

講義目標

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本について理解できる。

到達目標

高度情報化社会の進展に伴い、図書館環境も大きく変わりつつある。図書館が取り扱う資料も、これまでの印刷メディア・非印刷メディア以外に、情報技術がもたらした電子メディアから通信メディアにまで及ぶ。近未来の電子図書館構想を視野に入れて、多様化する図書館情報資源の有効活用について考えることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 図書館情報資源の意義（定義、情報と資料、類型）
- 第 2 回 図書館情報資源と図書館の自由（表現の自由と検閲）
- 第 3 回 印刷資料の類型と特質（図書・雑誌・新聞等）
- 第 4 回 非印刷資料の類型と特質（映像・音声資料等）
- 第 5 回 電子資料の類型と特質
- 第 6 回 ネットワーク情報資源の類型と特質
- 第 7 回 地域資料、行政資料（政府刊行物）、灰色文献
- 第 8 回 情報資源の生産（出版）と流通（主な出版者に関する基本的知識を含む）
- 第 9 回 図書館業務と情報資源に関する知識（主な著者に関する基本的知識を含む）
- 第 10 回 コレクション形成の理論（資料の選択、収集、評価）
- 第 11 回 コレクション形成の方法（選択ツールの利用、選定、評価）
- 第 12 回 人文・社会科学分野の情報資源とその特性
- 第 13 回 科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性
- 第 14 回 資料の受入・除籍・保存、管理（装備、補修、排架、展示、点検等を含む）
- 第 15 回 学習の整理と展望・まとめのレポート

評価方法

まとめのミニレポート（各 UNIT の要約と朗読 CD の感想を課題に採点評価する。）

使用教材

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』（日本図書館協会）定価（1,900 円＋税）

授業外学習の内容

指定した教科書の UNIT を事前に読んでおくこと。

備考

司書資格科目

情報資源組織論（司書科目）

担当者

太田 克子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 1 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 1 年後期 必修 2 単位

講義目標

図書館情報資源を利用しやすいように主題等によって配列し、資源へのアプローチを主題・タイトル・著者名等から可能にする一連の過程及び技術を資料組織という。これら技術の意義・機能を理解する。

到達目標

日本目録規則による書誌記述、日本十進分類法による分類、基本件名標目表による件名作業を理解する。図書館における資料組織の意義を理解する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 情報資源組織論の進め方、情報資源組織化の意義と理論
- 第 2 回 書誌コントロールと標準化
- 第 3 回 記述目録法①
- 第 4 回 記述目録法②
- 第 5 回 記述目録法③
- 第 6 回 記述目録法④
- 第 7 回 記述目録法⑤
- 第 8 回 主題分析の意義と考え方
- 第 9 回 主題分析と分類①
- 第 10 回 主題分析と分類②
- 第 11 回 主題分析と分類③
- 第 12 回 主題分析と分類④
- 第 13 回 主題分析と分類⑤
- 第 14 回 主題分析と索引
- 第 15 回 ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ、まとめ

評価方法

筆記試験 60%、授業参加度・受講態度・授業内小テスト 40%

使用教材

『情報資源組織法』志保田務高鷺忠美編著最新版（第一法規）定価 2,600 円（税別）

授業外学習の内容

教科書の「序説」を読んで参加すること。P190～P200 を読んでおくこと。必ず復習すること。

備考

『日本目録規則』1987 年版改定 3 版日本図書館協会目録委員会編（日本図書館協会）を図書館で実際に手にとって内容を確認しておくこと。

情報資源組織演習（司書科目）

担当者

太田 克子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 2 年通年 必修 4 単位、社会福祉学科 2 年通年 必修 4 単位

講義目標

図書館の実際の業務を想定して、情報資源の組織化に関する実習を行う。この過程を通して利用者の資料・情報探索のニーズを考え、図書館の対応のあり方を考える。

到達目標

「日本十進分類法」「基本件名標目表」「日本目録規則」を使用して分類及び件名作業及び、書誌データ作成をできるようにする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 情報資源組織演習の進め方
- 第 2 回 日本目録規則による書誌データの作成①
- 第 3 回 日本目録規則による書誌データの作成②
- 第 4 回 日本目録規則による書誌データの作成③
- 第 5 回 日本目録規則による書誌データの作成④
- 第 6 回 日本目録規則による書誌データの作成⑤
- 第 7 回 日本目録規則による書誌データの作成⑥
- 第 8 回 日本目録規則による書誌データの作成⑦
- 第 9 回 日本目録規則による書誌データの作成⑧
- 第10回 日本目録規則による書誌データの作成⑨
- 第11回 日本目録規則による書誌データの作成⑩
- 第12回 日本目録規則による書誌データの作成⑪
- 第13回 集中化・共同化による書誌データ作成
- 第14回 書誌データ管理・検索システムの構築
- 第15回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成
- 第16回 日本十進分類法概説
- 第17回 日本十進分類法による分類作業（0 類）
- 第18回 日本十進分類法による分類作業（1 類）
- 第19回 日本十進分類法による分類作業（2 類）
- 第20回 日本十進分類法による分類作業（3 類）
- 第21回 日本十進分類法による分類作業（4 類）
- 第22回 日本十進分類法による分類作業（5 類）
- 第23回 日本十進分類法による分類作業（6 類）
- 第24回 日本十進分類法による分類作業（7 類）
- 第25回 日本十進分類法による分類作業（8 類）
- 第26回 日本十進分類法による分類作業（9 類）
- 第27回 日本十進分類法による分類作業（総合）
- 第28回 基本件名標目表による統制語彙①
- 第29回 基本件名標目表による統制語彙②
- 第30回 まとめ

評価方法

筆記試験 60%、授業参加度・授業態度・授業内小テスト 40%

使用教材

「情報資源組織演習」 和中幹雄ほか著 日本図書館協会

授業外学習の内容

教科書の UNIT1～2 を読んでおくこと。必ず復習をして学んだことを自分のものとする。

備考

「日本十進分類法」の第 2 区分表を覚えること

図書館サービス特論（司書科目）

担当者

案田 順子

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 1 単位、社会福祉学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

司書資格取得必修科目で学んだ内容を実際に司書業務の中に活かすには、カウンターサービス並びにフロアワークに必要なコミュニケーション能力を伸ばすことが不可欠である。特に日本人に固有なノンバーバル・コミュニケーションの理解と将来の超高齢化・少子化を考慮しながらのコミュニケーション能力の養成により、生涯学習としての図書館利用を促せるサービス環境の構築をめざす。

到達目標

この授業は対人業務に必要なコミュニケーション能力を学び、その能力を具体的に修得できるようにする。第一段階としてコミュニケーションの定義の正確な理解、第二段階では多種多様な利用者との場面設定を具体的に行い、円滑なコミュニケーションの実現と個々学生の対応力の養成を目指す。

講義内容と講義計画

- 第1回 コミュニケーションの必要性
- 第2回 ノンバーバル・コミュニケーションのメッセージ性
- 第3回 マスコミュニケーションと社会
- 第4回 若者文化とコミュニケーション
- 第5回 図書館サービスとコミュニケーションの関係
- 第6回 カウンターサービスとフロアワークの目的と意義
- 第7回 情報化の進展と図書館サービス
- 第8回 「モノ」と「コト」に付けられた「名前」

評価方法

学期末筆記試験は 70%、授業時間内提出物 20%、授業参加度 10%による。なお詳しい評価基準は、初回授業時に提示する。

使用教材

『コミュニケーション学入門』（大修館書店）、オリジナルプリント

授業外学習の内容

授業中だけでなく、普段から自分のコミュニケーション能力を磨くようにつとめましょう。

備考

資格に関する内容：司書資格科目

受講ルール：私語・携帯電話の使用・飲食は授業進行の妨げ、他受講生への迷惑、そして司書資格取得への意欲不足を示す行為であると考え厳禁とする。

キーワード：「ノンバーバルコミュニケーション」「フロアワーク」「カウンターワーク」「生涯学習」

学習上の助言：「コミュニケーションは苦手です…」という学生は積極的に授業に参加すること!!

担当教員メールアドレス：janda@takasaki-u.ac.jp

図書館情報資源特論（司書科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 1 単位、社会福祉学科 3 年後期 必修 1 単位

講義目標

必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し理解を深める観点から、図書館情報資源に関する領域の課題を選択し、高度化・多様化する学習ニーズに応えられる。

到達目標

図書館情報資源概論では、従来の図書館資料に電子資料とネットワーク情報資源を加えて、図書館情報資源としてとらえた。ここでは、図書館職員の情報資源に関する知識を充実させるために、各分野の情報資源にアクセスし、さらに発展的に学習し理解を深めることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 専門資料の情報アクセスについて
- 第 2 回 人文科学分野の情報資源の特性とアクセス
- 第 3 回 社会科学分野の情報資源の特性とアクセス
- 第 4 回 科学技術分野の情報資源の特性とアクセス
- 第 5 回 生活分野の情報資源の特性とアクセス
- 第 6 回 地域社会分野の情報資源の特性とアクセス
- 第 7 回 NIE（教育に新聞を！）の特性と活用
- 第 8 回 学習の整理と展望・まとめのレポート

評価方法

まとめのミニレポート（各 UNIT の要約と朗読 CD の感想を課題に採点評価する。）

使用教材

『図書館情報資源概論』の継続と新聞記事のスクラップ

授業外学習の内容

指定した教科書の UNIT を事前に読んでおくこと。

備考

司書資格科目

学校経営と学校図書館（司書教諭科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

学校図書館メディアを収集・整理・保存・提供する図書館サービスは、単に図書館内部の問題として考えられるだけでなく、学校教育の目的達成を支援するという基本的役割を担っていることを理解する。その上で、教師と司書教諭による協調（コラボレーション）の重要性と学校図書館の活動について説明できるようになることを目的とする。

到達目標

いきいきとした学校図書館の運営計画を立案できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 教育と学校図書館
- 第 2 回 学校図書館の発達と役割
- 第 3 回 制度としての学校図書館
- 第 4 回 教育課程と学校図書館
- 第 5 回 学校経営と学校図書館
- 第 6 回 学校図書館メディア
- 第 7 回 学校図書館の施設・設備
- 第 8 回 学校図書館経営のための諸組織
- 第 9 回 学校図書館の会計
- 第10 回 学校図書館経営
- 第11 回 学校図書館活動
- 第12 回 学校図書館活動の実際
- 第13 回 学校図書館の評価と改善
- 第14 回 学校図書館の課題と展望
- 第15 回 まとめ

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回のレポートを提出してもらい評価する。

レポート 2 回（80%）、出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

使用教材：『学校経営と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズ 01）古賀節子編最新版、樹村房

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また指示した事項は必ず確認すること。

備考

司書教諭資格科目指定したテキストは事前に読んでおくこと。

学校図書館メディアの構成（司書教諭科目）

担当者

小柳 聡美

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 4 年前期 必修 2 単位

講義目標

学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性等について学習し、その選択・収集・保存・提供等について考察する。特に各種メディアへのアクセスを容易にするための資料組織化の技術を習得する。

到達目標

学校図書館メディアの収集・組織・提供ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 学校図書館メディアの意義・役割
- 第 2 回 学校図書館メディアの種類・特性
- 第 3 回 学校図書館メディアの選択と構成
- 第 4 回 学校図書館メディアの組織化 (1) 分類の意義と機能
- 第 5 回 学校図書館メディアの組織化 (2) 日本十進分類法の概要
- 第 6 回 学校図書館メディアの組織化 (3) 日本十進分類法の使い方 ①
- 第 7 回 学校図書館メディアの組織化 (4) 日本十進分類法の使い方 ②
- 第 8 回 学校図書館メディアの組織化 (5) 日本十進分類法の使い方 ③
- 第 9 回 学校図書館メディアの組織化 (6) 件名標目表
- 第10回 学校図書館メディアの組織化 (7) 目録の意義と機能
- 第11回 学校図書館メディアの組織化 (8) 日本目録規則の概要
- 第12回 学校図書館メディアの組織化 (9) 日本目録規則の使い方 ①
- 第13回 学校図書館メディアの組織化 (10) 日本目録規則の使い方 ②
- 第14回 学校図書館メディアの組織化 (11) 目録の電算化
- 第15回 多様な学習環境と学校図書館メディアの配置

評価方法

筆記試験 80%、授業参加度・受講態度 20%

使用教材

『情報資源組織法』最新版志保田務高鷲忠美編著第一法規定価 2,600 円（税別）

授業外学習の内容

「日本十進分類法 第 2 次区分表」の暗記（使用教材に一覧表有）

備考

- ・司書教諭資格科目
- ・教育実習の際、学校図書館をよく観察すること

学習指導と学校図書館（司書教諭科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

学校図書館が教師の学ぶ場となり、司書教諭が教師の学習活動を支援することができるように、学校図書館メディアの活用について理解を図ることができる。

到達目標

学習指導における学校図書館メディア活用についての理解を図ることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 はじめに（教育課程の展開と学校図書館）
- 第 2 回 学校教育と学校図書館
- 第 3 回 カリキュラム編成と学校図書館
- 第 4 回 学習情報センターとしての学校図書館
- 第 5 回 発達段階に応じた学習指導のあり方
- 第 6 回 生涯学習の理念と学校図書館
- 第 7 回 現代社会におけるメディア活用能力
- 第 8 回 図書館利用の指導—その目的と理念
- 第 9 回 図書館利用の指導—その内容
- 第10回 図書館利用の指導—その方法と評価
- 第11回 メディア活用における諸問題
- 第12回 レファレンス・サービスの実際
- 第13回 情報の収集と提供
- 第14回 情報サービスとネットワークの活用
- 第15回 おわりに（まとめのレポート）

評価方法

授業への積極的な参加状況とまとめの課題レポートを総合評価する。

使用教材

教科書：『学習指導と学校図書館』（司書教諭テキストシリーズ 03）堀川照代編著樹村房定価 1,943 円（本体 1,850 円＋税）

授業外学習の内容

指定した教科書の各章を読んでおくこと。

備考

司書教諭資格科目

読書と豊かな人間性（司書教諭科目）

担当者

斎藤 順二

開講学科と時期・単位

医療情報学科 4 年前期 必修 2 単位、社会福祉学科 4 年前期 必修 2 単位

講義目標

学校図書館の読書センターとしての仕事の実態を把握し、児童・生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法について理解を図ることができる。

到達目標

児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法について理解を図ることができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 はじめに（読書と人間形成）
- 第 2 回 読書の意義と目的
- 第 3 回 児童青少年の読書習慣と心の教育
- 第 4 回 情報社会と読書環境の整備
- 第 5 回 読書と学校図書館の役割
- 第 6 回 発達段階の読書指導
- 第 7 回 出版状況と図書資料の選択
- 第 8 回 読書資料の種類と特性
- 第 9 回 図書館資料としての漫画の利用
- 第 10 回 読書の指導方法
- 第 11 回 ストーリーテディング、読み聞かせ、ブックトーク
- 第 12 回 読書環境の整備（図書委員会活動・読書感想文等）
- 第 13 回 家庭、地域、公共図書館との連携
- 第 14 回 学校図書館と公共図書館との連携・協力
- 第 15 回 おわりに（まとめのレポート）

評価方法

授業への積極的な参加状況とまとめの課題レポートを総合評価する。

使用教材

教科書：『読書と豊かな人間性』（司書教諭テキストシリーズ 04）朝比奈大作編著 樹村房定価 1,943 円（本体 1,850 円＋税）

授業外学習の内容

指定した教科書の各章を事前に読んでおくこと。

備考

司書教諭資格科目

情報メディアの活用（司書教諭科目）

担当者

井ノ口 雄久

開講学科と時期・単位

医療情報学科 3 年後期 必修 2 単位、社会福祉学科 3 年後期 必修 2 単位

講義目標

学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。

到達目標

多様な情報メディアを授業に役立つように利用できること

講義内容と講義計画

- 第 1 回 現代生活と情報メディア
- 第 2 回 情報メディアの歴史
- 第 3 回 伝統的情報メディアとデジタルメディア
- 第 4 回 学習メディアとしての利点と選択
- 第 5 回 インターネットのしくみと活用
- 第 6 回 データベースの検索と利用
- 第 7 回 ソフトウェアとその利用
- 第 8 回 個別学習のための教育用ソフトウェア
- 第 9 回 問題解決学習のための情報探索
- 第10回 学びの共同体と協調学習支援環境
- 第11回 校内における学校図書館メディアの選択と構成
- 第12回 学校図書館と情報技術
- 第13回 知的財産権と著作権制度の概要
- 第14回 デジタル・ネットワーク社会の陥穽
- 第15回 学校図書館と情報メディア

評価方法

レポートによる。期中、期末の 2 回のレポートを提出してもらい評価する。
レポート 2 回（80%）、出席状況及び出席態度（20%）

使用教材

『新版 情報メディアの活用』山本純一他放送大学教育振興会

授業外学習の内容

講義中に紹介した資料は極力目を通すこと。また指示した事項は必ず確認すること。

備考

司書教諭資格科目

指定したテキストは事前に読んでおくこと。